

(様式第10)

神大医支 第

57号

令和 7年 10月 3日

厚生労働大臣 殿

開設者名

国立大学法人神戸大学長

藤澤 正 人

神戸大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和7年度の業務に関して報告します。

#### 1 開設者の住所及び氏名

住所	〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
氏名	国立大学法人神戸大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

#### 2 名称

神戸大学医学部附属病院
-------------

#### 3 所在の場所

〒650-0017 神戸市中央区楠町7丁目5-2
電話(078) 382-5111

#### 4 診療科名

##### 4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

##### 4-2 標榜している診療科名

###### (1) 内科

内科							
内科と組み合わせた診療科名等							
<input checked="" type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
<input checked="" type="radio"/>	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							
「神経内科」の診療内容は脳神経内科、「内分泌内科」の診療内容は糖尿病内分泌内科、「代謝内科」及び「リウマチ科」の診療内容は「内科」、「アレルギー疾患内科またはアレルギー科」の診療内容は「内科」、「呼吸器内科」、「皮膚科」等で提供している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

## (2) 外科

外科							
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
「消化器外科」の診療内容は食道・胃腸外科、「乳腺外科」及び「内分泌外科」の診療内容は乳腺・内分泌外科で提供している。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

## (3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科		11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

## (4) 歯科

歯科							
無							
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科	○	2矯正歯科		3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							
通常の歯科診療内容は歯科口腔外科で提供している。							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

## (5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	腫瘍・血液内科	2	肝臓・胆のう・膵臓外科	3	耳鼻いんご頭頸部外科	4	美容外科	5	形成外科
6	放射線腫瘍科	7	病理診断科	8	脳神経内科	9	リハビリテーション科	10	糖尿病内分泌内科
11	食道・胃腸外科	12	乳腺・内分泌外科	13	歯科口腔外科	14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

## 5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	
46				888	934	(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数	
医師	604	327	762.7	看護補助者	31	診療エックス線技師	0	
歯科医師	13	19	16.9	理学療法士	20	臨床 検査	臨床検査技師	73
薬剤師	72	3.45	75.4	作業療法士	7		衛生検査技師	0
保健師				視能訓練士	12		その他	0
助産師	45	0.475	45.475	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0	
看護師	967	6.275	973.2	臨床工学士	38	医療社会事業従事者	12	
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	44	
歯科衛生士	5	0	5	歯科技工士	2	事務職員	84	
管理栄養士	18	0	18	診療放射線技師	59	その他の職員	26	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	88	眼科専門医	13
外科専門医	73	耳鼻咽喉科専門医	16
精神科専門医	12	放射線科専門医	26
小児科専門医	25	脳神経外科専門医	12
皮膚科専門医	9	整形外科専門医	33
泌尿器科専門医	26	麻酔科専門医	26
産婦人科専門医	12	救急科専門医	11
		合計	382

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 病院長 黒田 良祐 ) 任年月日 令和 7 年 4 月 1 日

医療安全管理委員会委員(令和7年4月1日～)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	722.7 人	13.8 人	736.5 人
1日当たり平均外来患者数	1785.9 人	93.7 人	1879.6 人
1日当たり平均調剤数		1688.1	剤
必要医師数		180	人

必要歯科医師数	7	人
必要薬剤師数	25	人
必要(准)看護師数	432	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

#### 10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	36 床	心電計	有
集中治療室	663.6 ㎡	鉄筋コンクリート	人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	35.3 ㎡	病床数	(クラス100) 5 床	
	[移動式の場合]	台数	4 台	病床数	(クラス100以外) 63 床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積		36	㎡	
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	411 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動臨床化学分析装置		
細菌検査室	88 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	微生物分類同定分析装置 同定・薬剤感受性パネル自動測定装置		
病理検査室	278 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	クリオスタット、ウルトラマイクローム、染色装置		
病理解剖室	67 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、オートクレーブ、写真撮影機		
研究室	429 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
講義室	1217 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	6 室	収容定員 1082 人	
図書室	2145 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	1 室	蔵書数 約15万 冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

#### 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	89.8	%	逆紹介率	76.9	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		20414		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		18550		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1235		人
	D: 初診の患者の数		24105		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

#### 12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況

土井 智文	日本赤十字病院神戸 赤十字病院 副院長兼内科部長	○	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する その他学識経験を有する者	無	1
丸山 英二	京都府立医科大学 大学院医学研究科 客員教授(非常勤)		医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する その他学識経験を有する者	無	1
花田 裕之	一般財団法人 神戸市学校給食会 会長		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

### 13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
ホームページ	





(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援下鼠径部ヘルニア修復術	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 対象は、鼠径部ヘルニアを有し、全身麻酔が可能な患者。腹腔内を膨らませた状態で、臍の左右に約1cmの皮膚切開をおき、それぞれポートを挿入し、計3ヶ所の鉗子・カメラをロボットシステムに装着する。術者は、コンソール(操作室)でそれらの鉗子进行操作し、手術を行う。従来の腹腔鏡下鼠径部ヘルニア修復術に比べ、手術時間の延長傾向はあるものの、術後合併症は同等もしくは有意に少なく、安全で有用とする報告がある。また、3次元画像による神経などの鼠径部の解剖を緻密に確認することが可能となり、重要な術後合併症の1つである慢性神経疼痛の軽減にも寄与すると考えられる。			
医療技術名	フリーズドライ多血小板血漿(PRP-FD)の局所注射療法	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 対象は、変形性関節症、副韌帯損傷、肩腱板断裂、腱付着部炎の患者。自分の血液を濃縮して作成した多血小板血漿をフリーズドライし(PRP-FD)、損傷部位へ注射投与を行う。PRP-FDは自分の血液から作られる製剤で、細胞増殖因子を多く含む事が特徴であり、それらが細胞を活性化することにより痛みや炎症(熱感、赤み、腫れ)を伴うことがある。多血小板血漿の作成は外部委託機関で作成する。PRPは再生医療の一種として、自由診療としてスポーツクリニック等で広く用いられており、疾患の初期においてはその有用性が報告されている。			
医療技術名	経皮的前立腺がんマイクロ波焼灼・凝固療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 対象は限局性前立腺がんの患者。マイクロ波手術器を用い、がん病巣に挿入した凝固用の針(直径1.6mm)の先端部(およそ2cm)のところで、2,450MHzのマイクロ波を発生させ、その振動でがん病巣の組織に高熱を発生させて、がん病巣だけを高温で焼いて組織を凝固し、死滅させる治療。治療対象を前立腺全体ではなく、癌病巣に絞ることのでがんの制御と前立腺および周辺臓器の機能を残しておく機能温存を達成できる。また、前立腺全体を治療する標準治療に比べて、手術時間や麻酔時間、入院期間の短縮により早期の社会復帰が可能になる。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	3
取扱い患者数の合計(人)	8

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	10	56	ベーチェット病	137
2	筋萎縮性側索硬化症	13	57	特発性拡張型心筋症	101
3	脊髄性筋萎縮症	43	58	肥大型心筋症	116
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	9	60	再生不良性貧血	23
6	パーキンソン病	279	61	自己免疫性溶血性貧血	20
7	大脳皮質基底核変性症	4	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	9
8	ハンチントン病	6	63	特発性血小板減少性紫斑病	69
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	3
10	シャルコー・マリー・トゥース病	24	65	原発性免疫不全症候群	17
11	重症筋無力症	191	66	IgA腎症	0
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	38
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	199	68	黄色靱帯骨化症	2
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	37	69	後縦靱帯骨化症	3
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	1
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	112
17	多系統萎縮症	10	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	73	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	1	74	下垂体性PRL分泌亢進症	2
20	副腎白質ジストロフィー	6	75	クッシング病	25
21	ミトコンドリア病	39	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	48	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	1
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合)	1
25	進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	3	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	27	83	アジソン病	3
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	146
30	遠位型ミオパチー	3	85	特発性間質性肺炎	15
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	32
32	自己食気空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	103
34	神経線維腫症	138	89	リンパ脈管筋腫症	7
35	天疱瘡	7	90	網膜色素変性症	3
36	表皮水疱症	0	91	パッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬(汎発型)	16	92	特発性門脈圧亢進症	3
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	6	93	原発性胆汁性胆管炎 旧病名(原発性胆汁性肝硬変)	90
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	40
40	高安静脈炎	23	95	自己免疫性肝炎	101
41	巨細胞性動脈炎	24	96	クローン病	145
42	結節性多発動脈炎	13	97	潰瘍性大腸炎	355
43	顕微鏡的多発血管炎	36	98	好酸球性消化管疾患	21
44	多発血管炎性肉芽腫症	35	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	3
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	48	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	6	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャヤー病	5	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	2
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	45	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	383	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	85	105	チャージ症候群	9
51	全身性強皮症	57	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	51	107	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	3
53	シェーグレン症候群	250	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	4	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	1
55	再発性多発軟骨炎	4	110	ブラウ症候群	0
	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	47	161	家族性良性慢性天疱瘡	3
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	78
113	筋ジストロフィー	188	163	特発性後天性全身性無汗症	36
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	18	164	眼皮膚白皮症	2
115	遺伝性周期性四肢麻痺	4	165	肥厚性皮膚骨膜炎	1
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	5

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

117	脊髄空洞症	23	167	マルファン症候群	37
118	脊髄髄膜瘤	5	168	エーラス・ダンロス症候群	15
119	アイザックス症候群	2	169	メンケス病	4
120	遺伝性ジストニア	1	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジドリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	8
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	4	177	ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	1
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	2
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アICALディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	1	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	1
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	1	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	1
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	6
144	レノックス・ガストー症候群	5	194	ソトス症候群	2
145	ウエスト症候群	2	195	ヌーナン症候群	11
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	1
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスマッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	2
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マジニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	82	208	修正大血管転位症	15
159	色素性乾皮症	49	209	完全大血管転位症	7
160	先天性魚鱗癬	4	210	単心室症	2
	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	システロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	2	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	2	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	70	263	脳腫黄色腫症	1
216	両大血管右室起始症	8	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	1	265	脂肪萎縮症	4
218	アルポート症候群	41	266	家族性地中海熱	17
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	22	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	7
222	一次性ネフローゼ症候群	2	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	19
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2	274	骨形成不全症	5
227	オスラー病	41	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	2
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	6
230	肺胞低換気症候群	1	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	$\alpha 1$ -アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	1	280	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・レノネー・ウェーバー症候群	4
234	ルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く)	1	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	17	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	7	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	4	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	3	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	9	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	4
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	3
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	0
244	メーブルシロップ尿症	1	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	2	293	総排泄腔遺残	2
246	メチルマロン酸血症	6	294	先天性横隔膜ヘルニア	4
247	イソ吉草酸血症	2	295	乳幼児肝巨大血管腫	1
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	10
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性肺炎	0
251	尿素サイクル異常症	4	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	35
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	3
254	ポルフィリン症	8	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	1
256	筋型糖原病	5	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	8	305	遅発性内リンパ水腫	4
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	38
	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
308	進行性白質脳症	1	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	20	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
310	先天異常症候群	1	324	メチルグルタトン酸尿症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	1	326	大理石骨病	3
313	先天性肺静脈狭窄症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	328	前眼部形成異常	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連症	0	329	無虹彩症	1
316	カルニチン回路異常症	3	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症 旧病名(先天性気管狭窄症)	4
317	三頭酵素欠損症	0	331	特発性多中心性キャスルマン病	23
318	シトリン欠損症	5	332	膠様滴状角膜炎ジストロフィー	3
319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
			335	ネフロン癆	3
			336	家族性低 $\beta$ リポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
			337	ホモシスチン尿症	4
			338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0
			339	MECP2重複症候群	0
			340	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	0
			341	TRPV4異常症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

---

疾患数	187
合計患者数(人)	5225

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
情報通信機器を用いた診療に係る基準	栄養サポートチーム加算
医療DX推進体制整備加算	医療安全対策加算1
地域歯科診療支援病院歯科初診料	感染対策向上加算1
歯科外来診療医療安全対策加算2	患者サポート体制充実加算
歯科外来診療感染対策加算4	重症患者初期支援充実加算
歯科診療特別対応連携加算	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
特定機能病院入院基本料	ハイリスク妊娠管理加算
救急医療管理加算	ハイリスク分娩管理加算
超急性期脳卒中加算	呼吸ケアチーム加算
診療録管理体制加算2	後発医薬品使用体制加算1
医師事務作業補助体制加算1	バイオ後続品使用体制加算
急性期看護補助体制加算	病棟薬剤業務実施加算1
看護職員夜間配置加算	病棟薬剤業務実施加算2
看護補助加算	データ提出加算
療養環境加算	入退院支援加算
重症者等療養環境特別加算	認知症ケア加算
無菌治療室管理加算1	せん妄ハイリスク患者ケア加算
無菌治療室管理加算2	精神疾患診療体制加算
放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	精神科急性期医師配置加算
放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	排尿自立支援加算
緩和ケア診療加算	地域医療体制確保加算
小児緩和ケア診療加算	救命救急入院料1
精神科応急入院施設管理加算	特定集中治療室管理料2
精神病棟入院時医学管理加算	ハイケアユニット入院医療管理料1
精神科身体合併症管理加算	総合周産期特定集中治療室管理料
精神科リエゾンチーム加算	新生児治療回復室入院医療管理料
摂食障害入院医療管理加算	小児入院医療管理料2

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
入院時食事療養/生活療養(Ⅰ)	人工中耳植込術
ウイルス疾患指導料	植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)
外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
糖尿病合併症管理料	内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
がん性疼痛緩和指導管理料	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
がん患者指導管理料イ	喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
がん患者指導管理料ロ	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
がん患者指導管理料ハ	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
がん患者指導管理料ニ	顎関節人工関節全置換術(歯科)
外来緩和ケア管理料	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科)
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	乳癌センチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
糖尿病透析予防指導管理料	乳癌センチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
小児運動器疾患指導管理料	乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
婦人科特定疾患治療管理料	乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
腎代替療法指導管理料	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
二次性骨折予防継続管理料1	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
二次性骨折予防継続管理料3	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
下肢創傷処置管理料	胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
慢性腎臓病透析予防指導管理料	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
院内トリアージ実施料	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
外来放射線照射診療料	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
外来腫瘍化学療法診療料1	肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
連携充実加算	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算	縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ニコチン依存症管理料	内視鏡下筋層切開術
がん治療連携計画策定料	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)等
がん治療連携計画策定料	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
外来排尿自立指導料	胸腔鏡下弁形成術
ハイリスク妊産婦連携指導料1	胸腔鏡下弁置換術
ハイリスク妊産婦連携指導料2	経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮の大動脈弁置換術)
肝炎インターフェロン治療計画料	経皮的僧帽弁クリップ術
こころの連携指導料(Ⅱ)	不整脈手術左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
薬剤管理指導料	経皮的中隔心筋焼灼術
医療機器安全管理料1	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
医療機器安全管理料2	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
医療機器安全管理料(歯科)	両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
歯科治療時医療管理料	両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
救急患者連携搬送料	植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
在宅患者訪問看護・指導料の注16(同一建物居住者訪問看護・指導料の注6の規定により準用する場合を含む。)に規定する専門管理加算	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
持続血糖測定器加算(間歇注込インジペンポンプと運動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
持続血糖測定器加算(間歇注込インジペンポンプと運動しない持続血糖測定器を用いる場合)	補助人工心臓
遺伝学的検査の注1に規定する施設基準	植込型補助人工心臓(非拍動流型)
遺伝学的検査の注2に規定する施設基準	経皮的下肢動脈形成術
染色体検査の注2に規定する基準	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
骨髄微小残存病変量測定	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
BRCA1/2遺伝子検査	腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等
がんゲノムプロファイリング検査	骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
先天性代謝異常症検査	内視鏡的逆流防止粘膜切除術
抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))

HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)	腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	腹腔鏡下胃縮小術
検体検査管理加算(IV)	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
国際標準検査管理加算	腹腔鏡下総胆管拡張症手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
遺伝カウンセリング加算	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	体外衝撃波胆石破砕術
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	腹腔鏡下肝切除術
胎児心エコー法	腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ヘッドアップティルト試験	生体部分肝移植術
人工膵臓検査、人工膵臓療法	同種死体肝移植術
長期継続頭蓋内脳波検査	体外衝撃波膵石破砕術
長期脳波ビデオ同時記録検査1	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
単線維筋電図	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
神経学的検査	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
補聴器適合検査	腹腔鏡下膵中央切除術
全視野精密網膜電図	腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
ロービジョン検査判断料	腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
コンタクトレンズ検査料1	同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
小児食物アレルギー負荷検査	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
内服・点滴誘発試験	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
経頭静脈的肝生検	腹腔鏡下副腎摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髓質腫瘍摘出術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
経気管支凍結生検法	腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
口腔細菌定量検査	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
精密触覚機能検査	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
画像診断管理加算4	腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	同種死体腎移植術
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	生体腎移植術

ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	膀胱水圧拡張術及びびハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
CT撮影及びMRI撮影	尿道狭窄グラフト再建術
冠動脈CT撮影加算	人工尿道括約筋植込・置換術
血流予備量比コンピューター断層撮影	精巣温存手術
心臓MRI撮影加算	精巣内精子採取術
乳房MRI撮影加算	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
頭部MRI撮影加算	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
全身MRI撮影加算	腹腔鏡下仙骨腔固定術
肝エラストグラフィ加算	腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
外来化学療法加算1	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
無菌製剤処理料	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
心大血管疾患リハビリテーション料(I)	腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	胎児胸腔・羊水腔シャント術
運動器リハビリテーション料(I)	胎児輸血術及び臍帯穿刺
呼吸器リハビリテーション料(I)	体外式膜型人工肺管理料
摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
がん患者リハビリテーション料	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
歯科口腔リハビリテーション料2	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
経頭蓋磁気刺激療法	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
精神科作業療法	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
精神科ショート・ケア「小規模なもの」	輸血管理料 I
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	貯血式自己血輸血管理体制加算
医療保護入院等診療料	コーディネート体制充実加算
医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1	自己生体組織接着剤作成術
医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1	自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1	同種クリオプレシピテート作製術
静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
多血小板血漿処置	歯周組織再生誘導手術
エタノールの局所注入(甲状腺)	広範囲顎骨支持型装置埋入手術

エタノールの局所注入(副甲状腺)	歯根端切除手術の注3
人工腎臓	口腔粘膜血管腫凝固術
導入期加算3及び腎代替療法実績加算	レーザー機器加算
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	麻酔管理料(Ⅰ)
難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	麻酔管理料(Ⅱ)
移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	周術期薬剤管理加算
ストーマ合併症加算	放射線治療専任加算
磁気による膀胱等刺激法	外来放射線治療加算
手術用顕微鏡加算	高エネルギー放射線治療
口腔粘膜処置	一回線量増加加算
歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	強度変調放射線治療(IMRT)
歯科技工士連携加算2	画像誘導放射線治療(IGRT)
CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	体外照射呼吸性移動対策加算
歯科技工加算1及び2	定位放射線治療
皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	画像誘導密封小線源治療加算
骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	保険医療機関間の連携による病理診断
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)	デジタル病理画像による病理診断
後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	病理診断管理加算2
椎間板内酵素注入療法	悪性腫瘍病理組織標本加算
腫瘍脊椎骨全摘術	クラウン・ブリッジ維持管理料
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	歯科矯正診断料
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	看護職員処遇改善評価料57
頭蓋内電極植込術(脳深部電極によるもの(7本以上の電極による場合)に限る。)	看護職員処遇改善評価料60
角結膜悪性腫瘍切除術	外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
角膜移植術(内皮移植加算)	歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
羊膜移植術	入院ベースアップ評価料69
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。)

緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)
緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	周術期デュルバルマブ静脈内投与療法 肺尖部胸壁浸潤がん(化学放射線療法後のものであって、同側肺門リンパ節・縦隔リンパ節転移、同一肺葉内・同側の異なる肺葉内の肺内転移及び遠隔転移のないものに限る。)
毛様体光凝固術(眼内内視鏡を用いるものに限る。)	セボフルラン吸入療法 急性呼吸窮迫症候群(従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	経皮的前立腺がんマイクロ波焼灼・凝固療法 前立腺がん(限局性のものに限る。)
網膜再建術	アルゴンプラズマ高周波焼灼・凝固療法 切除が不可能な食道表在がん
経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	酸素の購入単価



## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ホルモン分泌・受容障害に関わる難病の調査研究	小川 渉	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	11,000,000	補 委	国立保健医療科学院
Society5.0を手術室で実現するスマート治療室システムに関する国際標準化事業	村垣 善浩	未来医工学研究開発センター	47,652,000	補 委	厚生労働省
医師の働き方改革におけるC-2水準適用医師の技能研修実態の事後評価方法の検討のための研究	掛地 吉弘	食道胃腸外科学分野	2,874,000	補 委	厚生労働省
小児急性脳症の診療向上・ガイドライン策定に向けた体制整備	永瀬 裕朗	小児科学分野	500,000	補 委	国立保健医療科学院
難病の克服に向けた研究推進と医療向上を図るための戦略的統括研究	中村 誠	眼科学分野	800,000	補 委	厚生労働省
難病の克服に向けた研究推進と医療向上を図るための戦略的統括研究	錦織 千佳子	皮膚科学分野	800,000	補 委	厚生労働省
オールジャパン体制によるIgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	児玉 裕三	消化器内科学分野	500,000	補 委	国立保健医療科学院
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療と支援に関する研究	上原 奈津美	耳鼻咽喉・頭頸部外科	100,000	補 委	国立保健医療科学院
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療と支援に関する研究	中西 裕子	眼科学分野	70,000	補 委	国立保健医療科学院
難治性血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形(リンパ管腫)・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究	野村 正	形成外科・美容外科	300,000	補 委	国立保健医療科学院
難治性血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形(リンパ管腫)・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究	長濱 通子	皮膚科	200,000	補 委	国立保健医療科学院
スモンに関する調査研究	関口 兼司	脳神経内科学分野	300,000	補 委	厚生労働省
小児腎領域の希少・難治性疾患群の全国診療・研究体制の構築	野津 寛大	小児科学分野	250,000	補 委	国立保健医療科学院
小児腎領域の希少・難治性疾患群の全国診療・研究体制の構築	森貞 直哉	小児科学分野	250,000	補 委	国立保健医療科学院
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	福岡 秀規	糖尿病・内分泌内科	250,000	補 委	国立保健医療科学院

小計 15件

難治性聴覚障害に関する調査研究	上原 奈津美	耳鼻咽喉・頭頸部外科	300,000	補 委	国立保健医療科学院
神経皮膚症候群および色素性乾皮症・ポルフィリン症の学際的診療体制に基づく医療最適化と患者 QOL 向上のための研究	久保 亮治	皮膚科学分野	1,000,000	補 委	国立保健医療科学院
神経皮膚症候群および色素性乾皮症・ポルフィリン症の学際的診療体制に基づく医療最適化と患者 QOL 向上のための研究	錦織 千佳子	皮膚科学分野	1,000,000	補 委	国立保健医療科学院
神経皮膚症候群および色素性乾皮症・ポルフィリン症の学際的診療体制に基づく医療最適化と患者 QOL 向上のための研究	上田 健博	脳神経内科学分野	1,000,000	補 委	国立保健医療科学院
がん対策推進基本計画の進捗管理に資する評価指数の実装に向けた研究	掛地 吉弘	食道胃腸外科学分野	300,000	補 委	厚生労働省
新規疾患の新生児マスキングに求められる実施体制の構築に関する研究	篠原 正和	分子疫学分野	100,000	補 委	こども家庭庁
新規疾患の新生児マスキングに求められる実施体制の構築に関する研究	坊 亮輔	小児科	100,000	補 委	こども家庭庁
慢性疼痛診療システム均てん化等事業	溝渕 知司	麻酔科学分野	500,000	補 委	厚生労働省
がん患者に発症する心血管疾患・脳卒中の早期発見・早期介入に資する研究	平田 健一	循環器内科学分野	300,000	補 委	厚生労働省
誰一人取り残さないがん対策における格差のモニタリングと要因解明に資する研究	片岡 葵	分子疫学分野	300,000	補 委	厚生労働省
専門薬剤師が医療の質に与える効果とその評価に関する研究	矢野 育子	薬剤部	700,000	補 委	厚生労働省
非加熱血液凝固因子製剤によるHIV感染者に合併する悪性腫瘍の制御を目指した研究	丹生 健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	300,000	補 委	厚生労働省
HIV感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学研究と情報の普及啓発方法の開発および診療体制の整備と均てん化のための研究	出口 雅士	地域医療ネットワーク学 分野地域医療ネットワーク学 分野	1,250,000	補 委	厚生労働省
高齢者難治性骨髄疾患を担う神経ネットワークの探索と機能解析に基づく臨床応用のための技術基盤の創出	片山 義雄	血液内科	78,101,790	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
若年期体細胞モザイクの発生要因・拡大原理の解明とその制御による新規治療基盤の創出	久保 亮治	皮膚科学分野	14,950,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
ストレスレジリエンスの個体差を生み出す分子・神経回路基盤の解明	篠原 亮太	薬理学分野	16,640,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
革新的化合物探索・合成手法による新規抗菌アジュバントの創出	今崎 剛	生体構造解剖学分野	12,480,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

老化研究支援・推進に関する研究開発	南 康博	細胞生理学分野	69,041,167	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
神経細胞とグリア細胞の老化制御機構の解明とそのアルツハイマー型認知症の診断・治療法の開発への応用	千原 典夫	脳神経内科	15,600,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
核内膜プロテオスタシスの制御	有井 潤	臨床ウイルス学分野	16,900,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
個体老化における視床下部タニサイトのネクソン-1の機能と作用機構	清水 達太	細胞生理学分野病態シグナル学部門	14,300,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
腸内細菌と老化細胞のクロストークが引き起こす加齢に伴う恒常性破綻機構の解明とその制御	遠藤 光晴	細胞生理学分野	15,600,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
加齢に伴うホスホイノシチド変容と老化・疾病の本態解明	鈴木 聡	分子細胞生物学分野	9,360,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
ヒト心不全における心筋DNA損傷の病的意義の解明とその制御	仁田 亮	生体構造解剖学分野	3,250,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
レジストリ連携による神経変性疾患iPS細胞コホートの構築と整備／患者リクルート・付随情報整備	錦織 千佳子	皮膚科学分野	1,300,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
腸内マイクロバイオーム制御による次世代創薬技術の開発／課題1(2):リパーシトランスレシヨナル創薬に向けた包括的マイクロバイオーム制御基盤技術開発—マイクロバイオーム創薬エコシステム構築に向けて—/創薬	南 博信	腫瘍・血液内科学分野	3,900,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
腸内マイクロバイオーム制御による次世代創薬技術の開発／課題1(2):リパーシトランスレシヨナル創薬に向けた包括的マイクロバイオーム制御基盤技術開発—マイクロバイオーム創薬エコシステム構築に向けて—/創薬	児玉 裕三	消化器内科学分野	13,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
廃用性筋萎縮の発症・進展抑制薬の探索	小川 涉	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	15,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
色素性乾皮症A群の新規治療薬の探索	辻本 昌理子	皮膚科学	9,999,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
疾病発症につながる代謝ストレス及び社会的ストレスに抗する運動機敏性メカニカルストレスの作用機序解明に基づく病因・病態の理解	小川 涉	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	13,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
社会ストレスに対する生体ネットワーク統合情報研究	中井 信裕	生理学分野	10,400,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
血管内皮幹細胞を標的とした虚血性疾患の革新的治療法の開発/バイオインフォマティクス解析と情報の検証、ヒト検体での検証と心筋虚血を含めた疾患への展開	堀江 真史	分子病理学分野	6,470,438	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
汗孔角化症に対する新規治療薬の創薬標的の検証	久保 亮治	皮膚科学分野	2,640,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
Investigation of proviral effect of a novel host factor HLTF, an E3 ubiquitin ligase and DNA helicase, on the replication of hepatitis B virus	鄧 琳	感染制御学分野	2,249,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構

一細胞組織イメージングメタボローム解析技術の確立と社会ストレスによる脳機能変容の代謝性機序解明	永井 裕崇	薬理学分野	14,300,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
老化型ミクログリアが秘める生体保護作用に基づく脳疾患治療法の開発	的崎 尚	分子細胞生物学分野 生体シグナル制御学部門	3,639,924	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
バーサタイルCD34陽性細胞を用いた超個別化医療の実現	宮西 正憲	細胞医科学分野	202,010,430	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
AI Robotic Surgery を実現する DX Platform の開発	村垣 善浩	未来医工学研究開発センター/大学院医学研究科医療創成工学専攻	154,779,647	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
非侵襲遠隔モニタリングによる心不全増悪の早期探知アルゴリズム構築のための多機関協働プラットフォーム開発と統合AIモデルの作成および実用化に向けたPHR情報統合基盤の構築	平田 健一	循環器内科学分野	10,491,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
小児がんFFPE 標本を活用した革新的プロテオーム解析とバイオインフォマティクスによる次世代創薬開発	田村 彰広	小児科学分野こども急性疾患学部門	26,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
腸-脳機能コネクティクスによる腸内感覚の機能解明と操作	榎本 秀樹	神経分化・再生分野	30,550,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
造血幹細胞機能維持体外細胞増幅技術の開発	宮西 正憲	細胞医科学分野	9,100,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
微小管を軸とした細胞極性形成機構の解明	今崎 剛	生体構造解剖学分野	11,830,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
医工融合による低侵襲・高解像な超音波聴の精密診断の実現	藤田 岳	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	7,800,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
線維症の時空間的動態解析による新規治療法の開発	菊田 順一	免疫学分野	8,450,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
「大気汚染」×「医学」を繋げたAIoTによる新しい予防医療の創出/大気汚染と病気の関連性を繋げる分子遺伝学的研究	永野 達也	呼吸器内科学分野	1,100,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
「世界モデルとなる自立成長型人材・技術を育む総合健康産業都市拠点」に関する神戸大学による研究開発及びプロジェクト推進	勝二 郁夫	副医学研究科長・医学部長	25,560,600	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
がん超早期・早期病変に対する細胞生物学的治療コンセプトの創出	南 康博	細胞医科学分野	42,859,700	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
患者生体試料リソースプラットフォームの構築と運用	児玉 裕三	消化器内科学分野	58,000,800	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
オミックス解析基盤の構築・多階層統合解析プラットフォーム・データベースの構築と運用	篠原 正和	分子疫学分野	16,924,700	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
患者生体試料リソースプラットフォームの構築と運用	今井 俊夫	消化器内科学分野	37,230,700	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構

小計 17件

免疫系に着目した血管性認知症および混合型認知症における臓器間ネットワークの解明	松本 理器	脳神経内科学分野	42,900,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
臓器間ネットワークの変容を早期に観測可能な新規イメージング技術の開発とその応用による臓器間ネットワークの解明	仁田 亮	生体構造解剖学分野	7,670,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
動物を対象とした生体信号・感情状態計測	内匠 透	生理学分野	10,400,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
こころの可視化と操作を可能にする脳科学的基盤開発	内匠 透	生理学分野	11,700,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
マルチモーダルVRシステム構築と脳機能ネットワークの可視化/脳機能ネットワークの定量化	内匠 透	生理学分野	16,900,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
光遺伝学的ネットワーク操作法による脳活動予測の検証	内匠 透	生理学分野	19,500,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
子どもの虐待・自殺ゼロ化社会	菱本 明豊	精神医学分野	3,900,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
子どもの虐待・自殺リスクの早期把握を可能にする初のバイオマーカー確立	大塚 郁夫	精神医学分野	16,900,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
AMPA-PETデータと網羅的DNAメチル化データの相関の同定	大塚 郁夫	精神医学分野	2,496,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
被虐待～自殺傾性のエピゲノム異常・シングルセル遺伝子発現異常の同定	古屋敷 智之	薬理学分野	13,000,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
福祉・医療現場に導入可能なロボットの設計とシステム構築と実用化	村垣 善浩	未来医工学研究開発センター	79,911,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
高頻拍ベージングなしでの大動脈弁頻回拡張を可能にする「心電図同期型」経皮的動脈弁拡張システムに関する研究開発	小西 明英	臨床研究推進センター	104,533,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
ゲノム医療実現推進のためのバイオバンク・ネットワーク構築とバイオバンク利活用促進に関する研究開発	松岡 広	バイオリソースセンター	3,900,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
癌抑制ドライバー経路を標的とする抗癌剤開発	鈴木 聡	生化学・分子生物学分野	13,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
iPS細胞を用いた老化関連皮膚がんの革新的治療戦略の開発	福本 毅	皮膚科学分野	6,500,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
グリオーマの診断マーカー実用化に向けた研究開発	篠山 隆司	脳神経外科学分野	650,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
グリア病態からセノインフラメーションへ発展する概念に基づく認知症発症機序の早期検出と制御	古屋敷 智之	薬理学分野	18,200,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

認知症克服に向けた脳のレジリエンスを支えるリザーバー機能とその増強法の開発研究	古屋敷 智之	薬理学分野	36,530,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
インドネシアにおける新興・再興感染症の国際共同研究拠点形成に関する研究	森 康子	感染症センター	78,434,200	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
説明できるAIの基盤技術開発/モジュール型モデルによる深層学習のホワイトボックス化	村上 卓道	放射線診断学分野	2,551,000	補 委	国立研究開発法人 新エネルギー・産業 技術総合開発機構
慢性ストレス・老化による脳機能変容の炎症性機序の解明	古屋敷 智之	薬理学分野	95,550,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
レポーターHBVを駆使したB型肝炎ウイルス増殖機構の解析と創薬ターゲットの探索・同定に資する研究	勝二 郁夫	感染制御学分野	92,300,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
免疫細胞による精神病理の操作を目指して	内匠 透	生理学分野	39,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
自殺ポリジェニックリスクスコアを用いた精神疾患患者の自殺リスク予測に関する研究開発	菱本 明豊	精神医学分野	7,644,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
師匠の背中を見て育つをデジタル化する研究開発	鎮西 清行	国際がん医療・研究推進学分野	6,044,896	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
神経-腸管軸を介した不動化性筋量減少メカニズムの解析	小川 涉	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	109,200,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
色素性乾皮症(XP)治療薬の有効性評価のバイオマーカーの探索	錦織 千佳子	皮膚科学分野	19,435,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
糸球体障害に伴う慢性腎臓病に対する新規治療薬の開発	野津 寛大	小児科学分野	26,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
小児ネフローゼ症候群における抗ネフリン抗体研究	堀之内 智子	小児科	12,999,998	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
小児ステロイド感受性ネフローゼ症候群早期再発例の長期寛解導入を目指したリツキシマブ療法開発研究	野津 寛大	小児科学分野	85,774,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
可及的摘出されたIDH変異型星細胞腫に対する標準治療を確立する研究	村垣 善浩	未来医工学研究開発センター/大学院医学研究科医療創成工学専攻	18,747,300	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
B細胞クローン動態に着目した間質性膀胱炎(ハンナ型)の治療標的探索	堀江 真史	分子病理学分野	4,891,393	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
B型肝炎ウイルス持続感染実験モデルを用いた病態解明及び新しい治療法の開発に資する研究	勝二 郁夫	感染制御学分野	1,950,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
子宮頸がん診断における画像強調併用拡大軟性内視鏡の実装化を目指した研究	寺井 義人	産科婦人科	650,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構

未診断疾患イニシアチブ (Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases(IRUD)): 希少・未診断疾患に対する診断プログラム基盤の開発と患者還元を推進する研究	野津 寛大	小児科学分野	5,200,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
2型糖尿病の発症予防を目指すヘル スケアサービスの適正評価確立のた めの研究	小川 涉	糖尿病・内分泌・総合内 科学分野	1,300,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
母子感染のリスク評価と先天性感染の 新たな診断・予防法の開発研究	山田 秀人	産科婦人科学分野	1,300,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
薬剤性パーキンソニズムのファーマコ ゲノミクスに関する医療実装開発	大塚 郁夫	精神医学分野	5,200,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
患者レジストリJapan PH Registryを利 活用した肺動脈性肺高血圧症に対す る抗IL-6受容体抗体適応拡大のため の医師主導治験	谷口 悠	循環器内科	650,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
難病のゲノム医療実現に向けた全ゲノ ム解析の実施基盤の構築と実践	野津 寛大	小児科学分野	6,500,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
脈管異常の皮膚病変に対するシロリ ムスゲルの多施設共同、プラセボ対 照、二重盲検、無作為化、並行群間 比較試験	久保 亮治	皮膚科学分野	5,200,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
局所進行胃癌に対する術前化学療法 の有効性を検証する臨床第III相試験	掛地 吉弘	食道胃腸外科学分野	260,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
可及的摘出術が行われた初発膠芽腫 に対するカルムスチン 脳内留置用剤 を用いた標準治療確立に関する研究	村垣 善浩	未来医工学研究開発セ ンター/大学院医学研究 科医療創成工学専攻	130,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
先天性および若年発症の視覚聴覚二 重障害の難病に対する診療エビデン スの創出	上原 奈津美	耳鼻咽喉・頭頸部外科	520,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
福山型先天性筋ジストロフィー患者に おける内服ステロイド薬の第II相治験	栗野 宏之	小児科学分野	2,860,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
進行頭頸部がんに対する術後補助療 法の標準治療確立のための多施設共 同研究	清田 尚臣	腫瘍センター	325,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
心臓サルコイドーシス患者における診 療の実態調査、および治療不応例・ 再発例に関する新規予測プログラムの 開発と前向きレジストリによる検証	平田 健一	循環器内科学分野	455,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
食道癌術後患者を対象とした外来が んリハビリテーションプログラムの開発 に関する研究	後藤 裕信	食道胃腸外科	611,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
頭頸部癌化学放射線療法における予 防領域照射の線量低減に関するラン ダム化比較試験に関する研究	清田 尚臣	腫瘍センター	1,040,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
循環器疾患におけるヘルスケアサー ビスの有効性に関するエビデンスの整 理と指針作成	平田 健一	循環器内科学分野	650,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
循環器疾患におけるシングルセルマ ルチオミクス層別化の実現	平田 健一	循環器内科学分野	13,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構

脂肪肝関連疾患にともなう動脈硬化性心血管疾患の二次・三次予防に資するヘルスケアサービスの指針策定およびシステム開発に関する研究	田守 義和	健康創造推進学分野	1,040,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
ゲノム不安定性疾患群を中心とした超希少難治性疾患の原因究明・病態理解とマルチオミクス情報を活用した創薬基盤の構築・運営	錦織 千佳子	皮膚科学分野	2,080,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
肺高血圧症患者レジストリとマルチオミクスデータベースを活用した難病デジタルツインモデルの構築	谷口 悠	循環器内科	1,300,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
造影病変全切除可能な初発膠芽腫に対する標準的手術法確立に関する研究	篠山 隆司	脳神経外科学分野	260,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
一側性聴覚障害の評価手法の標準化と社会参加を促進する手法に関する研究開発	柿木 章伸	地域医療ネットワーク学 分野	650,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
福山型筋ジストロフィーを代表とするリビトールリン酸不全型筋ジストロフィーに対する基質補充療法の開発	小林 千浩	分子脳科学分野	4,550,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
DCTの手法を活用した進行唾液腺癌患者に対するフルキンチニブの医師主導治験	清田 尚臣	腫瘍センター	2,340,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
福山型筋ジストロフィー及び類縁疾患に対する低分子化合物Min007を用いた糖鎖増強療法の実用化にむけた研究	青井 貴之	幹細胞医学分野	910,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
先天性サイトメガロウイルス感染の遅発性難聴を対象としたバルガンシクロビル塩酸塩ドライシロップの有効性および安全性を評価する多施設共同プラセボ対照ランダム化並行群間比較試験 (VGCV-3)	藤岡 一路	小児科学分野	650,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
人工内耳装用における効果的な介入法に関する研究開発	藤田 岳	耳鼻咽喉科頭頸部外科学 分野	455,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
発症後に治療した重症脊髄性筋萎縮症乳児例に生じる早期発症脊髄側弯症に対する姿勢管理を中心としたリハビリテーション介入の予防効果についての検討	坊 亮輔	小児科	130,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
分子オミクスデータの統合解析による日本人の腎臓がん発症に關与する環境因子の同定と早期診断・予防戦略の開発	三宅 秀明	腎泌尿器科学分野	7,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
小児および若年成人の造血器腫瘍に対する同種造血細胞移植における移植後シクロホスファミドを用いた移植片対宿主病予防の確立に関する研究	早瀬 朋美	緩和と支持治療科	129,998	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
頭頸部傍神経節腫の臨床遺伝学的レジストリ構築と至適治療開発	丹生 健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学 分野	650,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
X染色体連鎖型アルポート症候群女性患者の重症化メカニズム解明に関する研究	山村 智彦	小児科学分野	693,352	補 委	日本学術 振興会
HNF1Bの転写因子活性と臨床像の相関に関する研究	石河 慎也	小児科学分野	2,340,000	補 委	日本学術 振興会
WT1遺伝子異常症に対する病態解明と新規治療法の開発	長野 智那	小児科学分野	390,000	補 委	日本学術 振興会

癌抑制ドライバー経路の制御機構	鈴木 聡	分子細胞生物学分野	10,140,000	補 委	日本学術 振興会
心の健康を増進するレジリエンスの生物学的 基盤の解明	古屋敷 智之	薬理学分野	12,220,000	補 委	日本学術 振興会
クロススケール細胞内分子構造動態解析が 解明する細胞骨格ネットワーク構築とその破 綻	仁田 亮	生体構造解剖学分野	24,700,000	補 委	日本学術 振興会
細胞接着分子と膜受容体が制御するがん細 胞の増殖と停止、その再開のスイッチ機構	慶田城 迅	病態シグナル学部門	780,000	補 委	日本学術 振興会
脳波・炎症マーカー・脳血流の解析による AESD発症早期の病態・発症トリガーの解明	永瀬 裕朗	小児科学分野	845,000	補 委	日本学術 振興会
炭酸ガスを利用したロコモティブシンドローム に対する新たな予防・治療法の開発	福井 友章	整形外科学分野	1,040,000	補 委	日本学術 振興会
プラスミドベクターを用いた抗菌ペプチドの 局所導入と創傷治療への応用	榊原 俊介	形成外科学分野	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
環境因子による細胞内シグナル増強と腫瘍 悪性化についての相関の解明	榊原 晶子	口腔外科学分野	650,000	補 委	日本学術 振興会
高空間・高時間分解能ダイナミックMRIによる 新しい膀胱癌深達度診断法の開発	上野 嘉子	放射線医学分野	650,000	補 委	日本学術 振興会
悪性神経膠腫に対するPARGを標的とした新 規治療法の開発と効果予測因子の探索	長嶋 宏明	脳神経外科学分野	780,000	補 委	日本学術 振興会
先天性トキソプラズマ感染症におけるベア型 レセプターを介した免疫逃避機構の解明	内田 明子	産科婦人科学分野	130,000	補 委	日本学術 振興会
血小板増加症を伴う子宮頸癌における PDGFβの役割と新たな予後予測マーカー の確立	村田 友香	産科婦人科学分野	1,560,000	補 委	日本学術 振興会
生体に害の少ない口腔癌に有効な新規抗 癌剤候補分子の探索	村木 友美	口腔外科学分野	910,000	補 委	日本学術 振興会
先駆的解析法に基づく先天性下垂機能低 下症の病因解明と新規疾患概念の創出	坂東 弘教	糖尿病・内分泌・総合内 科学分野	4,030,000	補 委	日本学術 振興会
ヒトヘルペスウイルス6感染に必須なウイルス リガンドの立体構造決定と機能解析	西村 光広	臨床ウイルス学分野	1,430,000	補 委	日本学術 振興会
小胞体トランスロコンを介した膜タンパク質形 成時のタンパク質の動態の解明	藤田 英伸	膜動態学分野	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
シヌクレインパチーにおける細胞外αシヌクレ インによる新規病変伝播機構の解明	岡田 太郎	生化学・シグナル統合 学分野	1,430,000	補 委	日本学術 振興会
血管内皮細胞障害を改善する新規機能分子	長坂 明臣	小児科学分野	1,170,000	補 委	日本学術

の取得			1,170,000	委	振興会
周産期母児における抗精神病薬治療の適正化のためのファーマコメトリクス	矢野 育子	薬剤部	1,300,000	補 委	日本学術振興会
クライオ電子顕微鏡解析による転写メディエーター複合体の転写制御機構の解明	今崎 剛	生体構造解剖学分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会
慢性ストレスによる行動変容の多様性を生み出す神経回路メカニズムの解明	篠原 亮太	薬理学分野	1,300,000	補 委	日本学術振興会
がん微小環境における細胞間シグナルによる腫瘍免疫制御	村田 陽二	生化学・シグナル統合学分野	1,170,000	補 委	日本学術振興会
癌細胞と間質細胞との直接接触による細胞間相互作用を介した食道癌の進展機構の解析	狛 雄一朗	分子病理学分野	1,170,000	補 委	日本学術振興会
前肢に存在する「神経様細胞」の異常産生と、神経芽腫発症の共通分子基盤を探る	伊藤 圭祐	神経分化・再生分野	1,300,000	補 委	日本学術振興会
機能性MDSCを標的とした新しいがん免疫療法の開発	船越 洋平	腫瘍・血液内科学分野	1,300,000	補 委	日本学術振興会
過敏性腸症候群の腸管透過性の亢進を制御する腸内細菌および宿主の病態解析	井上 潤	消化器内科学分野	1,300,000	補 委	日本学術振興会
人工知能を用いた肺癌CT自動診断システム開発とスクリーニング・早期診断への応用	祖父江 慶太郎	放射線医学分野	1,560,000	補 委	日本学術振興会
放射線診断学の画像とレポートを用いた深層学習の応用	西尾 瑞穂	放射線医学分野	520,000	補 委	日本学術振興会
深部臓器発生の悪性腫瘍に対する新規放射線増感療法としての飽和炭酸水動注療法の開発	元津 倫幸	放射線医学分野	1,170,000	補 委	日本学術振興会
簡便かつ革新的な表面修飾DDSを応用した全がん対応の放射線増感ナノ粒子の開発	赤坂 浩亮	放射線腫瘍学分野	1,300,000	補 委	日本学術振興会
大動脈解離の発生と進展に好中球が与える影響の検討	井上 大志	心臓血管外科学分野	520,000	補 委	日本学術振興会
両心房の網羅的画像解析による心房細動基質の未来予測	木内 邦彦	循環器内科学分野	1,170,000	補 委	日本学術振興会
デジタルヘルス技術を活用した新たな循環器遠隔診療体制の構築	高見 充	循環器内科学分野	910,000	補 委	日本学術振興会
分岐鎖アミノ酸代謝に注目した糖尿病性心筋症の病態解明と治療応用	田中 秀和	循環器内科学分野	1,170,000	補 委	日本学術振興会
心房細動と炎症の関連を解明するための心房筋炎症免疫細胞の単一細胞遺伝子解析	福沢 公二	循環器内科学分野	650,000	補 委	日本学術振興会

小計 17件

小児嚢胞性腎疾患のゲノム診療基盤の構築と特異的治療法の開発	森貞 直哉	小児科学分野	1,040,000	補 委	日本学術 振興会
AstragalusとSGLT2阻害薬併用による慢性腎臓病治療法の開発	西 慎一	腎臓・免疫内科学分野	910,000	補 委	日本学術 振興会
TFL によるCART細胞療法の効果増強に関する研究	皆川 健太郎	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,040,000	補 委	日本学術 振興会
膵β細胞量調節における糖尿病感受性遺伝子GCN2と胎生期栄養環境の相互作用の解明	神野 歩	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	520,000	補 委	日本学術 振興会
糖質コルチコイドによるRNAメチル化を介したT細胞制御の解明	福岡 秀規	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
褐色脂肪細胞における多房性脂肪滴形態がエネルギー代謝に与える影響の解明	田守 義和	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
ヒト大動脈解離におけるシングルセルRNAシーケンシによる成因解析	岡田 健次	心臓血管外科学分野	650,000	補 委	日本学術 振興会
生体イメージング法による全身麻酔薬の作用メカニズム解明	岡田 卓也	麻酔科学分野	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
糖尿病モデルマウスにおける術後認知機能障害への脳内モノアミンの関与	小幡 典彦	麻酔科学分野	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
遷延性術後痛におけるマクロファージのβ2アドレナリンシグナルと動態変化	坪井 ちづ	麻酔科学分野	1,170,000	補 委	日本学術 振興会
長時間脳波データ解析とプロテオミクスによる包括的な急性脳症の病態解明	西山 将広	小児科学分野	1,040,000	補 委	日本学術 振興会
JAK-STAT3経路に注目した熱傷誘発性骨格筋萎縮の新規治療戦略	大野 雄康	災害・救急医学分野	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
脳動脈瘤壁に新規発見したミオグロビンの壁肥厚・菲薄に関わる分子生物学的役割の解明	木村 英仁	脳神経外科学分野	260,000	補 委	日本学術 振興会
カルベノキシロンの作用を通して行う脳虚血の包括的メカニズムの解明と治療法の探究	甲田 将章	脳神経外科学分野	1,690,000	補 委	日本学術 振興会
頭蓋底外科手術に適した手術機器開発と手術機器統合運用による手術成績改善と人材教育	魚住 洋一	脳神経外科学分野	780,000	補 委	日本学術 振興会
マクロファージ機能を標的とした髄芽腫の新規治療法の開発	西原 賢在	脳神経外科学分野	1,430,000	補 委	日本学術 振興会
人工知能技術による野球肘検診支援システムの確立	乾 淳幸	リハビリテーション部	520,000	補 委	日本学術 振興会

小計 17件

自家組織を犠牲にしない新規骨再生療法の開発	新倉 隆宏	整形外科学分野	1,300,000	補委	日本学術振興会
脂質メディエーターに着目した好酸球中耳炎の感音難聴メカニズム解明と治療法探索	藤田 岳	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	910,000	補委	日本学術振興会
内耳障害に対するステロイド治療のエビデンス構築のための研究	柿木 章伸	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	1,690,000	補委	日本学術振興会
脈絡膜炎と免疫におけるYAP/TAZの役割の解明	松宮 亘	眼科学分野	910,000	補委	日本学術振興会
ミトコンドリアの正常化と癌関連線維芽細胞の再教育を目指した新規口腔癌治療法の開発	長谷川 巧実	口腔外科学分野	650,000	補委	日本学術振興会
マクロファージ-線維芽細胞の協調作用に着目した口腔癌の新規予防・診断標的の探索	重岡 学	分子病理学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
地域基盤型医学教育の中期の効果に及ぼすプログラムの検討	見坂 恒明	地域医療支援学部門	1,040,000	補委	日本学術振興会
サルコペニアの骨格筋に対する経皮的炭酸ガス投与法の効果について	原 仁美	リハビリテーション部	780,000	補委	日本学術振興会
small RNAを標的とした緑膿菌薬剤耐性機序の解明とその検査・制御方法の開発	大沼 健一郎	医療技術部臨床検査部門	1,170,000	補委	日本学術振興会
C型肝炎ウイルスが関与する新規分解機構の解明	松井 千絵子	感染制御学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
Dormant cellを用いたEwing肉腫新規治療の開発	竹森 俊幸	整形外科学分野	1,300,000	補委	日本学術振興会
アデニン2a受容体を標的とした新規直腸癌術前治療法の開発	澤田 隆一郎	食道胃腸外科学分野	1,170,000	補委	日本学術振興会
神経細胞とグリア細胞からなる微小環境の再現によるADHDの病態解明	江口 典臣	生理学分野	1,040,000	補委	日本学術振興会
局所効果が全身へ波及する無機ナノ粒子併用免疫放射線治療戦略	窪田 光	放射線腫瘍学分野	1,300,000	補委	日本学術振興会
小児摂食障害における脳波周波数解析に着目した認知機能予後予測と包括的病態解明	富岡 和美	小児科学分野	520,000	補委	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎の新規自己抗体による病態解明	桑田 威	消化器内科学分野	1,300,000	補委	日本学術振興会
レジスタントスターチによるDysbiosis改善が肝不全の易感染状態に与える影響	安富 栄一郎	消化器内科学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

混合型小細胞癌の発生機序解明と治療方針の再考	神保 直江	病理診断学分野	910,000	補 委	日本学術 振興会
内因性光線過敏症における病態解明	織田 好子	皮膚科学分野	1,040,000	補 委	日本学術 振興会
茶カテキンコーティング金ナノ粒子を用いた新規放射線治療増感剤の開発	馬場 基	乳腺内分泌外科学分野	1,950,000	補 委	日本学術 振興会
ロボット支援Kinematic alignment TKAの生体力学的検討	中野 直樹	リハビリテーション部	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
メカノセプターTRPV4による椎間板変性に対する治療アプローチ	武岡 由樹	整形外科科学分野	1,170,000	補 委	日本学術 振興会
治療耐性を獲得した泌尿器癌に対するイミプラミンプルーを用いた制癌作用の検討	梁 英敏	腎泌尿器科学分野	1,690,000	補 委	日本学術 振興会
癒着胎盤の発生に関わるmiRNAの同定および癒着胎盤分娩前評価法の確立	今福 仁美	産科婦人科学分野	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
ミトコンドリア病モデル内耳細胞を用いたミトコンドリア難聴の病態解明	上原 奈津美	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	1,560,000	補 委	日本学術 振興会
神経周膜のバリア機能修復は口腔外科術後神経合併症や神経障害性疼痛の治療に有効か？	松村 恵実	口腔外科学分野	1,560,000	補 委	日本学術 振興会
ナノ粒子による血管新生の調整は癌免疫療法を賦活化するか？	寺岡 駿	口腔外科学分野	1,690,000	補 委	日本学術 振興会
多施設共同ランダム化臨床試験における治療効果の施設間差評価手法の開発	今井 匠	臨床研究推進センター	520,000	補 委	日本学術 振興会
ディーブラーニングによるMRIの3次元情報を用いた前立腺がん再発リスク分析	神保 岳大	腎泌尿器科学分野	260,000	補 委	日本学術 振興会
消化管グルコース排泄の生理・病理的意義に関する包括的解析	小川 涉	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	8,450,000	補 委	日本学術 振興会
マウスピースが不随意運動を改善する脳内メカニズムの探索	橘 吉寿	生理学分野	1,950,000	補 委	日本学術 振興会
ホログラフィック顕微鏡による脳の揺らぎ操作	中井 信裕	生理学分野	4,550,000	補 委	日本学術 振興会
後シナプスタンパク質の発達依存的かつ網羅的データによる臨界期の理解	内匠 透	生理学分野	6,110,000	補 委	日本学術 振興会
レジリエンスの臨界期を担う神経・炎症・血管相互作用の解明	古屋敷 智之	薬理学分野	6,110,000	補 委	日本学術 振興会

小計 17件

居住地域の社会環境要因に基づいた乳幼児～青年期の死因別死亡率格差のメカニズム解明	片岡 葵	分子疫学分野	1,170,000	補委	日本学術振興会
パーキンソン病発症に係るユビキチンリガーゼ関連分子を制御するmiRNAの治療応用	大村 友博	薬剤部	1,430,000	補委	日本学術振興会
社会ストレスによる脳代謝リモデリングの実態と機序、意義の解明	永井 裕崇	薬理学分野	1,690,000	補委	日本学術振興会
ミクログリアの性質変化に着目したストレスによる神経回路異常の解明	谷口 将之	薬理学分野	2,860,000	補委	日本学術振興会
がん早期治療の創出に向けたプロテインキナーゼCによる新たながん化メカニズムの解明	梶本 武利	生化学・シグナル統合学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
自閉症中間表現型としての樹状突起スパイン動態の解析	玉田 紘太	生理学分野	1,690,000	補委	日本学術振興会
YAP転写複合体制御機構の解明とその応用	大谷 淳二	分子細胞生物学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
難治性局所進行乳がんに対する金属ナノ粒子併用・超高線量放射線治療法の開発	椋本 成俊	放射線腫瘍学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
放射線応答エクソソームによる直腸癌Total neoadjuvant therapy (TNT)の治療効果予測	佐々木 理栄	放射線腫瘍学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
ドライバー遺伝子に基づくTACE治療反応性の血清バイオマーカーの開発	上嶋 英介	放射線医学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
肝細胞癌に対する免疫療法の治療効果を予測する非侵襲的バイオマーカー開発	村上 卓道	放射線医学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
RNA解析を用いた小児腎疾患と感染症の関連解明研究	堀之内 智子	小児科学分野	1,820,000	補委	日本学術振興会
ヒト尿中落下細胞及び新生仔マウス腎を用いた新生児偽性低アルドステロン症の病態解明	藤岡 一路	小児科学分野	1,950,000	補委	日本学術振興会
OCRL異常の病態解明とLowe症候群に対する酵素補充療法の開発	榊原 菜々	小児科学分野	1,690,000	補委	日本学術振興会
プロスタグランジン合成酵素に着目したクローン病の新規治療法の開発	大井 充	消化器内科学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
新たなHDL機能指標による高HDLコレステロール血症におけるリスク評価法の構築	杜 隆嗣	循環器内科学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
成人先天性心疾患特有の右室心筋障害の進展に関わる分子の同定および新規治療法の探索	福田 旭伸	循環器内科学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

オキソ脂肪酸がつながる「脳・こころ」ストレスと動脈硬化疾患	篠原 正和	分子疫学分野	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
アナモレリンによる免疫チェックポイント阻害剤の抗腫瘍効果増強とその作用機序の解明	立原 素子	呼吸器内科学分野	1,430,000	補 委	日本学術 振興会
遺伝性腎疾患におけるスプライシング異常の影響の全容解明および治療法の開発	野津 寛大	小児科学分野	1,690,000	補 委	日本学術 振興会
エピゲノムによる細胞老化制御から読み解くメラノサイトの恒常性破壊と発がん機構	藤原 進	皮膚科学分野	1,690,000	補 委	日本学術 振興会
糖尿病状態の膵β細胞における膵腺房細胞への脱分化発症機序の解明	木村 真希(小柳真希)	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,430,000	補 委	日本学術 振興会
消化管における逆行性グルコース輸送機構の分子機構および生理的意義の解明	菅原 健二	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,560,000	補 委	日本学術 振興会
マルチオミクス解析を用いた副腎不全の病態解明と新規バイオマーカーの同定	山本 雅昭	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,430,000	補 委	日本学術 振興会
MOB1によるHippo経路非依存的な脂肪分解制御機構の解明	西尾 美希	分子細胞生物学分野	1,430,000	補 委	日本学術 振興会
新規血管新生促進剤を応用した「バイオ人工膵島」移植の確立	浅利 貞毅	肝胆膵外科学分野	1,560,000	補 委	日本学術 振興会
ビデオスベクトルカメラを用いた新規肝胆膵外科手術ナビゲーションシステムの研究開発	浦出 剛史	肝胆膵外科学分野	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
術前化学放射線療法後直腸癌の空間的解析による治療効果予測因子の探索	山下 公大	食道胃腸外科学分野	1,820,000	補 委	日本学術 振興会
大腸癌肝転移巣制御に対する新規個別化免疫療法の確立	裏川 直樹	食道胃腸外科学分野	1,560,000	補 委	日本学術 振興会
MDSC・腫瘍PD-L1/CD47を標的としたNK細胞再活性化による大腸癌遠隔転移制御戦略の開発	長谷川 寛	食道胃腸外科学分野	1,430,000	補 委	日本学術 振興会
腹部大動脈瘤の炎症細胞から見る成因解析と新たな治療ターゲットの模索	山中 勝弘	心臓血管外科学分野	1,690,000	補 委	日本学術 振興会
阪神地域の胸水貯留患者への胸水細胞診を用いた早期中皮腫の同定に関する研究	河原 邦光	地域連携病理学分野	780,000	補 委	日本学術 振興会
安静時functional MRIを用いた意識の可視化	岡田 雅子	麻酔科学分野	1,950,000	補 委	日本学術 振興会
副作用のない麻酔薬の開発を目的としたアセチルコリン受容体の分子構造解析	田口 真也	麻酔科学分野	1,170,000	補 委	日本学術 振興会

小計 17件

生体イメージングを用いた術後認知機能障害の機序解明	杉野 太亮	麻酔科学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
周期期せん妄と神経保護作用を持つプロスタグランジンD2との関連性に迫る	白川 尚隆	麻酔科学分野	130,000	補委	日本学術振興会
PICSIにおける好中球の筋肉内浸潤の病態解明と好中球遊走制御による新たな治療法の確立	小谷 穰治	災害・救急医学分野	1,690,000	補委	日本学術振興会
低酸素環境下にあるグリオーマ細胞の膜脂質代謝リモデリングと分子機構の解析	田中 一寛	脳神経外科学分野	1,300,000	補委	日本学術振興会
アディポネクチンによる椎間板変性・炎症に対する治療法の開発	張 鍾穎	整形外科科学分野	1,300,000	補委	日本学術振興会
腎癌WT1経口ワクチンによる免疫チェックポイント阻害薬の制癌性増強作用の解明	植木 秀登	腎泌尿器科学分野	2,080,000	補委	日本学術振興会
独自に見出した新規因子が関わる母児間鉄代謝制御機構の解明	森岡 裕香	附属動物実験施設	1,560,000	補委	日本学術振興会
ネオ・セルフ抗体による不妊症、子宮内膜症の病態解明と治療法の確立	山田 秀人	産科婦人科学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
唾液腺癌における免疫微小環境の特徴と免疫関連バイオマーカーの探索	清田 尚臣	腫瘍センター	1,430,000	補委	日本学術振興会
pachychoroid疾患の病態解明	三木 明子	眼科学分野	1,690,000	補委	日本学術振興会
動脈奇形の悪化に機械刺激は関与するの か	野村 正	形成外科学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
遊離分割リンパ節移植術の開発	上田 美怜	形成外科学分野	650,000	補委	日本学術振興会
好中球に着眼したシェーグレン症候群の新規病理分類提案と治療薬探索	後藤 育子	口腔外科学分野	1,820,000	補委	日本学術振興会
顎骨壊死に対する腐骨分離促進療法の探索	明石 昌也	口腔外科学分野	1,950,000	補委	日本学術振興会
進行がん患者の生存期間予測尺度の特定状況における診断精度の検証	赤谷 麻美	緩和支援治療科	2,210,000	補委	日本学術振興会
虚血性心疾患法医剖検例におけるシングルセルRNAシーケンズ解析	近藤 武史	法医学分野	1,690,000	補委	日本学術振興会
リンパ浮腫患者の複合的治療へのアドヒアランス促進Web版行動変容プログラムの開発	井上 順一郎	リハビリテーション部	1,040,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

小児痙攣性麻痺の内転筋痙攣に対する拡散型圧力波治療とボツリヌス毒素治療の併用効果	酒井 良忠	リハビリテーション機能回復学分野	260,000	補委	日本学術振興会
リアルワールドデータをを用いたポリファーマシー動向の時系列解析と地域是正モデル構築	木村 丈司	薬剤部	520,000	補委	日本学術振興会
悪性リンパ腫の中樞神経再発リスク遺伝子同定のための研究	北尾 章人	腫瘍・血液内科学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
自閉症における感覚モダリティの皮質機能ネットワーク解析	中井 信裕	生理学分野	2,340,000	補委	日本学術振興会
多発性硬化症患者の子後子測因子となる共抑制性分子の同定	古東 秀介	脳神経内科学分野	1,820,000	補委	日本学術振興会
免疫性神経疾患における病態保護的B細胞誘導療法の開発	赤谷 律	脳神経内科学分野	1,820,000	補委	日本学術振興会
パンデミック下での前立腺癌の放射線治療休止に直面した際の克服手段に関する提案	川口 弘毅	放射線腫瘍学分野	1,690,000	補委	日本学術振興会
食食制御分子であるSIRPαを標的とした難治性神経芽腫の新規治療開発	田村 彰広	小児科学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
高感度PIVKA-II測定による新生児ビタミンK欠乏症診断法の確立と危険因子の同定	芦名 満理子	小児科学分野	910,000	補委	日本学術振興会
ジストロフィンDp71欠失がミトコンドリア機能に与える病態の解明	坊 亮輔	小児科学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
高リスク神経芽腫患者における末梢血微小残存病変の動態と臨床的意義の解明	二野 菜々子	小児科学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
独自の検体採取法による食道アカラシアの筋間神経叢の組織・遺伝子解析による病態解明	阿部 洋文	消化器内科学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
筋板形成機構の破綻に着目した胃癌浸潤過程の全容解明	上原 慶一郎	病理診断学分野	2,080,000	補委	日本学術振興会
RNA網羅的解析に基づいた食道癌に対する内視鏡治療後狭窄の病態解明	吉崎 哲也	消化器内科学分野	1,820,000	補委	日本学術振興会
家族内発症に着眼したアカラシアの遺伝子異常の探索および病態解明	阪口 博哉	消化器内科学分野	1,690,000	補委	日本学術振興会
野生型トランスサイレチン型心アミロイドーシスの簡易診断法の確立	長尾 学	循環器内科学分野	1,820,000	補委	日本学術振興会
光干渉断層法とシングルセル解析を用いた下肢閉塞性動脈疾患の病因解明と予防法の開発	鳥羽 敬義	循環器内科学分野	2,340,000	補委	日本学術振興会

アトピー性皮膚炎における好塩基球の機能解明のための研究	今村 真也	皮膚科学分野	780,000	補委	日本学術振興会
老化長期造血幹細胞解析で顕在化した造血不全細胞の発生メカニズムの解明	西 克幸	小児科学分野	1,690,000	補委	日本学術振興会
腸内細菌と腸内細菌由来脂肪酸の網羅的解析による関節リウマチの治療標的の探索	山田 啓貴	膠原病リウマチ内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
Neddylation制御は関節リウマチおよびリウマチ肺の新規治療ターゲットとなるか	千藤 荘	膠原病リウマチ内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
脂肪組織におけるLTA4Hのインスリン感受性制御機構の解明	細川 友誠	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	2,470,000	補委	日本学術振興会
下垂体神経内分泌腫瘍に対するソマトスタチン抵抗性機序の解明	志智 大城	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,820,000	補委	日本学術振興会
早産児腹膜炎マウスモデルにおける腹腔マクロファージの機能病態解析	宮内 玄德	小児外科学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
大腸癌腫瘍関連B細胞由来抗体を用いたキメラ抗原受容体T細胞の作成	高井 亮	食道胃腸外科学分野	2,340,000	補委	日本学術振興会
人工知能イメージサイトメトリーを用いた食道癌の腫瘍免疫微小環境の解析	清水 将来	食道胃腸外科学分野	2,340,000	補委	日本学術振興会
涙液を用いた胃癌術後再発例の早期検出法の開発	原田 仁	食道胃腸外科学分野	1,950,000	補委	日本学術振興会
骨髄由来抑制性細胞に着目した胃癌腹膜播種の病態解明と治療抵抗性の克服	後藤 裕信	食道胃腸外科学分野	2,340,000	補委	日本学術振興会
心臓大血管手術患者における溶血による血管内皮障害への影響とその予防に関する検討	法華 真衣	麻酔科学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
ARDS患者のセボフルランでの鎮静による予後改善効果の検討と免疫学的機序の解明	西村 太一	麻酔科学分野	1,820,000	補委	日本学術振興会
術後維持輸液管理の選択が術後血管内皮機能とせん妄に及ぼす影響	古島 夏奈	麻酔科学分野	1,300,000	補委	日本学術振興会
持続脳波による急性脳症のNCSの病態と神経傷害機構の解明	山口 宏	小児科学分野	1,950,000	補委	日本学術振興会
炎症とマイクロRNAのクロストークから導く熱性けいれん重積の病態解明	徳元 翔一	小児科学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
脳梗塞の回収血栓を利用した病型同定バイオマーカーの探索	今堀 太一郎	脳神経外科学分野	3,770,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

骨転移患者の就労阻害因子の同定と至適支援方法の確立	澤田 良子	整形外科学分野	1,170,000	補委	日本学術振興会
筋線維芽細胞のアポトーシス誘導による放射線性顎骨壊死の新規治療法の探索	齊藤 泉	口腔外科学分野	1,170,000	補委	日本学術振興会
エネルギー供給能に着目した口腔粘膜創傷治癒機構の解明	伊賀 利香	口腔外科学分野	1,170,000	補委	日本学術振興会
寝たきりに伴う起立耐性低下を予防する次世代リハビリテーション機器の開発	平林 卓己	医療技術部	1,300,000	補委	日本学術振興会
下肢原発性悪性骨軟部腫瘍における術後患肢機能の前向き調査と標準評価の開発	牧浦 大祐	医療技術部リハビリ・歯科部門	130,000	補委	日本学術振興会
高脂肪食による脂肪性肝疾患や消化器癌における腸管上皮LAT1の意義についての検討	吉田 竜太郎	消化器内科学分野	1,040,000	補委	日本学術振興会
大規模医用画像データセットを用いた多タスク対応画像-自然言語対応モデルの開発	松尾 秀俊	放射線医学分野	1,690,000	補委	日本学術振興会
色素性乾皮症患者の紫外線発癌予防を目的とした日用品の遮光評価基準確立と有用性検証	山野 希	皮膚科学分野	1,300,000	補委	日本学術振興会
ロイシンセンシングによる腫瘍発生機序の解明と予防法の開発	星 奈美子	消化器内科学分野	2,860,000	補委	日本学術振興会
胃癌バイスループットCAR-T細胞作製プラットフォーム構築	掛地 吉弘	食道胃腸外科学分野	3,120,000	補委	日本学術振興会
ゲノム編集を標的とした革新的抗ウイルス・抗ガン戦略の構築	有井 潤	臨床ウイルス学分野	3,250,000	補委	日本学術振興会
応力発光による骨折癒合過程のモニタリング	隈部 洋平	整形外科学分野	1,300,000	補委	日本学術振興会
大脳皮質マクロイメージング法を用いたうつ病の病態と治療機構に関する検討	新谷 勇介	生理学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
大腿骨頭壊死症に対するADSC及びSVFの局所投与と血管内投与の治療効果の比較検討	壺坂 正徳	整形外科学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
ウサギ大腿骨寛骨白インピンジメントモデルを用いた変形性股関節症のメカニズム解明	亀長 智幸	整形外科学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
慢性ストレスによる自然免疫記憶を介した骨髄-脳連関メカニズムの解明	山口 勇太	薬理学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
造血器悪性腫瘍におけるアミノアシルtRNA合成酵素の生物学的意義の解明	倉田 啓史	腫瘍・血液内科学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

Rif-Wnt5a-Ror1シグナルによる血管痙攣形成メカニズムの解明	内藤 元彦	細胞生理学分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会
肺癌の予後改善を目指したTLS誘導機構の解明	田中 雄志	消化器内科学分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会
圧センシングが骨格筋のリモデリングおよび全身の代謝に及ぼす影響の解析	倉本 尚樹	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会
肥満を伴う大腸癌宿主内CD4+T細胞低下の病態解明と治療法の開発	常城 宇生	食道胃腸外科学分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会
終末期患者のQOL向上を目指した呼吸困難治療アルゴリズム作成に関する研究	山口 崇	緩和支援診療科	2,990,000	補 委	日本学術振興会
シュワン性神経幹細胞の生理と病態解明	榎本 秀樹	神経分化・再生分野	5,980,000	補 委	日本学術振興会
細胞の極性を担う非中心体性微小管ネットワーク形成機構	仁田 亮	生体構造解剖学分野	5,590,000	補 委	日本学術振興会
福山型筋ジストロフィーおよび類縁疾患の病態解析と治療法・薬効評価法の開発	小林 千浩	分子脳科学分野	4,680,000	補 委	日本学術振興会
吸収性スプレーを用いた体内空間可変・定位放射線治療の実用化研究	佐々木 良平	放射線腫瘍学分野	5,460,000	補 委	日本学術振興会
自己抗原の同定に基づいた消化器系難病の病態解明と新しい診療体系の確立	児玉 裕三	消化器内科学分野	5,070,000	補 委	日本学術振興会
大腸癌に対する腫瘍免疫活性を増強するエピジェネティクス標的薬の探索と作用機構解明	青井 貴之	幹細胞医学分野	4,160,000	補 委	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤と遺伝子治療の併用による頭頸部癌に対する治療法の開発	丹生 健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	4,160,000	補 委	日本学術振興会
スモールデータ型AIによる創傷診断システムの開発	寺師 浩人	形成外科学分野	3,510,000	補 委	日本学術振興会
Mo-99/Tc-99m国産化を実現するモノボラスタルミナ吸着材の開発	福光 延吉	放射線腫瘍学分野	4,550,000	補 委	日本学術振興会
B細胞を軸とした免疫チェックポイント阻害の有害事象の包括的機序解明と効果の推定	南 博信	腫瘍・血液内科学分野	4,680,000	補 委	日本学術振興会
免疫性神経疾患の神経変性過程を再現する脳内炎症環境モデルの構築	千原 典夫	脳神経内科学分野	4,550,000	補 委	日本学術振興会
動脈硬化性疾患シングルセルアトラスの作成とゲノム統合解析による発症メカニズム解明	平田 健一	循環器内科学分野	4,550,000	補 委	日本学術振興会

小計 17件

リソキシマブによる小児ネフローゼ症候群の長期寛解誘導メカニズムの解明	飯島 一誠	小児科学分野	6,370,000	補 委	日本学術振興会
汗孔角化症の病態解明を通じた細胞競合/クローン拡大機構の理解と新規治療法開発	久保 亮治	皮膚科学分野	5,850,000	補 委	日本学術振興会
ヒトiPS細胞由来Leydig細胞の移植法の確立と非臨床POCの取得	藤澤 正人	腎泌尿器科学分野	5,850,000	補 委	日本学術振興会
社会性神経回路と自閉スペクトラム症におけるその障害	内匠 透	生理学分野	6,240,000	補 委	日本学術振興会
自然免疫制御によるがん細胞の生存・維持と排除の分子機構解明	的崎 尚	生体シグナル制御学部門	20,410,000	補 委	日本学術振興会
ヒトモデルによる自閉症の病態理解	内匠 透	生理学分野	8,190,000	補 委	日本学術振興会
腸管グルコース排泄の分子メカニズムとその生理的意義の解析	小川 涉	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	17,420,000	補 委	日本学術振興会
マウスメタバース社会空間における当事者化の脳・行動解析	中井 信裕	生理学分野	3,900,000	補 委	日本学術振興会
自閉症における社会性回路遷移機構の解明	内匠 透	生理学分野	4,680,000	補 委	日本学術振興会
ヒト細胞競合モザイク疾患の疾患概念確立と病態解明	久保 亮治	皮膚科学分野	5,720,000	補 委	日本学術振興会
脳実習に有用な白質解剖標本の作成とデジタル教育コンテンツ開発	薛 富義	生体構造解剖学分野	430,000	補 委	日本学術振興会
ウイルス感染を司るシャペロン糖タンパク質の機能解析から紐解く受容体認識機構	森 康子	臨床ウイルス学分野	6,240,000	補 委	日本学術振興会
不随意運動発現に関わる神経ネットワークの同定とその制御による新規治療法開発	橘 吉寿	生理学分野	8,320,000	補 委	日本学術振興会
若者を自殺に追い込む生物学的異常と可逆性:エピゲノム・シングルセルダイナミクス	菱本 明豊	精神医学分野	6,370,000	補 委	日本学術振興会
腹部大動脈瘤への新たな免疫治療開発	江本 拓央	循環器内科学分野	10,790,000	補 委	日本学術振興会
病理組織学的空間解析を用いた食道癌個別化治療体系の開発	掛地 吉弘	食道胃腸外科学分野	7,540,000	補 委	日本学術振興会
カチオン化ゼラチンナノ粒子を用いた椎間板変性遺伝子治療法の開発	由留部 崇	整形外科科学分野	3,380,000	補 委	日本学術振興会

小計 17件

乳酸シヤトル・情報伝達障害としての緑内障性視神経症の病態論の提唱と治療法の探索	中村 誠	眼科学分野	7,930,000	補 委	日本学術 振興会
乳癌の早期診断のための涙液バイオマーカーの探索	犬伏 祥子	乳腺内分泌外科学分野	12,870,000	補 委	日本学術 振興会
iPS 細胞由来の臍島と血管新生誘導ゲルを組み合わせた血管形成機構の構築	大谷 亨	体内医療機器学分野	7,800,000	補 委	日本学術 振興会
頭部外傷治療のエビデンス創出に資する転写因子発現型の新しい患者層別化手法の確立	松尾 和哉	脳神経外科学分野	10,530,000	補 委	日本学術 振興会
分単位の迅速な小胞体リモデリングの分子基盤と生理的意義の解明	山本 泰憲	膜動態学分野	1,430,000	補 委	日本学術 振興会
消化管のループ形成機構	本多 久夫	細胞生理学分野	1,170,000	補 委	日本学術 振興会
下腹部臓器の発達に伴い生後派生するニューロンの起源と役割	上坂 敏弘	神経分化・再生分野	1,820,000	補 委	日本学術 振興会
膵癌における間質繊維化機序の解明と薬物療法の効果予測への応用	飛松 和俊	消化器内科学分野	1,820,000	補 委	日本学術 振興会
自閉症における翻訳プロセスのフェーズ別リスク因子解析	野村 淳	生理学分野	1,430,000	補 委	日本学術 振興会
膜型分子CD47によるマクロファージの細胞貪食制御機構とその分子機序の解明	高井 智子	生化学・シグナル統合 学分野	1,950,000	補 委	日本学術 振興会
血液循環がん細胞の臨床病理学的及び物理学的解析	藤倉 航平	病理診断学分野	1,820,000	補 委	日本学術 振興会
細胞間シグナルCD47-SIRP α 系の阻害を利用した新たながん治療法開発の基礎研究	小谷 武徳	生化学・シグナル統合 学分野	2,210,000	補 委	日本学術 振興会
ヒト内在性レトロウイルス様配列由来Gag類似タンパク質の大腸がんにおける機能解析	青井 三千代	幹細胞医学分野	1,820,000	補 委	日本学術 振興会
大腸癌の病理画像解析システムの開発と空間統計学的バイオマーカー検索	長坂 暢	食道胃腸外科学分野	2,080,000	補 委	日本学術 振興会
Wnt5a/Ror2-p62シグナルによるアストロサイトの新規神経保護機構の解明	遠藤 光晴	細胞生理学分野	1,690,000	補 委	日本学術 振興会
統合失調症の老化促進のエピジェネティック的機序の解明	岡崎 賢志	精神医学分野	1,950,000	補 委	日本学術 振興会
自殺者GWASを用いた自殺のリスク遺伝子・体細胞モザイク異常の解明	大塚 郁夫	精神医学分野	1,560,000	補 委	日本学術 振興会

小計 17件

Bio-active過酸化チタンナノ粒子を併用した革新的放射線免疫療法の開発	岡本 欣晃	放射線腫瘍学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
PET/MRI一体型装置における新規減弱補正法の開発	野上 宗伸	放射線医学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
ヘリウム粒子(Helium)CT画像システムの新規開発	王 天縁	放射線腫瘍学分野	2,340,000	補委	日本学術振興会
腫瘍を可視化する金属ナノ粒子を用いたセラノスティクス放射線治療法の開発	中山 雅央	放射線腫瘍学分野	910,000	補委	日本学術振興会
早期肺癌オルガノイドを用いた肺癌早期発見のための診断バイオマーカーの同定	増田 充弘	消化器内科学分野	2,080,000	補委	日本学術振興会
原発性硬化性胆管炎肝移植後再発と抗インテグリン $\alpha V\beta 6$ 自己抗体の関連の解明	上田 佳秀	消化器内科学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
シングルセル解析による心房細動の炎症病態の解明と新規疾患予防法の開発	今村 公威	循環器内科学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
de novo 脂肪酸合成経路に着目した心臓線維化の分子機序解明と治療法の確立	小林 成美	循環器内科学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
老化細胞を標的とする新規間質性肺炎治療薬の開発	小林 和幸	呼吸器内科学分野	1,170,000	補委	日本学術振興会
上皮前駆細胞の分化シグナルを対象とした喘息の分子標的治療薬の開発	永野 達也	呼吸器内科学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
一次繊毛のエピゲノム制御に着目した悪性黒色腫のBRAF阻害剤耐性獲得機序の解明	福本 毅	皮膚科学分野	1,690,000	補委	日本学術振興会
多発血管腫に着目した皮膚血管内皮「セカンドヒット病」の探索と新規原因遺伝子の同定	小野 竜輔	皮膚科学分野	1,300,000	補委	日本学術振興会
クロマチン動態が担う細胞のストレス応答に伴う分化運命決定の分子機序	仁田 英里子	生体構造解剖学分野	1,820,000	補委	日本学術振興会
BCRレパトア解析を用いた造血幹移植後免疫再構築の解明	薬師神 公和	腫瘍・血液内科学分野	1,690,000	補委	日本学術振興会
iPS細胞技術を利用した関節リウマチの自己反応性T細胞の探索	三枝 淳	膠原病リウマチ内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
腫瘍随伴自己免疫性下垂体疾患の病態解明と創薬シーズの創出	井口 元三	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
膵島の可塑性におけるセロトニンの機能解析	浅原 俊一郎	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,950,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

褐色脂肪細胞の脂肪滴形態を制御するエネルギー代謝および基質選択性の解明	西本 祐希	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,690,000	補委	日本学術振興会
腸管内へのグルコース排泄と数理モデルを用いた糖代謝機構の解明	坂口 一彦	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
胆道癌術前治療における病理組織学的空間解析	柳本 泰明	肝胆膵外科学分野	1,690,000	補委	日本学術振興会
局所進行直腸癌のナノ粒子を用いた術前放射線免疫療法のモデル構築とその応用	松田 武	食道胃腸外科学分野	2,470,000	補委	日本学術振興会
脊髄虚血のバイオマーカーの評価	長命 俊也	心臓血管外科学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
免疫細胞のオピオイド受容体活性化に着目した疼痛慢性化メカニズムの解明	西原 侑紀	麻酔科学分野	1,690,000	補委	日本学術振興会
大脳皮質の生体イメージングによる全身麻酔薬の意識調節機構の解明	原田 みどり	麻酔科学分野	2,210,000	補委	日本学術振興会
サテライトグリア細胞のミトコンドリア機能に着目した線維筋痛症の病態解明	野村 有紀	麻酔科学分野	1,820,000	補委	日本学術振興会
膠芽腫患者のケン食療法による腸内細菌叢の変化とシンバイオティクスによる増強効果	篠山 隆司	脳神経外科学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
骨折治癒過程における新たな幹細胞動態の解明に関する研究	松本 知之	整形外科科学分野	1,690,000	補委	日本学術振興会
小児骨肉腫における悪液質に伴う筋萎縮に対する抗酸化フラボノイドの効果	深瀬 直政	整形外科科学分野	1,300,000	補委	日本学術振興会
Leydig細胞の機能を高める物質の探索-ヒトiPS細胞を用いて-	佐藤 克哉	腎泌尿器科学分野	1,300,000	補委	日本学術振興会
モデルマウスを用いたネオセルフ抗体の不妊症発症機序解明と治療法開発	谷村 憲司	産科婦人科学分野	1,690,000	補委	日本学術振興会
卵巣癌の腔分泌物抽出miRNAによる早期診断と人工エクソソームを用いた核酸治療開発	寺井 義人	産科婦人科学分野	1,820,000	補委	日本学術振興会
甲状腺癌の未分化転化におけるFOXO1の機能解析	稲瀬 安希	腫瘍・血液内科学分野	2,340,000	補委	日本学術振興会
脆弱な網膜血管を有する個体に対する強力なVEGF阻害の影響の解明	楠原 仙太郎	眼科学分野	1,690,000	補委	日本学術振興会
Gq変異による悪性腫瘍転移能への影響を探索-Melanomaをモデルとして-	青木 大地	形成外科学分野	1,300,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

がん悪液質を想定した筋肉量減少に対するミトコンドリア機能改善を介した新規治療法	武田 大介	口腔外科学分野	1,170,000	補 委	日本学術振興会
在宅緩和ケア患者を対象に患者報告型アウトカムを活用した薬学的支援方法に向けた研究	松村 千佳子	薬剤部	1,040,000	補 委	日本学術振興会
Ped-PRO-CTCAE日本語版開発に関する研究	早瀬 朋美	緩和支援治療科	1,950,000	補 委	日本学術振興会
新人看護師の成長に影響する「社会人基礎力」のアウトプット学習コンテンツの開発研究	ウィリアムソン 彰子	看護部	2,600,000	補 委	日本学術振興会
サルコペニアにおける神経原性変化の関与：筋超音波と非侵襲的運動単位計測による解析	関口 兼司	脳神経内科学分野	2,210,000	補 委	日本学術振興会
新規管腔内手術デバイスによる膀胱癌治療の高度化	中楯 龍	精密診断治療機器学分野	1,820,000	補 委	日本学術振興会
小児ロボット支援手術シミュレーションシステムの構築	大片 祐一	小児外科学分野	1,170,000	補 委	日本学術振興会
小児声門下腔狭窄症の診断治療評価におけるOCT(光干渉断層撮影)技術の有用性の評価	尾藤 祐子	小児外科学分野	1,560,000	補 委	日本学術振興会
植物における微小管ネットワーク形成制御機構の解明	加藤 堯彬	生体構造解剖学分野	1,950,000	補 委	日本学術振興会
マルチモーダルVR装置を用いた幻覚の神経基盤に関する薬理学研究	新谷 勇介	生理学分野	1,820,000	補 委	日本学術振興会
好中球を介した慢性ストレスによる神経炎症病態のメカニズム解明	山口 勇太	薬理学分野	2,340,000	補 委	日本学術振興会
SIRP $\alpha$ 陽性2型樹状細胞における生存制御機構の解明	小森 里美	生化学・シグナル統合学分野	2,470,000	補 委	日本学術振興会
癌オルガノイドを用いた肺浸潤・胸水発生のメカニズムの解明	小川 裕行	呼吸器外科学分野	2,340,000	補 委	日本学術振興会
Rifによる腫がん細胞のFerroptosis抵抗メカニズムの解明	紙崎 孝基	細胞生理学分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会
Development of a novel cancer immunotherapy model targeting human macrophages	Afroj Tania	生体シグナル制御学部門	2,340,000	補 委	日本学術振興会
ナノボアシーケンサーを用いたGAL3BPの多層解析によるアルツハイマー病治療開発	関 恒慶	脳神経内科学分野	1,300,000	補 委	日本学術振興会
デンプン粒子を元にした短時間作用型一時的塞栓物質の開発	佐々木 康二	放射線医学分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会

小計 17件

ケモカインを標的としたクローン病に対する新規治療開発への基礎的基盤の構築	具 潤瑛	消化器内科学分野	1,560,000	補 委	日本学術 振興会
分子プロファイルに基づいた非乳頭部十二指腸腫瘍の浸潤早期リスク因子の同定	上田 千勢	消化器内科学分野	1,820,000	補 委	日本学術 振興会
微小浸潤癌に注目した膵癌の浸潤過程の解明	辻前 正弘	消化器内科学分野	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
細胞接着分子を標的としたクローン病腸管狭窄に対する新規治療開発のための基盤研究	宮崎 はる香	消化器内科学分野	1,170,000	補 委	日本学術 振興会
非高周波内視鏡的粘膜下層剥離術による食道狭窄予防効果の病態解明と医療機器開発	高山 弘志	消化器内科学分野	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
腸脳相関における迷走神経下神経節を介した神経伝達機構の解明	中井 達也	消化器内科学分野	2,080,000	補 委	日本学術 振興会
腸内細菌とその関連代謝物を用いた心不全の層別化バイオマーカーの開発研究	久松 恵理子	循環器内科学分野	2,080,000	補 委	日本学術 振興会
疣状静脈奇形のMAP3K3変異による表皮過形成が解き明かす血管-表皮連関	吉岡 愛育	皮膚科学分野	1,820,000	補 委	日本学術 振興会
自己複製能制御遺伝子を用いた造血幹細胞の新規体外培養法確立	酒巻 太郎	小児科学分野	2,080,000	補 委	日本学術 振興会
骨髄塗抹標本バーチャルスライド作成の要素技術研究	宮田 吉晴	バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学分野	2,080,000	補 委	日本学術 振興会
造血器悪性腫瘍におけるアミノシルtRNA合成酵素の生物学的意義の解明	倉田 啓史	腫瘍・血液内科学分野	650,000	補 委	日本学術 振興会
抗IgG重鎖/HLA-DR複合体抗体の関節リウマチにおける臨床的有用性の確立	上田 洋	膠原病リウマチ内科	2,860,000	補 委	日本学術 振興会
腫瘍随伴症候群関連下垂体次の動物モデル構築による病態解明	藤田 泰功	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,820,000	補 委	日本学術 振興会
腸管内腔へのグルコース排泄機構の生理的意義の解明	末松 那都	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	2,470,000	補 委	日本学術 振興会
糖尿病状態が膵β細胞可塑性に及ぼす影響の検討	清家 雅子	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	2,340,000	補 委	日本学術 振興会
OSNA法を用いた切除組織端に対する術中迅速病理診断の開発	小寺澤 康文	食道胃腸外科学分野	1,820,000	補 委	日本学術 振興会
膵頭十二指腸切除術後の脂質異常症の病態メカニズムの解明	南野 佳英	肝胆膵外科学分野	3,770,000	補 委	日本学術 振興会

小計 17件

肥満を伴う大腸癌の病態解明と脂肪酸制御による新規治療法の開発	阿河 杏介	食道胃腸外科学分野	1,560,000	補 委	日本学術 振興会
優れた腫瘍特異性と抗原導入効率を実現するNKT細胞活性化樹状細胞ワクチンの開発	安積 佑樹	食道胃腸外科学分野	2,470,000	補 委	日本学術 振興会
流体工学的解析を取り入れた大動脈弁形成術・右室流出路再建術のin vitro実験	松島 峻介	心臓血管外科学分野	1,820,000	補 委	日本学術 振興会
敗血症による筋萎縮・PICS予防のためのマイオスタチンアンチセンスの効果	中西 信人	災害・救急医学分野	2,340,000	補 委	日本学術 振興会
網羅的遺伝子解析とスプライシング・機能解析による急性脳症分子病態の包括的解明	花房 宏昭	小児科学分野	1,950,000	補 委	日本学術 振興会
治療によるグリオーマ内免疫微小環境変化を反映した髄液炎症関連分子プロファイル解析	岩橋 洋文	脳神経外科学分野	2,600,000	補 委	日本学術 振興会
水素吸入療法による頸椎症性脊髄症に対するアプローチ	辻本 武尊	整形外科科学分野	2,210,000	補 委	日本学術 振興会
ウサギFAIモデルを用いた股関節症進行のメカニズムに関するバイオメカニクスの研究	亀長 智幸	整形外科科学分野	1,170,000	補 委	日本学術 振興会
境界型寛骨臼形成不全における有限要素法を用いたバイオメカニクス解析	黒田 雄一	整形外科科学分野	1,170,000	補 委	日本学術 振興会
大腿骨頭壊死症に対する脂肪組織由来幹細胞の局所投与と全身投与の治療効果の比較	壺坂 正徳	整形外科科学分野	1,690,000	補 委	日本学術 振興会
頭頸部傍神経節腫の治療の最適化を目指す～SDH遺伝子検査による研究	下田 光	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	910,000	補 委	日本学術 振興会
生成AIを用いた嚥下機能評価の標準化と自動化	古川 竜也	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
視神経疾患の病態依存的構造機能相関	坂本 麻里	眼科学分野	780,000	補 委	日本学術 振興会
緑内障手術最適化を目指した眼内経路劣化の解明	盛 崇太郎	眼科学分野	1,820,000	補 委	日本学術 振興会
細胞間コミュニケーションに着目した放射線性顎骨壊死の革新的治療戦略の開発	岩田 英治	口腔外科学分野	1,040,000	補 委	日本学術 振興会
カンジダリンをターゲットにした口腔潜在的悪性疾患の悪性転化予防法の探索	船原 隆一郎	口腔外科学分野	1,300,000	補 委	日本学術 振興会
新型コロナウイルス広域中和抗体の同定と中和メカニズムの解明	石丸 華子	臨床ウイルス学分野	2,210,000	補 委	日本学術 振興会

小計 17件

官学協働による根拠に基づいた健康寿命の格差縮小施策の立案: 部署横断型データの解析	片岡 葵	分子疫学分野	2,730,000	補 委	日本学術振興会
カーボン製3層式後方支柱を使用した短下肢装具の小児適用の試み	原田 理沙	リハビリテーション機能回復学分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会
機械学習でつくる脳循環状態の非侵襲的判定法	田中 潤	脳神経外科学分野	780,000	補 委	日本学術振興会
レジリエンスの物質的基盤	内匠 透	生理学分野	3,250,000	補 委	日本学術振興会
社会ストレス後の遅発性脳病態の実態と機序の解明	古屋敷 智之	薬理学分野	3,250,000	補 委	日本学術振興会
ERR- $\gamma$ 経路の賦活化が腱板断裂に伴う腱板筋の萎縮と脂肪変性を与える影響	山裏 耕平	整形外科学分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会
自然免疫細胞における膜型分子を介した新規がん免疫監視機構の解明	稲益 咲季(松本咲季)	生体シグナル制御学部門	1,200,000	補 委	日本学術振興会
ポドプランイン陽性大腸早期癌関連線維芽細胞の病理診断学的・生物学的意義	塚本 修一	分子病理学分野	1,600,000	補 委	日本学術振興会
線維症における病原性マクロファージの動態と機能解析	杉原 文徳	免疫学分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会
膵臓がん細胞の造腫瘍能獲得に必要な non-genetic driver の実体とその作用機序の解明	藤田 圭太郎	消化器内科学分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会
大腸癌に対する新たな免疫細胞療法としてのiPS細胞由来 $\gamma$ $\delta$ T細胞	二井 諒子	消化器内科学分野	780,000	補 委	日本学術振興会
ナノ放射線と免疫チェックポイント阻害剤で増感する革新的がんワクチン療法の開発	高林 畑銘	放射線腫瘍学分野	1,300,000	補 委	日本学術振興会
メホルミンとイメグリミンによる筋量制御メカニズムの解明	穂積 かおり	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会
膵癌の進展形式に基づく分子生物学的プロファイルの解明	権田 真知	消化器内科学分野	1,560,000	補 委	日本学術振興会
糖尿病における術後認知機能障害の生体イメージング法を用いたメカニズム解明	中山 莉子	麻酔科学分野	1,690,000	補 委	日本学術振興会
大腸癌骨髄ニッチの同定、腫瘍内CD8+T細胞の維持機構の解明	鍵山 大起	食道胃腸外科学分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会
生体イメージング技術を駆使した顎骨壊死の病態解明と新規治療法の探索	田所 慶誠	免疫学分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会

ミトコンドリアゲノム修復による口腔癌治療の検討	村上 明希	口腔外科学分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会
超高線量率X線による革新的がん治療法のメカニズム解明	佐々木 良平	放射線腫瘍学分野	7,280,000	補 委	日本学術振興会

小計 3件

計 477件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭者名の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Imamura Y, Kiyota N, Tahara M, et al	腫瘍・血液内科	Effect of acute kidney injury and overall survival in patients with postoperative head and neck cancer who received chemoradiotherapy with cisplatin: A supplementary analysis of the phase II/III trial of ICOG1008.	Cancer Med. 2024 Sep ; 13(18):e70235.	Original Article
2	Fukuoka H	糖尿病・内分泌内科	Management of Cushing's disease in the initial phase~From detection to surgery~.	Endocr J. 2025 May 7 ; 72(5):463-473.	Original Article
3	Bando H, Yamamoto M, Iguchi G, et al	糖尿病・内分泌内科	Acquired thyroid-stimulating hormone, luteinizing hormone, and follicle-stimulating hormone deficiencies with circulating anti-glycoprotein hormones alpha chain-positive cell antibodies.	Endocrine. 2024 Nov ; 86(2):769-773.	Case Report
4	Fukuoka H	糖尿病・内分泌内科	When to decide on testosterone replacement despite dopamine agonist therapy in male prolactinomas?	Pituitary. 2024 Oct ; 27(5):449-450.	Original Article
5	Funakoshi Y, Yakushijin K, Ohji G, et al	腫瘍・血液内科	Analysis of B-cell receptor repertoire to evaluate immunogenicity of monovalent Omicron XBB.1.5 mRNA vaccines.	EJHaem. 2024 May 29 ; 5(4):661-668. (オンライン)	Original Article
6	Yamamoto EK, Yamada H, Sendo S, et al	膠原病リウマチ内科	Musculoskeletal ultrasound findings in adult-onset Still's disease: A case series.	Joint Bone Spine. 2024 Dec ; 91(6):105771.	Original Article
7	Shiina T, Yamamoto EK, Yamada H, et al	膠原病リウマチ内科	Idiopathic multicentric Castleman disease-TAFRO after COVID-19: A case report.	Mod Rheumatol Case Rep. 2025 Jan 16 ; 9(1):174- 178.	Case Report
8	Sasaki K, Okada T, Yamaguchi M, et al	放射線診断・IVR科	Interventional Radiology in Treating Acute Mesenteric Arterial Occlusion: A Narrative Review.	Interv Radiol (Higashimatsuyama). 2024 Dec 13 ; 10:e20240018. (オンライン)	Original Article
9	Matsushiro K, Gentsu T, Yamaguchi M, et al	放射線診断・IVR科	Type II Endoleak after Endovascular Aneurysm Repair Using the EXCLUDER Stent Graft System in Patients with Abdominal Aortic Aneurysm.	Interv Radiol (Higashimatsuyama). 2025 Mar 28 ; 10:e20230048. (オンライン)	Original Article
10	Kobayashi K, Ogawa Y, Bessho R, et al	放射線腫瘍科	Achieving a Good Response in Myxofibrosarcoma With Uncontrollable Bleeding Using an Enzyme-Targeting Radiosensitization Treatment: A Case Report.	Cureus. 2025 Jan 21 ; 17(1):e77800. (オンライン)	Case Report

11	Kusumoto J, Furudoi S, Takeda D, et al	歯科口腔外科	Evaluation of Zoledronate for Pain Suppression in Diffuse Sclerosing Osteomyelitis of the Mandible: Protocol for a Prospective, Single-Arm Interventional Study.	Cureus. 2025 Mar 17 ; 17(3):e80739. (オンライン)	Original Article
12	Kakei Y, Irooi T, Miyakoda K, et al	歯科口腔外科	Assessment of Patient Characteristics Influencing the Analgesic Effects of Ibuprofen Gargle After Mandibular Third Molar Extractions.	Cureus. 2024 Apr 3 ; 16(4):e57516. (オンライン)	Original Article
13	Kakei Y, Shimosato M, Soutome S, et al	歯科口腔外科	Interventional Prospective Studies on Xerostomia in Patients Undergoing Palliative and End-of-Life Care: A Scoping Review.	Cureus. 2024 Jun 23 ; 16(6):e63002. (オンライン)	Original Article
14	Goto R, Matsushita T, Ueda Y, et al	リハビリテーション科	Quadriceps strength can improve twelve months after opening wedge high tibial osteotomy and opening wedge distal tibial tubercle osteotomy, particularly after opening wedge high tibial osteotomy.	Knee. 2024 Dec ; 51:258-267.	Original Article
15	Inoue J, Morishita S, Okayama T, et al	リハビリテーション科	Impact of quality of life on mortality risk in patients with esophageal cancer: a systematic review and meta-analysis.	Esophagus. 2024 Jul ; 21(3):270-282.	Original Article
16	Tsuda Y, Yoshikawa R, Matsuda A, et al	リハビリテーション科	Evaluating the Effectiveness of the Driving Resumption Assessment in Brain Disorders: Insights From a Retrospective Observational Study.	Cureus. 2024 Jul 24 ; 16(7):e65304. (オンライン)	Original Article
17	Fujii Y, Yoshikawa R, Kashima R, et al	リハビリテーション科	Evaluation of Changes in Activities of Daily Living and Quality of Life of Patients with Bone Metastasis Who Underwent Conservative Therapy through Bone Metastasis Cancer Boards.	Medicina (Kaunas). 2024 May 29 ; 60(6):906. (オンライン)	Original Article
18	Kashima R, Yoshikawa R, Saho W, et al	リハビリテーション科	Multidisciplinary Treatment for Breast Cancer-related Multiple Bone Metastases during Pregnancy Using Bone Metastasis Cancer Boards: A Case Report.	Prog Rehabil Med. 2024 Oct 2 ; 9:20240032. (オンライン)	Case Report
19	Niino H, Ikegaki S, Iwata K	総合臨床教育センター	Considerations on the Clinical Relevance of Climatic Differences in Pseudomonas aeruginosa Rates in Diabetic Foot Infection.	Open Forum Infect Dis. 2024 Dec 11 ; 12(1):ofae724. (オンライン)	Original Article
20	Oyabu C, Sato I, Yamamoto M, et al	検査部	Impact of anti-squamous cell carcinoma antigen antibodies on serum squamous cell carcinoma antigen levels measured by chemiluminescent immunoassay and chemiluminescent enzyme immunoassay.	Lab Med. 2024 May 2 ; 55(3):341-346.	Original Article
21	Kanzawa M, Kanda T, Fukuoka H, et al	病理診断科	Two Cases of Adrenal Cysts Lined by Thyroid Follicular Epithelium: Addressing Cellular Origin and Malignancy Concerns.	JCEM Case Rep. 2024 Apr 15 ; 2(4):luae058. (オンライン)	Case Report
22	Kodama T, Tani A, Yamane H, et al	病理診断科	A case of pancreatic ductal adenocarcinoma with enteroblastic, neuroendocrine, and squamous differentiation with p53 overexpression and loss of Rb expression.	Int J Surg Case Rep. 2024 Jul ; 120:109854.	Case Report

23	Tsuchiya T, Uehara K, Tanaka T, et al	病理診断科	A Case of Pediatric Mixed Epithelial and Stromal Tumor of the Kidney With Atypical Stromal Cells.	Cureus. 2024 Oct 16 ; 16(10):e71661. (オンライン)	Case Report
24	Mizuta M, Kondo S, Hibi A, et al	リハビリテーション科	Association between preoperative social frailty and malnutrition six months post-surgery in older patients with gastrointestinal cancer: A prospective cohort study.	J Geriatr Oncol. 2024 Jul ; 15(6):101782.	Original Article
25	Kiyota N	腫瘍・血液内科	Patients with head and neck cancer unfit for cisplatin-what next?	Lancet Oncol. 2024 Dec ; 25(12):1513-1514.	Original Article
26	Kurimura T, Omura T, Yamamoto K, et al	薬剤部	Prolonged Prothrombin Time due to Drug-Drug Interaction of Warfarin after the Change from Bosentan to Macitentan: A Case of Pharmacist Intervention in the Outpatient Clinic.	Kobe J Med Sci. 2025 Feb 3 ; 70(4):E125-E129. (オンライン)	Case Report
27	Konishi T, Kitahiro Y, Fujiwara N, et al	薬剤部	Pharmacokinetics of Brexpiprazole, Quetiapine, Risperidone, and Its Active Metabolite Paliperidone in a Postpartum Woman and Her Baby.	Ther Drug Monit. 2024 Oct 1 ; 46(5):687-691.	Case Report
28	Tomida T, Kimura T, Yamamoto K, et al	薬剤部	Evaluation of the drug-drug interactions management system for appropriate use of nirmatrelvir/ritonavir: a retrospective observational study.	J Pharm Health Care Sci. 2024 Sep 3 ; 10(1):54. (オンライン)	Original Article
29	Sakuraya T, Sonomura T, Emura K, et al	リハビリテーション科	Evolutionary Implications of the Human Soleus Muscle Based on the Comparative Anatomy of Detailed Intramuscular Nerve Distribution Patterns in Primates.	J Morphol. 2025 Feb ; 286(2):e70035.	Original Article
30	Hirai M, Amaliin K, Huang JR, et al	感染症内科	HHV-6B ribonucleotide reductase sequesters NF- $\kappa$ B subunit p65 to inhibit innate immune responses.	iScience. 2024 Dec 30 ; 28(2):111710. (オンライン)	Original Article
31	Ishimaru H, Nishimura M, Shigematsu H, et al	感染症内科	Epitopes of an antibody that neutralizes a wide range of SARS-CoV-2 variants in a conserved subdomain 1 of the spike protein.	J Virol. 2024 May 14 ; 98(5):e0041624.	Original Article
32	Effendi GB, Aoki K, Marini MI, et al	感染症内科	Single Amino Acid Substitution Within the Helicase of Varicella Zoster Virus Makes It Resistant to Amenamevir.	J Med Virol. 2024 Nov ; 96(11):e70080.	Original Article
33	Hasegawa N, Nishimura M, Takamiya R, et al	感染症内科	SARS-CoV-2 BA.2.86 is susceptible to the neutralizing antibody MO11 targeting subdomain 1 despite the E554K mutation near the epitope.	J Virol. 2025 Feb 25 ; 99(2):e0138924.	Letter
34	Rhamadianti AF, Abe T, Tanaka T, et al	感染症内科	SARS-CoV-2 papain-like protease inhibits ISGylation of the viral nucleocapsid protein to evade host anti-viral immunity.	J Virol. 2024 Sep 17 ; 98(9):e0085524.	Original Article

35	Hayashi K, Shigemura K, Tanimoto H, et al	感染症内科	Establishment of an artificial urine model in vitro and rat or pig model in vivo to evaluate urinary crystal adherence.	Sci Rep. 2024 May 25 ; 14(1):12001. (オンライン)	Original Article
36	Ikegaki S, Ohji G, Ebisawa KF, et al	感染症内科	Emergence of Daptomycin Nonsusceptibility and Treatment Failure in Patients With <i>Corynebacterium striatum</i> Bacteremia.	Open Forum Infect Dis. 2024 Oct 10 ; 11(11):ofae610. (オンライン)	Original Article
37	Ohji G, Funakoshi Y, Yakushijin K, et al	感染症内科	Analysis of B-cell receptor repertoire to evaluate the immunogenicity of SARS-CoV-2 RBD mRNA vaccine: MAFB-7256a (DS-5670d).	Front Immunol. 2024 Oct 7 ; 15:1468760. (オンライン)	Original Article
38	Inoue Y, Yano Y, Kushida S, et al	消化器内科	Higher Absolute Lymphocyte Counts and Lower Des-I3-Carboxyprothrombin Levels After Treatment Initiation Are Associated With the Clinical Efficacy of Tremelimumab Plus Durvalumab	JGH Open. 2025 Feb 20 ; 9(2):e70123. (オンライン)	Original Article
39	Nishikawa E, Yoshizaki T, Toyonaga T, et al	消化器内科	Refractory gastrointestinal bleeding caused by splenic artery pseudoaneurysm rupture.	Rev Esp Enferm Dig. 2024 Nov 12.	Original Article
40	Sui Y, Hoshi N, Okamoto N, et al	消化器内科	The role of LAT1 in AOM/DSS-induced colorectal tumorigenesis.	Biochem Biophys Res Commun. 2025 Mar 5 ; 751:151446.	Original Article
41	Ueda C, Tanaka S, Yoshizaki T, et al	消化器内科	Improved visibility of palisade vessels within Barrett's esophagus using red dichromatic imaging: a retrospective cross-sectional study in Japan.	Clin Endosc. 2025 Mar ; 58(2):269-277.	Original Article
42	Ito Y, Watanabe D, Okamoto N, et al	消化器内科	Activated type 17 helper T cells affect tofacitinib treatment outcomes.	Sci Rep. 2025 Feb 19 ; 15(1):6112. (オンライン)	Original Article
43	Hori H, Abe H, Tanaka S, et al	消化器内科	Factors associated with the development of bacterial pneumonia and the preventive potential of peroral endoscopic myotomy in patients with esophageal motility disorders: a case-control study.	J Gastroenterol. 2025 Mar 24.	Original Article
44	Shimamoto Y, Takeuchi Y, Ishiguro S, et al	消化器内科	Classification of fundic gland polyps for predicting gastric neoplasms in <i>Helicobacter pylori</i> -negative patients with familial adenomatous polyposis.	Gastric Cancer. 2024 Nov ; 27(6):1311-1319.	Original Article
45	Tada T, Kumada T, Toyoda H, et al	消化器内科	Association of liver fibrosis progression with non-liver-related mortality in metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease.	Hepatol Res. 2025 Jan 19.	Original Article
46	Tada T, Kumada T, Gotoh T, et al	消化器内科	Validation of a B-mode ultrasonography scoring system for assessing liver steatosis: A comparison with MRI-Derived proton density fat fraction.	Hepatol Res. 2025 Mar 27.	Original Article

47	Kohashi S, Sakai A, Furumatsu K, et al	消化器内科	The anti-migration effect of partially covered self-expandable metal stents for unresectable malignant distal biliary obstruction: A multicenter comparative study.	DEN Open. 2025 Mar 20 ; 5(1):e70100. (オンライン)	Original Article
48	Tsujimae M, Saito T, Sakai A, et al	消化器内科	Necrosectomy and its timing in relation to clinical outcomes of EUS-guided treatment of walled-off pancreatic necrosis: a multicenter study.	Gastrointest Endosc. 2025 Jun ; 101(6):1174.e1-1174.e20.	Original Article
49	Miki M, Masuda A, Takenaka M, et al	消化器内科	Association of pancreatic atrophy patterns with intraductal extension of early pancreatic ductal adenocarcinoma: a multicenter retrospective study.	J Gastroenterol. 2024 Dec ; 59(12):1133-1142.	Original Article
50	Abe H, Tanaka S, Sakaguchi H, et al	消化器内科	Risk-scoring system predicting need for hospital-specific interventional care after peroral endoscopic myotomy.	Dig Endosc. 2025 Mar ; 37(3):247-256.	Original Article
51	Kawano M, Yano Y, Yamamoto A, et al	消化器内科	Risk Factors for Immune Checkpoint Inhibitor-Induced Liver Injury and the Significance of Liver Biopsy.	Diagnostics (Basel). 2024 Apr 14 ; 14(8):815. (オンライン)	Original Article
52	Abe H, Sako T, Yamamoto Y, et al	消化器内科	Randomised controlled, patient-blinded, multicentre, superiority trial to evaluate the efficacy of the line-attached sheath-type traction device for endoscopic submucosal dissection in patients with superficial gastric	BMJ Open. 2024 Apr 17 ; 14(4):e078974. (オンライン)	Original Article
53	Abe S, Sakai A, Kodama Y	消化器内科	A Case of Pancreatic Neuroendocrine Carcinoma Involving the Whole Pancreas.	Clin Gastroenterol Hepatol. 2024 Oct ; 22(10):A26.	Case Report
54	Hoki S, Abe H, Ueda C	消化器内科	Muscle resection biopsy during peroral endoscopic myotomy in a patient with achalasia.	Dig Endosc. 2024 Sep ; 36(9):1052-1053.	Original Article
55	Tokuyama N, Ikeda S, Ishida R, et al	消化器内科	Impaired Consciousness Due to Hyperammonemia During S-1 Administration for Unresectable Pancreatic Cancer.	Intern Med. 2025 Mar 1 ; 64(5):695-698.	Case Report
56	Tanaka S, Urakami S, Koma YI	消化器内科	A Circumferential Cervical Inlet Patch Causing Stricture.	Intern Med. 2025 Feb 15 ; 64(4):613-614.	Original Article
57	Fujisawa M, Yoshizaki T, Urakami S, et al	消化器内科	A Case of Olmesartan-associated Gastritis Observed Over Time.	Intern Med. 2024 Nov 28.	Original Article
58	Oka Y, Tanaka T, Kobayashi T, et al	消化器内科	Treatment and Prognosis for Pancreatic Duct Disruption Associated With Pancreatic Cancer: A Case Series of 15 Patients.	Cureus. 2024 Aug 22 ; 16(8):e67482. (オンライン)	Original Article

59	Abe H, Tanaka S, Sakaguchi H, et al	消化器内科	Efficacy of a novel small-caliber therapeutic endoscope in peroral endoscopic myotomy for esophageal motility disorders: a propensity score matching analysis.	Esophagus. 2025 Apr ; 22(2):264-271.	Original Article
60	Hori H, Ikezawa N, Tanaka S, et al	消化器内科	Efficacy and safety of same-day preparation with sodium picosulfate plus magnesium citrate on the day of colonoscopy for bowel preparation: Multicenter, single-arm, open-label study.	J Gastroenterol Hepatol. 2024 Oct ; 39(10):2151-2157.	Original Article
61	Tachihara M	呼吸器内科	Can TTF-1 be an effective biomarker for treatment selection in lung adenocarcinoma?	Respir Investig. 2025 Jan ; 63(1):86-87.	Original Article
62	Tachihara M, Tsujino K	呼吸器内科	Locally Advanced Relapse May Not Be Equal to Stage 3 Non-Small Cell Lung Cancer-Reply.	JAMA Oncol. 2024 Jun 1 ; 10(6):829-830.	Original Article
63	Sato H, Nagano T, Suraya R, et al	呼吸器内科	Reduction in circulating Endothelin-1 levels by inhaled COPD medications.	Respir Med. 2025 Apr-May ; 240:108027.	Original Article
64	Suraya R, Nagano T, Tachihara M	呼吸器内科	Recent Advances in Mesothelioma Treatment: Immunotherapy, Advanced Cell Therapy, and Other Innovative Therapeutic Modalities.	Cancers (Basel). 2025 Feb 18 ; 17(4):694. (オンライン)	Original Article
65	Mimura C, Takamiya R, Fujimoto S, et al	呼吸器内科	Utility of bronchoscopically obtained frozen cytology pellets for next-generation sequencing.	BMC Cancer. 2024 Apr 17 ; 24(1):489. (オンライン)	Original Article
66	Yamada J, Fukui T, Yatani A, et al	呼吸器内科	Impact of concurrent medications on the outcome of immunotherapy in non-small cell lung carcinoma.	Thorac Cancer. 2024 May ; 15(15):1228-1236.	Original Article
67	Fujimoto S, Katsurada N, Hazama D, et al	呼吸器内科	Successful Treatment with Ramucirumab Plus Erlotinib following Osimertinib-induced Interstitial Lung Disease.	Intern Med. 2025 Mar 1 ; 64(5):749-751.	Case Report
68	Sato H, Nagano T, Izumi S, et al	呼吸器内科	Prospective observational study of 2 wearable strain sensors for measuring the respiratory rate.	Medicine (Baltimore). 2024 Jul 19 ; 103(29):e38818.	Original Article
69	Yatani A, Nagano T, Murakami S, et al	呼吸器内科	Randomized crossover trial of a demand oxygen delivery system in nocturnal hypoxemia.	Sci Rep. 2024 Sep 3 ; 14(1):20505. (オンライン)	Original Article
70	Suraya R, Nagano T, Yumura M, et al	呼吸器内科	Loss of JCAD/KIAA1462 Protects the Lung from Acute and Chronic Consequences of Chronic Obstructive Pulmonary Disease.	Int J Mol Sci. 2024 Aug 31 ; 25(17):9492. (オンライン)	Original Article

71	Nagano T, Hashimoto M, Izumi S, et al	呼吸器内科	Effect of 10-minute oropharyngeal exercise on the apnoea-hypopnoea index.	Sci Rep. 2024 Nov 19 ; 14(1):28645. (オンライン)	Original Article
72	Nagano T	呼吸器内科	Biologics treatment for eosinophilic chronic rhinosinusitis complicated by bronchial asthma: Narrative review.	Respir Investig. 2025 Jan ; 63(1):35-39.	Original Article
73	Fujimoto S, Katsurada N, Sasaki R, et al	呼吸器内科	Localized Unresectable Thymic Carcinoma Treated with Induction Chemotherapy with Lenvatinib before Radiotherapy: A Case Report.	Intern Med. 2024 Nov 8.	Original Article
74	Miyazaki K, Yokoi A, Inoue H, et al	糖尿病・内分泌内科	The usefulness of HbA1c measurement in diabetic mouse models using various devices.	Exp Anim. 2025 Jan 28.	Original Article
75	Inoue H, Asahara SI, Nakamura F, et al	糖尿病・内分泌内科	A High Fibrosis-4 Index is Associated with a Reduction in the Estimated Glomerular Filtration Rate in Non-obese Japanese Patients with Type 2 Diabetes Mellitus.	Kobe J Med Sci. 2024 Apr 30 ; 70(1):E39-E45. (オンライン)	Original Article
76	Bando H, Urai S, Kanie K, et al	糖尿病・内分泌内科	Hypopituitarism: genetic, developmental, and acquired etiologies with a focus on the emerging concept of autoimmune hypophysitis.	Endocr J. 2025 Mar 27.	Original Article
77	Nishikage S, Hirota Y, Takayoshi T, et al	糖尿病・内分泌内科	Utility of the C-peptide/insulin molar ratio for distinguishing type A insulin resistance syndrome from type 2 diabetes.	J Clin Endocrinol Metab. 2025 Jan 28:dga043.	Original Article
78	Yokoi A, Asahara SI, Inoue H, et al	糖尿病・内分泌内科	miR378a-3p in serum extracellular vesicles is associated with pancreatic beta-cell mass in diabetic states.	Biochem Biophys Res Commun. 2025 Mar 1 ; 750:151367.	Original Article
79	Fukuoka H, Endo T, Tsuboi S, et al	糖尿病・内分泌内科	Prevalence and risk of complications in untreated patients with adult growth hormone deficiency.	Pituitary. 2025 Feb 18 ; 28(2):32. (オンライン)	Original Article
80	Nishikage S, Yamamoto M, Niikura T, et al	糖尿病・内分泌内科	Efficacy of asfotase alfa in a patient with adult-onset hypophosphatasia without obvious bone lesions: a case report with review of literature.	Endocr J. 2025 Apr 1 ; 72(4):437-445.	Case Report
81	Nishikage S, Nakagawa Y, Hirota Y, et al	糖尿病・内分泌内科	Effects of intermittently scanned continuous glucose monitoring on body weight and glycemic variability in individuals with overweight and impaired glucose tolerance or mild diabetes: A pilot randomized	Obes Res Clin Pract. 2025 Jan-Feb ; 19(1):70-76.	Original Article
82	Sakaguchi K, Sugawara K, Hosokawa Y, et al	糖尿病・内分泌内科	Metformin-regulated glucose flux from the circulation to the intestinal lumen.	Commun Med (Lond). 2025 Mar 3 ; 5(1):44. (オンライン)	Original Article

83	Nishikage S, Hirota Y, Nakagawa Y, et al	糖尿病・内分泌内科	Relation between obesity and health disorders as revealed by the J-ORBIT clinical information collection system directly linked to electronic medical records (J-ORBIT 1).	J Diabetes Investig. 2025 Mar 27.	Original Article
84	Takayoshi T, Hirota Y, Yamamoto A, et al	糖尿病・内分泌内科	Impact of a COVID-19 emergency declaration on blood glucose levels in individuals with type 1 diabetes treated with a sensor-augmented pump.	Diabetol Int. 2025 Feb 3 ; 16(2):379-384. (オンライン)	Original Article
85	Yamada T, Sugimoto H, Hironaka KI, et al	糖尿病・内分泌内科	Mathematical Models of the Effect of Glucagon on Glycemia in Individuals With Type 2 Diabetes Treated With Dapagliflozin.	J Endocr Soc. 2024 Apr 8 ; 8(6):bvae067. (オンライン)	Original Article
86	Nomura K, Inagaki S, Muramae N, et al	糖尿病・内分泌内科	Association of short-term changes in HbA1c with body composition and the importance of muscle maintenance in patients with Type 2 diabetes.	J Diabetes Complications. 2024 Jun ; 38(6):108746.	Original Article
87	Hirota Y, Kakei Y, Imai J, et al	糖尿病・内分泌内科	A multicenter, open-label, single-arm trial of the long-term safety of empagliflozin treatment for refractory diabetes mellitus with insulin resistance (EMPIRE-02).	J Diabetes Investig. 2024 Sep ; 15(9):1211-1219.	Original Article
88	Nagano K, Motomura Y, Bando H, et al	糖尿病・内分泌内科	Thyroid dysfunction due to trace element deficiency-not only selenium but also zinc.	Hormones (Athens). 2024 Dec ; 23(4):675-681.	Case Report
89	Urai S, Tomofuji S, Bando H, et al	糖尿病・内分泌内科	The early-stage clinical course of anti-pituitary-specific transcription factor-1 hypophysitis diagnosed post-immune checkpoint inhibitor treatment: A case with review of literature.	J Neuroendocrinol. 2024 Jun ; 36(6):e13395.	Case Report
90	Motomura Y, Urai S, Bando H, et al	糖尿病・内分泌内科	Diagnostic dilemma in Cushing's syndrome: discrepancy between patient-reported and physician-assessed manifestations.	Endocrine. 2024 Oct ; 86(1):417-427.	Original Article
91	Yokoi A, Asahara SI, Inoue H, et al	糖尿病・内分泌内科	Dapagliflozin administration to a mouse model of type 2 diabetes induces DNA methylation and gene expression changes in pancreatic islets.	Biochem Biophys Res Commun. 2024 Sep 17 ; 725:150254.	Original Article
92	Nomura K, Kinoshita S, Mizusaki N, et al	糖尿病・内分泌内科	Adaptive gene expression of alternative splicing variants of PGC-1 $\pm$ regulates whole-body energy metabolism.	Mol Metab. 2024 Aug ; 86:101968.	Original Article
93	Oi-Yo Y, Urai S, Yamamoto A, et al	糖尿病・内分泌内科	Seasonal fluctuations of CGM metrics in individuals with type 1 diabetes using an intermittently scanned CGM device or sensor augmented pump.	Endocrine. 2025 Jan ; 87(1):85-93.	Original Article
94	Ueda M, Zenibayashi M, Yamada T, et al	糖尿病・内分泌内科	Comparison over Time of Adverse Drug Reactions in Diabetes Patients Treated with Sodium-Glucose Cotransporter 2 Inhibitors.	Kobe J Med Sci. 2024 Jul 25 ; 70(3):E81-E88. (オンライン)	Original Article

95	Ogawa W, Urakami T, Kadowaki T, et al	糖尿病・内分泌内科	Glycemic metrics in Japanese isCGM users – Analysis by diabetes type and therapy.	J Diabetes Investig. 2024 Oct ; 15(10):1483-1488.	Original Article
96	Ichinose Y, Nakatsuji M, Bando H, et al	糖尿病・内分泌内科	Understanding negative feedback: Changes in high-molecular-weight adrenocorticotrophic hormone in adrenocorticotrophic hormone-independent Cushing's syndrome.	J Neuroendocrinol. 2024 Nov ; 36(11):e13438.	Case Report
97	Urai S, Bando H, Nakatsuji M, et al	糖尿病・内分泌内科	Acquired isolated ACTH deficiency co-occurrence with breast cancer irrespective of paraneoplastic syndrome: coincidence or inevitability.	Endocrinol Diabetes Metab Case Rep. 2024 Sep 19 ; 2024(3):23-0129. (オンライン)	Original Article
98	Yoshimura K, Hirota Y, Saito S, et al	糖尿病・内分泌内科	Prediction of insulin requirements by explainable machine learning for individuals with type 1 diabetes.	J Clin Endocrinol Metab. 2024 Dec 11:dgae863.	Original Article
99	Bando H, Hirota Y, Ogawa W	糖尿病・内分泌内科	Sodium-glucose cotransporter-2 inhibitor-associated thrombocytopenia.	Hormones (Athens). 2025 Mar ; 24(1):165-166.	Letter
100	Oi-Yo Y, Yamamoto M, Urai S, et al	糖尿病・内分泌内科	Long-term metabolic effectiveness and safety of growth hormone replacement therapy in patients with adult growth hormone deficiency: a single-institution study in Japan.	Pituitary. 2024 Oct ; 27(5):605-613.	Original Article
101	Takai T, Asahara SI, Ikushiro H, et al	糖尿病・内分泌内科	Protective effect of CK2 against endoplasmic reticulum stress in pancreatic I2 cells.	Diabetol Int. 2024 Nov 30 ; 16(1):131-144. (オンライン)	Original Article
102	Suzuki M, Hirota Y, Urai S, et al	糖尿病・内分泌内科	Immune checkpoint inhibitor-related diabetes mellitus associated with high signal intensity in diffusion-weighted magnetic resonance imaging of the pancreas at an early clinical stage.	Hormones (Athens). 2025 Jan 17.	Original Article
103	Tsujimoto Y, Yamamoto N, Bando H, et al	糖尿病・内分泌内科	Metyrapone single administration, as a possible predictive tool of its dosage and timing in Cushing's syndrome.	Front Endocrinol (Lausanne). 2024 Dec 23 ; 15:1511155. (オンライン)	Original Article
104	Okano M, Yui M, Teshima M, et al	救命救急センター	Spontaneous neck hematoma associated with parathyroid adenoma.	Clin Case Rep. 2024 Aug 28 ; 12(9):e9383. (オンライン)	Case Report
105	Goto S, Hamano T, Taniguchi M, et al	腎臓内科	Patient characteristics modify the association between changes in mineral metabolism parameters and mortality in a nationwide hemodialysis cohort study.	Sci Rep. 2025 Mar 8 ; 15(1):8089. (オンライン)	Original Article
106	Goto S, Hamano T, Fujii H, et al	腎臓内科	The benefit of reduced serum phosphate levels depends on patient characteristics: a nationwide prospective cohort study.	Clin Kidney J. 2024 Oct 4 ; 17(10):sfae263. (オンライン)	Original Article

107	Yasuba H, Yamada H, Togo M, et al	膠原病リウマチ内科	Subarachnoid Hemorrhaging with Multiple Cerebral Artery Stenoses after Initiating Remission Induction Therapy for Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis.	Intern Med. 2024 Dec 15 ; 63(24):3389-3394.	Case Report
108	Yamada H, Jinno S, Maeda T, et al	膠原病リウマチ内科	Trends of disease activity in Japanese patients over 75 years with rheumatoid arthritis from 2014 to 2021: the ANSWER cohort study.	Rheumatology (Oxford). 2024 Aug 1 ; 63(8):2147-2151.	Original Article
109	Yoneda K, Sendo S, Okano T, et al	膠原病リウマチ内科	Impact of dysregulated microbiota-derived C18 polyunsaturated fatty acid metabolites on arthritis severity in mice with collagen-induced arthritis.	Front Immunol. 2025 Jan 9 ; 15:1444892. (オンライン)	Original Article
110	Nishisaka K, Ueda Y, Inoue M, et al	膠原病リウマチ内科	Three cases of relapsed eosinophilic sinusitis without eosinophilia during mepolizumab maintenance therapy for eosinophilic granulomatosis with polyangiitis.	Clin Rheumatol. 2024 Nov ; 43(11):3577-3580.	Case Report
111	Suehiro H, Sekiguchi K, Noda Y, et al	脳神経内科	Diaphragmatic Compound Muscle Action Potentials Correlate With the Clinical Severity of Myasthenia Gravis.	Muscle Nerve. 2025 Jun ; 71(6):1043-1051.	Original Article
112	Togo M, Matsumoto R, Shimotake A, et al	脳神経内科	Role of the premotor and the precentral negative motor area in praxis: A direct electrical stimulation study with behavioral analysis.	Clin Neurophysiol. 2025 May ; 173:66-75.	Original Article
113	Matoba K, Matsumoto R, Shimotake A, et al	脳神経内科	Basal temporal language area revisited in Japanese language with a language function density map.	Cereb Cortex. 2024 Jun 4 ; 34(6):bhae218.	Original Article
114	Noda Y, Sekiguchi K, Matoba S, et al	脳神経内科	Real-time artificial intelligence-based texture analysis of muscle ultrasound data for neuromuscular disorder assessment.	Clin Neurophysiol Pract. 2024 Aug 19 ; 9:242-248. (オンライン)	Original Article
115	Sekiguchi K, Kawano S, Chihara N, et al	脳神経内科	Live Streaming of the Professor's Ward Rounds in Undergraduate Neurology Education: Usability Study.	JMIR Form Res. 2024 Aug 22 ; 8:e50128. (オンライン)	Original Article
116	Kimura M, Fujiwara S, Kuroda H, et al	脳神経内科	Choroid plexitis caused by Burkholderia cepacia complex after COVID-19.	Int J Infect Dis. 2024 Oct ; 147:107201.	Case Report
117	Sekiya H, Franke L, Hashimoto Y, et al	脳神経内科	Widespread Distribution of I±-Synuclein Oligomers in LRRK2-related Parkinson's Disease.	bioRxiv [Preprint]. 2024 Dec 20:2024.12.18.629265. (オンライン)	Original Article
118	Watanabe S, Sekiguchi K, Suehiro H, et al	脳神経内科	Decreased diaphragm moving distance measured by ultrasound speckle tracking reflects poor prognosis in amyotrophic lateral sclerosis.	Clin Neurophysiol Pract. 2024 Oct 22 ; 9:252-260. (オンライン)	Original Article

119	Yamamoto K, Hirakawa Y, Matsumoto S, et al	腫瘍・血液内科	Near-triploidy with four Philadelphia chromosomes in adult B-lymphoblastic leukemia with BCR::ABL1 fusion.	Int J Lab Hematol. 2024 Dec ; 46(6):988-990.	Case Report
120	Imamura Y, Kiyota N, Tahara M, et al	腫瘍・血液内科	Risk prediction model for cisplatin-induced acute kidney injury in patients with head and neck cancer receiving chemoradiotherapy: A re-analysis of a phase II/III JCOG1008 trial.	Oral Oncol. 2024 Jul ; 154:106868.	Original Article
121	Koyama T, Kiyota N, Boku S, et al	腫瘍・血液内科	A phase II trial of paclitaxel plus biweekly cetuximab for patients with recurrent or metastatic head and neck cancer previously treated with both platinum-based chemotherapy and anti-PD-1 antibody.	ESMO Open. 2024 Jun ; 9(6):103476.	Original Article
122	Nagatani Y, Kiyota N, Imamura Y, et al	腫瘍・血液内科	Different characteristics of the tumor immune microenvironment among subtypes of salivary gland cancer.	Asia Pac J Clin Oncol. 2024 Dec ; 20(6):779-788.	Original Article
123	Nakayama M, Sekii S, Miyazaki E, et al	放射線部	Dosimetric impact of VMAT delivery angles for early glottic cancer treatment.	Med Dosim. 2024 Winter ; 49(4):314-320.	Original Article
124	Seno S, Iwashita K, Kajiwara A, et al	放射線部	Targeting Anterior Commissure Involvement with Hyperfractionated Radiotherapy for T1-T2 Squamous Cell Carcinoma of the Glottic Larynx.	Cancers (Basel). 2024 May 12 ; 16(10):1850. (オンライン)	Original Article
125	Nakayama M, Noda A, Akasaka H, et al	放射線部	Ultrasound-stimulated Microbubbles for Treatment of Pancreatic Cancer Cells with Radiation and Nanoparticles: In vitro Study.	J Med Phys. 2024 Jul-Sep ; 49(3):326-334.	Original Article
126	Shimizu Y, Hirano S, Salah M, et al	放射線部	Black Soybean Seed Coat Extract Suppresses Gut Tumorigenesis by Augmenting the Production of Gut Microbiota-Derived Short-Chain Fatty Acids.	Cancers (Basel). 2024 Nov 15 ; 16(22):3846. (オンライン)	Original Article
127	Horinouchi T, Nozu K, Iijima K	小児科	Genetic aspects of pediatric nephrotic syndrome and anti-nephrin antibodies.	Clin Exp Nephrol. 2025 May ; 29(5):534-540.	Original Article
128	Iketani K, Awano H, Hashimura H, et al	小児科	Total Intramuscular Fat Fraction of Thigh Muscles as a Predictor of Nusinersen Efficacy in Pediatric SMA Type II and III.	Diagnostics (Basel). 2025 Mar 17 ; 15(6):753. (オンライン)	Original Article
129	Ueda C, Horinouchi T, Inoki Y, et al	小児科	Clinical characteristics and outcomes of immune-complex membranoproliferative glomerulonephritis and C3 glomerulopathy in Japanese children.	Pediatr Nephrol. 2024 Sep ; 39(9):2679-2689.	Original Article
130	Nagano C, Nozu K	小児科	A review of the genetic background in complicated WT1-related disorders.	Clin Exp Nephrol. 2025 Jan ; 29(1):1-9.	Original Article

131	Tanaka Y, Nagano C, Sakakibara N, et al	小児科	Phenotype and genotype of autosomal dominant tubulointerstitial kidney disease in a Japanese cohort.	Clin Exp Nephrol. 2025 Feb 20.	Original Article
132	Asagai Y, Morisada N, Miki Y, et al	小児科	Fatal encephalopathy and congenital heart defects with MEF2C-related disorder.	Pediatr Int. 2025 Jan-Dec ; 67(1):e15883.	Original Article
133	Hanafusa H, Yamaguchi H, Morisada N, et al	小児科	Identification of Genetic Variants in Status Epilepticus Associated With Fever.	Brain Behav. 2025 Feb ; 15(2):e70279.	Original Article
134	Sakakibara N, Nozu K	小児科	Tubular proteinuria due to hereditary endocytic receptor disorder of the proximal tubule: Dent disease and chronic benign proteinuria.	Pediatr Nephrol. 2025 Mar 31.	Original Article
135	Nishimura A, Tamura A, Fujikawa T, et al	小児科	KMT2A-CBL fusion gene in the first reported case of T-cell acute lymphoblastic leukemia associated with Wiedemann-Steiner syndrome.	Int J Hematol. 2025 Mar 28.	Original Article
136	Inoki Y, Horinouchi T, Aoyama S, et al	小児科	Differences in kidney prognosis between congenital and infantile nephrotic syndrome.	Pediatr Nephrol. 2025 Mar 17.	Original Article
137	Hong S, Iketani K, Sonehara S, et al	小児科	Epidemiology of SARS-CoV-2 Infection in Patients with Neuromuscular Disease and Inborn Errors of Metabolism: A Cross-sectional Study for a Pediatric Outpatient Referral in Japan.	Kobe J Med Sci. 2025 Feb 3 ; 70(4):E106-E112. (オンライン)	Original Article
138	Kitakado H, Horinouchi T, Aoyama S, et al	小児科	COL4A5 Intronic Variants at Third to Fifth Nucleotides Cause Alport Syndrome.	Kidney Int Rep. 2024 Nov 16 ; 10(2):516-521. (オンライン)	Original Article
139	Ishimori S, Fujimura J, Nishiyama A, et al	小児科	Increased kidney length in mild urinary tract dilatation is a significant prognostic factor for non-resolution.	Pediatr Nephrol. 2025 Mar 7.	Original Article
140	Tokumoto S, Nishiyama M, Yamaguchi H, et al	小児科	Epidemiology and treatment trends for acute encephalopathy under the impact of SARS-CoV-2 pandemic based on a prospective multicenter consecutive case registry.	J Neurol Sci. 2025 Feb 15 ; 469:123377.	Original Article
141	Nakatani N, Win KHN, Mon CY, et al	小児科	Distinct Expression Profiles of Neuroblastoma-Associated mRNAs in Peripheral Blood and Bone Marrow of Non-High-Risk and High-Risk Neuroblastoma Patients.	Biology (Basel). 2024 May 15 ; 13(5):345. (オンライン)	Original Article
142	Tanaka Y, Horinouchi T, Inoki Y, et al	小児科	Nephronophthisis 13 caused by WDR19 variants with pancytopenia: case report.	CEN Case Rep. 2024 Dec ; 13(6):474-478.	Case Report

143	Inoue S, Kondo A, Inoki Y, et al	小児科	Evaluation of pathogenicity of WT1 intron variants by in vitro splicing analysis.	Clin Exp Nephrol. 2024 Nov ; 28(11):1075-1081.	Original Article
144	Naito S, Fukushima S, Ioroi T, et al	小児科	A Case of an Extremely Preterm Infant with Intussusception Triggered by Acquired Cytomegalovirus Infection.	Kobe J Med Sci. 2024 Jun 12 ; 70(2):E66-E69. (オンライン)	Case Report
145	Ashina M, Kido T, Shirai K, et al	小児科	A neonatal mouse model of meconium peritonitis generated using human meconium slurry.	Pediatr Res. 2024 Aug 21.	Original Article
146	Inoki Y, Horinouchi T, Yamamura T, et al	小児科	Clinical, Pathological, and Genetic Characteristics of Patients with Digenic Alport Syndrome.	Kidney360. 2024 Oct 1 ; 5(10):1510-1517.	Original Article
147	Ichikawa Y, Sakakibara N, Nagano C, et al	小児科	In steroid-resistant nephrotic syndrome that meets the strict definition, monogenic variants are less common than expected.	Pediatr Nephrol. 2024 Dec ; 39(12):3497-3503.	Original Article
148	Ichikawa Y, Sakakibara N, Nozu K	小児科	Response to Dr. Fujinaga and Dr. Watanabe: what is the most appropriate cut-off for hypoalbuminemia in nephrotic syndrome?	Pediatr Nephrol. 2024 Dec ; 39(12):3625.	Letter
149	Uechi T, Horinouchi T, Inoki Y, et al	小児科	12-Year-Old Girl with Systemic Lupus Erythematosus Complicated by Gangrene and Intermittent Claudication.	Mod Rheumatol Case Rep. 2025 Feb 3:rxaf006.	Original Article
150	Nambu Y, Matsumura T, Machida K, et al	小児科	The N-Terminal Fragment of Urine Titin Is Not a Product of Degradation by Calpain 3.	Muscle Nerve. 2025 Mar ; 71(3):442-445.	Original Article
151	Yamamura T, Nozu K	小児科	Exon Skipping Therapies for Rare Kidney Diseases.	J Am Soc Nephrol. 2025 May 1 ; 36(5):967-969.	Original Article
152	Tanaka Y, Horinouchi T, Inoki Y, et al	小児科	Saline versus balanced crystalloids for hydration post-kidney biopsy.	Pediatr Nephrol. 2025 Apr ; 40(4):1033-1040.	Original Article
153	Oikawa S, Yamaguchi H, Nishiyama M, et al	小児科	Elevated cerebrospinal fluid neuronal injury biomarkers within 24 hours of onset in infection-triggered acute encephalopathy compared to complex febrile seizures.	J Neurol Sci. 2024 Nov 15 ; 466:123238.	Original Article
154	Ueda T, Nishiyama M, Yamaguchi H, et al	小児科	Efficacy and safety of buccal midazolam for seizures outside the hospital: Real-world clinical experience.	Brain Dev. 2024 Nov ; 46(10):332-338.	Original Article

155	Kishimoto M, Iwayama T, Horita N, et al	皮膚科	Case report: Usefulness of a picosecond Alexandrite laser therapy on atypical henna-induced Riehl's melanosis inferred from immunohistochemical analyses.	Front Med (Lausanne). 2024 Jun 11 ; 11:1401938. (オンライン)	Case Report
156	Kubo A	皮膚科	Perspectives and history in genodermatoses.	J Dermatol. 2025 Mar ; 52(3):391.	Original Article
157	Takemori C, Koyanagi-Aoi M, Fukumoto T, et al	皮膚科	Revealing the UV response of melanocytes in xeroderma pigmentosum group A using patient-derived induced pluripotent stem cells.	J Dermatol Sci. 2024 Sep ; 115(3):111-120.	Original Article
158	Tanaka N, Fukumoto T, Otsuka H, et al	皮膚科	A case of solar urticaria with inhibition spectrum in ultraviolet radiation A and visible light successfully treated by ultraviolet radiation A rush hardening therapy.	J Dermatol. 2025 Feb ; 52(2):e149-e150.	Letter
159	Fukunaga A, Kakei Y, Murakami S, et al	皮膚科	Efficacy and safety of switching to bilastine, an H1-antihistamine, in patients with refractory chronic spontaneous urticaria (H1-SWITCH): a multicenter, open-label, randomized, parallel-group comparative study.	Front Immunol. 2024 Sep 16 ; 15:1441478. (オンライン)	Original Article
160	Fukumoto A, Fukumoto T, Sato A, et al	皮膚科	Acute generalized exanthematous pustulosis showing a discrepancy between results of patch test and drug-induced lymphocyte stimulation test.	J Dermatol. 2025 Apr ; 52(4):e319-e320.	Letter
161	Okuwa M, Tsujimoto M, Nakano E, et al	皮膚科	A Case of Xeroderma Pigmentosum Variant Type With a Novel Mutation Diagnosed in Early Childhood.	Photodermatol Photoimmunol Photomed. 2025 Jan ; 41(1):e70000.	Original Article
162	Mizuno M, Imamura S, Yoshioka A, et al	皮膚科	Effect of house dust mite sublingual immunotherapy in patients with adult atopic dermatitis with rhinitis.	Future Sci OA. 2024 Dec 31 ; 10(1):2419779.	Original Article
163	Tsujimoto M, Fujita T, Furukawa T, et al	皮膚科	Melatonin mitigates UV-induced tumorigenesis and suppresses hearing function deterioration in Xpa-deficient mice.	J Dermatol Sci. 2025 Mar ; 117(3):81-87.	Original Article
164	Kimura K, Fukumoto T, Kubo A	皮膚科	A case of localized scleroderma with variable response to excimer light therapy.	J Dermatol. 2025 May ; 52(5):e377-e378.	Letter
165	Fukumoto T, Shimosawa T, Yakabe M, et al	皮膚科	Recent advances in biomarkers for senescence: Bridging basic research to clinic.	Geriatr Gerontol Int. 2025 Feb ; 25(2):139-147.	Original Article
166	Kubo A	皮膚科	History and prospects of Nagashima-type palmoplantar keratosis, the most common palmoplantar keratoderma in east Asian populations.	J Dermatol. 2025 Mar ; 52(3):408-415.	Original Article

167	Fukumoto T, Tanaka R, Tanaka R, et al	皮膚科	Primary localized cutaneous amyloidosis associated with atopic dermatitis treated successfully with nemolizumab.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2024 Nov ; 38(11):e989-e992.	Letter
168	Jiang W, Shirai T, Otsuka I, et al	精神科神経科	Epigenetic Clock Analysis for National Institutes of Health Stroke Scale in Patients With Ischemic Stroke.	Neuropsychopharmacol Rep. 2025 Mar ; 45(1):e70009.	Original Article
169	Minami H, Shirai T, Okada S, et al	精神科神経科	Comprehensive analysis including in-game spending and violent game playing in patients with internet gaming disorder.	Neuropsychopharmacol Rep. 2024 Sep ; 44(3):631-638.	Original Article
170	Shirai T, Okazaki S, Tanifuji T, et al	精神科神経科	Meta-analyses of epigenetic age acceleration and GrimAge components of schizophrenia or first-episode psychosis.	Schizophrenia (Heidelb). 2024 Nov 15 ; 10(1):108. (オンライン)	Original Article
171	Shirai T, Tanifuji T, Otsuka I, et al	精神科神経科	Preliminary development of a risk predictor for severe complication in patients with anorexia nervosa.	Psychiatry Res. 2024 Dec ; 342:116151.	Original Article
172	Otsuka I, Uchiyama S, Shirai T, et al	精神科神経科	Increased somatic mosaicism in autosomal and X chromosomes for suicide death.	Mol Psychiatry. 2025 Mar ; 30(3):881-888.	Original Article
173	Nishimura Y, Yotsumoto K, Hashimoto T	精神科神経科	Impacts of a Self-directed Social Resources Study Program on Negative Symptoms and Quality of Life in Schizophrenia Outpatients: A Randomized Controlled Trial.	Kobe J Med Sci. 2024 Apr 1 ; 70(1):E15-E21. (オンライン)	Original Article
174	Yamaguchi T, Matsuda Y, Watanabe H, et al	緩和ケアセンター	Treatment Recommendation for Dyspnea in Patients with Advanced Disease: Revised Clinical Guidelines from the Japanese Society for Palliative Medicine.	J Palliat Med. 2024 Oct ; 27(10):1404-1414.	Original Article
175	Matsunuma R, Yamaguchi T, Matsumoto K, et al	緩和ケアセンター	Unmet Palliative Care Needs of Patients with Stage B Chronic Heart Failure Classified by the American Heart Association/American College of Cardiology.	Indian J Palliat Care. 2024 Oct-Dec ; 30(4):384-387.	Original Article
176	Goto H, Oshikiri T, Kato T, et al	食道胃腸外科	Protocol for a phase II study to evaluate the efficacy and safety of nivolumab as a postoperative adjuvant therapy for patients with esophageal cancer treated with preoperative docetaxel, cisplatin plus 5-fluorouracil	PLoS One. 2024 Apr 18 ; 19(4):e0299742. (オンライン)	Original Article
177	Shirakami N, Kanaji S, Shimada A, et al	食道胃腸外科	Minimally invasive elective gastrectomy after preoperative chemotherapy in a patient with frailty who presented with locally advanced-stage gastric cancer: a case report.	Surg Case Rep. 2024 Jun 13 ; 10(1):145. (オンライン)	Original Article
178	Goto H, Oshikiri T, Koterazawa Y, et al	食道胃腸外科	The totally mechanical Collard technique for cervical esophagogastric anastomosis reduces anastomotic stricture compared with triangular anastomosis in minimally invasive esophagectomy with gastric conduit	Esophagus. 2025 Jan ; 22(1):59-67.	Original Article

179	Koterazawa Y, Goto H, Kaneko T, et al	食道胃腸外科	Risk factors of poor long-term outcomes in elderly patients with esophageal squamous cell carcinoma after minimally invasive esophagectomy.	Surg Today. 2025 May ; 55(5):659-667.	Original Article
180	Imai M, Matsuda T, Sawada R, et al	食道胃腸外科	Laparoscopic surgery for pelvic developmental cyst in adults: A report of four cases.	Asian J Endosc Surg. 2025 Jan-Dec ; 18(1):e13405.	Case Report
181	Kanaji S, Urakawa N, Harada H, et al	食道胃腸外科	Open left diaphragm method enables safe surgery with a good visual field in a laparoscopic transhiatal approach for esophagogastric junction adenocarcinoma laparoscopic transhiatal reconstruction via an open	Langenbecks Arch Surg. 2024 Jun 5 ; 409(1):174. (オンライン)	Original Article
182	Tsuneki T, Matsuda T, Sawada R, et al	食道胃腸外科	Clinical significance of the maximum standardized uptake value on positron emission tomography to predict treatment response and outcomes in patients with rectal cancer undergoing neoadjuvant chemoradiotherapy.	Surg Today. 2025 Feb ; 55(2):154-161.	Original Article
183	Koterazawa Y, Goto H, Saiga H, et al	食道胃腸外科	The number of resected lymph nodes from the upper mediastinal area predicts long-term outcomes of esophageal squamous cell carcinoma after minimally invasive esophagectomy.	Surg Endosc. 2024 Jul ; 38(7):3625-3635.	Original Article
184	Mukohyama J, Koizumi M, Yamashita K, et al	食道胃腸外科	Knockdown of CDX2 Induces microRNA-221 Up-regulation in Human Colon Cancer Cells.	Anticancer Res. 2024 Aug ; 44(8):3553-3556.	Original Article
185	Kakeji Y, Yamamoto H, Watanabe M, et al	食道胃腸外科	Outcome research on esophagectomy analyzed using nationwide databases in Japan: evidences generated from real-world data.	Esophagus. 2024 Oct ; 21(4):411-418.	Original Article
186	Nakanishi T, Koma YI, Miyako S, et al	食道胃腸外科	AREG Upregulation in Cancer Cells via Direct Interaction with Cancer-Associated Fibroblasts Promotes Esophageal Squamous Cell Carcinoma Progression Through EGFR-Erk/p38 MAPK Signaling.	Cells. 2024 Oct 19 ; 13(20):1733. (オンライン)	Original Article
187	Koterazawa Y, Goto H, Saiga H, et al	食道胃腸外科	Omission of lymph node dissection along the recurrent laryngeal nerve for lower thoracic esophageal squamous cell carcinoma with short esophageal invasion.	World J Surg. 2025 Feb ; 49(2):494-501.	Original Article
188	Torigoe R, Oshikiri T, Goto H, et al	食道胃腸外科	Prognostic Impact of Squamous Cell Carcinoma Antigen During Neoadjuvant Chemotherapy for Patients With Esophageal Squamous Cell Carcinoma Treated With Minimally Invasive Esophagectomy.	Anticancer Res. 2024 Dec ; 44(12):5485-5493.	Original Article
189	Matsuda T, Yamashita K, Hasegawa H, et al	食道胃腸外科	Efficacy and long-term outcomes of abdominoperineal resection using transperineal total mesorectal excision approach for rectal cancer.	Surg Today. 2025 Apr ; 55(4):579-587.	Original Article
190	Saiga H, Oshikiri T, Goto H, et al	食道胃腸外科	Predictive factors for refractory anastomotic stricture after cervical triangular anastomosis with gastric conduit reconstruction through the posterior mediastinum in minimally invasive esophagectomy.	J Gastrointest Surg. 2024 Dec ; 28(12):2001-2007.	Original Article

191	Kusuhara T, Gon H, Terashima K, et al	肝胆膵外科	Comparison of Prognostic Outcomes Between Repeat Liver Resection and Particle Therapy for Patients with Recurrent Hepatocellular Carcinoma.	Ann Surg Oncol. 2025 Feb ; 32(2):1073-1082.	Original Article
192	Ishihara N, Komatsu S, Yano Y, et al	肝胆膵外科	Treatment Outcomes of Tyrosine Kinase Inhibitors and Durvalumab Plus Tremelimumab After Atezolizumab Plus Bevacizumab for Hepatocellular Carcinoma.	Anticancer Res. 2025 Jan ; 45(1):251-260.	Original Article
193	Komatsu S, Nagamata S, Terashima K, et al	肝胆膵外科	Combination Treatment with Spacer Placement Surgery Followed by Particle Radiotherapy for Lymph Node Metastasis from Uterine Cancer.	Ann Surg Oncol. 2025 Jun ; 32(6):4313-4321.	Original Article
194	Gon H, Komatsu S, Soyama H, et al	肝胆膵外科	Impact of depth of body cavity at the upper-right portion of the abdomen on open and laparoscopic liver resection of segment 7.	Langenbecks Arch Surg. 2025 Jan 13 ; 410(1):37. (オンライン)	Original Article
195	Nanno Y, Toyama H, Nagai K, et al	肝胆膵外科	Endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition allows a reliable proliferation assessment of small (a??20a??m) pancreatic neuroendocrine tumors.	Ann Gastroenterol Surg. 2024 Oct 9 ; 9(2):339-346. (オンライン)	Original Article
196	Komatsu S, Yano Y, Ishihara N, et al	肝胆膵外科	Treatment outcomes of hepatectomy and systemic chemotherapy based on oncological resectability criteria for hepatocellular carcinoma.	Ann Gastroenterol Surg. 2024 Dec 20 ; 9(2):235-243. (オンライン)	Original Article
197	Gon H, Komatsu S, Soyama H, et al	肝胆膵外科	Impact of bile leak on the prognosis of patients with hepatocellular carcinoma who have undergone liver resection.	Langenbecks Arch Surg. 2024 Jul 30 ; 409(1):233. (オンライン)	Original Article
198	Urade T, Tsuchida S, Oji K, et al	肝胆膵外科	Development of a novel fluorescent gauze using indocyanine green.	Sci Rep. 2025 Mar 25 ; 15(1):10189. (オンライン)	Original Article
199	Komatsu S, Yano Y, Terashima K, et al	肝胆膵外科	The potential efficacy of atezolizumab plus bevacizumab treatment for hepatocellular carcinoma patients with macroscopic portal vein tumor thrombus.	Surg Today. 2025 Feb 11.	Original Article
200	Fujisawa A, Komatsu S, Omiya S, et al	肝胆膵外科	Evaluation of Interaction With Bio-absorbable Polyglycolic Acid Spacer and Anti-adhesive Agents Using a Rat Experimental Model.	Anticancer Res. 2024 Aug ; 44(8):3349-3353.	Original Article
201	Oji K, Urade T, Kido M, et al	肝胆膵外科	Comparison of laparoscopic liver resection for the ventral versus the dorsal areas of segment 8.	Langenbecks Arch Surg. 2024 Aug 7 ; 409(1):243. (オンライン)	Original Article
202	Nanno Y, Toyama H, Mizumoto T, et al	肝胆膵外科	Preoperative level of serum transthyretin as a novel biomarker predicting survival in resected pancreatic ductal adenocarcinoma with neoadjuvant therapy.	Pancreatology. 2024 Sep ; 24(6):917-924.	Original Article

203	Ishihara N, Komatsu S, Kido M, et al	肝胆膵外科	Complete response to tremelimumab plus durvalumab treatment in hepatocellular carcinoma with a bile duct tumor thrombus:A?A case report.	Oncol Lett. 2024 May 17 ; 28(1):332. (オンライン)	Case Report
204	Gon H, Komatsu S, Omiya S, et al	肝胆膵外科	The Albumin-bilirubin Grade as Prognostic Indicator for Recurrent Hepatocellular Carcinoma Needing Repeat Liver Resection.	Anticancer Res. 2024 May ; 44(5):2031-2038.	Original Article
205	Koizumi A, Komatsu S, Omiya S, et al	肝胆膵外科	Current Roles of Ramucirumab in the Sequential Treatment of Unresectable Hepatocellular Carcinoma.	Anticancer Res. 2024 May ; 44(5):2055-2061.	Original Article
206	Akita M, Yanagimoto H, Tsugawa D, et al	肝胆膵外科	Surgical interpretation of the WHO subclassification of intrahepatic cholangiocarcinoma: a narrative review.	Surg Today. 2025 Jan ; 55(1):1-9.	Original Article
207	Mizumoto T, Takahara T, Nishimura A, et al	肝胆膵外科	Robot-assisted approach using a laparoscopic articulating vessel-sealing device versus pure-robotic approach during distal pancreatectomy.	J Robot Surg. 2024 Jun 24 ; 18(1):263. (オンライン)	Original Article
208	Komatsu S, Yano Y, Mimura T, et al	肝胆膵外科	Current Status of Conversion Hepatectomy After Sorafenib and Lenvatinib Treatment for Unresectable Hepatocellular Carcinoma.	Anticancer Res. 2024 Jul ; 44(7):3097-3103.	Original Article
209	Kusuhara T, Gon H, Terashima K, et al	肝胆膵外科	ASO Author Refections: The potential role of particle therapy as a therapeutic option for patients with recurrent hepatocellular carcinoma after liver resection.	Ann Surg Oncol. 2025 Jan ; 32(1):448-449.	Original Article
210	Okazoe Y, Yanagimoto H, Tsugawa D, et al	肝胆膵外科	Anomalous origin of the posterior superior pancreaticoduodenal artery: critical vascular variations in the field of hepato-pancreato-biliary surgery.	J Gastrointest Surg. 2025 Feb ; 29(2):101926.	Original Article
211	Ishihara N, Koma YI, Omori M, et al	肝胆膵外科	Chemokine (C-C Motif) Ligand 2/CCR2/Extracellular Signal-Regulated Kinase Signal Induced through Cancer Cell-Macrophage Interaction Contributes to Hepatocellular Carcinoma Progression.	Am J Pathol. 2025 Mar ; 195(3):589-608.	Original Article
212	Urade T, Yamasaki N, Uemura M, et al	肝胆膵外科	Assessment of first-touch skills in robotic surgical training using hi-Sim and the hinotori surgical robot system among surgeons and novices.	Langenbecks Arch Surg. 2024 Nov 1 ; 409(1):332. (オンライン)	Original Article
213	Ishida J, Toyama H, Nanno Y, et al	肝胆膵外科	Robotic pancreaticoduodenectomy for portal annular pancreas: how to do it.	Surg Today. 2024 Dec 23.	Original Article
214	Gon H, Omiya S, Komatsu S, et al	肝胆膵外科	Efficacy and safety of indocyanine green-fluorescence imaging guided liver resection: a single-arm prospective cohort study.	Langenbecks Arch Surg. 2025 Jan 11 ; 410(1):34. (オンライン)	Original Article

215	Inubushi S, Kunihisa T, Kuniyasu M, et al	乳腺内分泌外科	Serum Exosomes Expressing CD9, CD63 and HER2 From Breast-Cancer Patients Decreased After Surgery of the Primary Tumor: A Potential Biomarker of Tumor Burden.	Cancer Genomics Proteomics. 2024 Nov-Dec ; 21(6):580-584.	Original Article
216	Nakamura H, Morinaga S, Tsuchiya K, et al	乳腺内分泌外科	A pilot randomized controlled study to determine the effectiveness of video educational tool in BRCA1/2 pre-test counseling for Japanese breast cancer patients.	J Genet Couns. 2025 Feb ; 34(1):e1928.	Original Article
217	Kunihisa T, Inubushi S, Tanino H, et al	乳腺内分泌外科	Induction of the DNA-Repair Gene POLQ only in BRCA1-mutant Breast-Cancer Cells by Methionine Restriction.	Cancer Genomics Proteomics. 2024 Jul-Aug ; 21(4):399-404.	Original Article
218	Nakamura H, Mizumoto S, Tanino H, et al	乳腺内分泌外科	High Frequency of BRCA2 c.5576_5579del Carriers in Kakogawa, Japan.	Cancer Diagn Progn. 2024 May 3 ; 4(3):309-314. (オンライン)	Original Article
219	Yokawa K, Hoshino M, Yagi N, et al	心臓血管外科	Density of fresh wall of acute aortic dissection with synchrotron-based x-ray phase tomography.	Interdiscip Cardiovasc Thorac Surg. 2024 Nov 6 ; 39(5):ivae157.	Original Article
220	Okita Y	心臓血管外科	Current Status of Treatment for the Acute Type A Aortic Dissection in Japan.	Semin Thorac Cardiovasc Surg. 2025 Mar 12:S1043-0679(25)00017-6.	Original Article
221	Inoue T, Emoto T, Yamanaka K, et al	心臓血管外科	Intense impact of IL-112 expressing inflammatory macrophages in acute aortic dissection.	Sci Rep. 2024 Jun 28 ; 14(1):14893. (オンライン)	Original Article
222	Hasegawa S, Takahashi H, Yamanaka K, et al	心臓血管外科	New strategy of early surgery for infective endocarditis complicated by intracranial hemorrhage.	Surg Today. 2025 Jun ; 55(6):795-802.	Original Article
223	Mitsui S, Tanaka Y, Nishikubo M, et al	呼吸器外科	Ninjin'yoeito improves respiratory symptoms after lung cancer surgery: a prospective randomized study.	Surg Today. 2025 May ; 55(5):693-704.	Original Article
224	Ogawa H, Koga T, Pham NA, et al	呼吸器外科	Clinical and pathological predictors of engraftment for patient-derived xenografts in lung adenocarcinoma.	Lung Cancer. 2024 Aug ; 194:107863.	Original Article
225	Uno Y, Tane S, Tanaka Y, et al	呼吸器外科	Learning curve of console and bedside surgeons fused robotic-assisted thoracoscopic segmentectomy: insights from the initial 100 cases.	Surg Today. 2025 Jun ; 55(6):823-829.	Original Article
226	Fujibayashi Y, Takata M, Tsubota N, et al	呼吸器外科	Segmentectomy versus lobectomy: does FEV1.0 change accurately reflect the postoperative cardiopulmonary function?	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2025 Feb ; 73(2):96-101.	Original Article

227	Tane S, Okami J, Maniwa Y, et al	呼吸器外科	Clinical outcomes of left upper segmentectomy vs. lobectomy for early non-small-cell lung cancer: a nationwide database study in Japan.	Surg Today. 2024 Oct ; 54(10):1162-1172.	Original Article
228	Kameoka Y, Okata Y, Yoshimura S, et al	小児外科	Evaluation of the hinotori(a?¢) Surgical Robot System for accurate suturing in small cavities.	J Robot Surg. 2024 Jul 27 ; 18(1):294. (オンライン)	Original Article
229	Tsuruno Y, Nagano A, Sugita K, et al	小児外科	Favorable inhibitory effect of clodronate on hepatic steatosis in short bowel syndrome model rats.	Pediatr Surg Int. 2024 Nov 13 ; 40(1):307. (オンライン)	Original Article
230	Tsuruno Y, Sugita K, Muraji T, et al	小児外科	Enhanced lymphangiogenesis in the left lateral segment of a biopsied liver during portoenterostomy for biliary atresia.	Pediatr Surg Int. 2024 Oct 4 ; 40(1):261. (オンライン)	Original Article
231	Takanarita Y, Okata Y, Awano H, et al	小児外科	Long-term course of gastrostomy nutritional management in patients with Duchenne muscular dystrophy: A retrospective cohort study.	J Clin Neurosci. 2024 Nov ; 129:110857.	Original Article
232	Tsuruno Y, Harumatsu T, Tabata Y, et al	小児外科	Specific Findings of Blood Perfusion on Anastomosed Esophagus of Neonatal Esophageal Atresia and Tracheoesophageal Fistula Using Indocyanine Green Fluorescence During Thoracoscopic Surgery.	Asian J Endosc Surg. 2025 Jan-Dec ; 18(1):e13422.	Case Report
233	Kamachi M, Kamada K, Kanzaki N, et al	整形外科	Using deep learning for ultrasound images to diagnose chronic lateral ankle instability with high accuracy.	Asia Pac J Sports Med Arthrosc Rehabil Technol. 2025 Jan 22 ; 40:1-6. (オンライン)	Original Article
234	Maeda T, Sobajima S, Matsumoto T, et al	整形外科	Comparison of short-term clinical outcomes of intra-articular injection of micro-fragmented adipose tissue and stromal vascular fraction cells for knee osteoarthritis treatment: A retrospective single-center cohort	Regen Ther. 2025 Mar 12 ; 29:91-99. (オンライン)	Original Article
235	Nagata N, Matsushita T, Watanabe S, et al	整形外科	Appropriate patient selection based on joint line convergence angle minimizes the difference between the mechanical axis in the standing and supine positions after open-wedge high tibial osteotomy and distal tuberosity	J Orthop Surg Res. 2025 Mar 28 ; 20(1):321. (オンライン)	Original Article
236	Shinohara I, Morita M, Chow SK, et al	整形外科	Pathophysiology of the Effects of Oxidative Stress on the Skeletal System.	J Orthop Res. 2025 Jun ; 43(6):1059-1072.	Original Article
237	Takase K, Niikura T, Fukui T, et al	整形外科	Three-dimensional printed calcium phosphate scaffolds emulate bone microstructure to promote bone regrowth and repair.	J Mater Sci Mater Med. 2024 Sep 3 ; 35(1):53. (オンライン)	Original Article
238	Onoi Y, Matsumoto T, Anjiki K, et al	整形外科	Human uncultured adipose-derived stromal vascular fraction shows therapeutic potential against osteoarthritis in immunodeficient rats via direct effects of transplanted M2 macrophages.	Stem Cell Res Ther. 2024 Sep 27 ; 15(1):325. (オンライン)	Original Article

239	Hayashi S, Kuroda Y, Nakano N, et al	整形外科	Work productivity after periacetabular osteotomy was affected by preoperative progression of osteoarthritis and heavy workload.	Arch Orthop Trauma Surg. 2024 Nov ; 144(11):5005-5012.	Original Article
240	Kuroshima K, Miyazaki S, Hiranaka Y, et al	整形外科	Risk Factors for Nonunion After Nonoperative Treatment for Pediatric Lumbar Spondylolysis: A Retrospective Case-Control Study.	Am J Sports Med. 2024 Sep ; 52(11):2866-2873.	Original Article
241	Hiranaka Y, Miyazaki S, Inoue S, et al	整形外科	Clinical Features and Therapeutic Process of Sacral Fatigue Fractures in Adolescents.	Am J Sports Med. 2024 Jul ; 52(8):2046-2054.	Original Article
242	Hayashi S, Kuroda Y, Nakano N, et al	整形外科	Accuracy of portable navigation during THA in patients with severe developmental dysplasia of hip.	Arch Orthop Trauma Surg. 2024 May ; 144(5):2429-2435.	Original Article
243	Sawauchi K, Oe K, Fukui T, et al	整形外科	Innovative Management of Brodie's Abscess: Continuous Local Antibiotic Perfusion in a 14-Year-Old Patient.	Am J Case Rep. 2025 Mar 22 ; 26:e947099. (オンライン)	Case Report
244	Tanaka S, Mifune Y, Inui A, et al	整形外科	Mitochondrial Dysfunction of the Subsynovial Connective Tissue in Patients With Carpal Tunnel Syndrome.	J Orthop Res. 2025 May ; 43(5):1045-1053.	Original Article
245	Suda Y, Taguchi A, Matsumoto T, et al	整形外科	Bone marrow mononuclear cell transplantation promotes bone healing via gap junction-mediated cell-cell interaction.	Stem Cells. 2025 Mar 10 ; 43(3):sxae090.	Original Article
246	Suda Y, Ikuta K, Hayashi S, et al	整形外科	Comparison of anti-inflammatory and anti-angiogenic effects of JAK inhibitors in IL-6 and TNF $\alpha$ -stimulated fibroblast-like synoviocytes derived from patients with RA.	Sci Rep. 2025 Mar 21 ; 15(1):9736. (オンライン)	Original Article
247	Kanda Y, Mizutani K, Kumon M, et al	整形外科	Pitfalls in the Diagnosis and Treatment of Low Back Pain in an Elite Para-athlete Successfully Treated by Transforaminal Full-endoscopic Discectomy with Thermal Annuloplasty: A Case Reports.	NMC Case Rep J. 2025 Jan 28 ; 12:7-13. (オンライン)	Case Report
248	Matsuo T, Takeoka Y, Yurube T, et al	整形外科	Transient Receptor Potential Vanilloid 4 Knockdown Decreases Extracellular Matrix Synthesis via Autophagy Suppression in the Rat Intervertebral Disc.	JOR Spine. 2025 Feb 17 ; 8(1):e70046. (オンライン)	Original Article
249	Kuroshima K, Miyazaki S, Hiranaka Y, et al	整形外科	Large L5-S1 Lordosis is an Independent Risk Factor for recurrENCE AFTER BOne Union of Pediatric Lumbar Spondylolysis at L5: A Retrospective Case-control Study.	Spine (Phila Pa 1976). 2025 Feb 4.	Original Article
250	Pokharel R, Matsushita T, Nishida K, et al	整形外科	Rapid Chondrolysis After Lateral Meniscal Repair and Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Combined With Segond Fracture Fragment Fixation: A Case Report.	Cureus. 2025 Jan 3 ; 17(1):e76872. (オンライン)	Case Report

251	Ehara Y, Nakano N, Takayama K, et al	整形外科	Rotating Hinge Knee Arthroplasty for Charcot Joints of the Knees in Patients With Charcot-Marie-Tooth Disease: A Report of Two Cases.	Cureus. 2024 Jun 25 ; 16(6):e63154. (オンライン)	Case Report
252	Anjiki K, Hayashi S, Ikuta K, et al	整形外科	JAK inhibitors inhibit angiogenesis by reducing VEGF production from rheumatoid arthritis-derived fibroblast-like synoviocytes.	Clin Rheumatol. 2024 Nov ; 43(11):3525-3536.	Original Article
253	Onoi Y, Hayashi S, Fujishiro T, et al	整形外科	The medullary cavity morphology of the proximal femur influences the fixation pattern of the rectangular tapered short stem in total hip arthroplasty.	Arch Orthop Trauma Surg. 2024 Aug ; 144(8):3857-3864.	Original Article
254	Kusunose M, Mifune Y, Inui A, et al	整形外科	Preoperative Increases in T2-Weighted Fat-Suppressed Magnetic Resonance Imaging Signal Intensities Associated With Advanced Tissue Degeneration and Mitochondrial Dysfunction in Rotator Cuff Tears.	Arthroscopy. 2024 Aug 28:S0749-8063(24)00615-7.	Original Article
255	Nakano N, Tsubosaka M, Kamenaga T, et al	整形外科	What effect does preoperative flexion contracture have on the component angles in unicompartmental knee arthroplasty?	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2024 May ; 34(4):2185-2191.	Original Article
256	Tanaka A, Matsushita T, Nakatsuji T, et al	整形外科	Setting hinge position distal to the proximal margin of the distal lateral femur reduces the maximum principal strains of the hinge area and risk of hinge fractures.	J Exp Orthop. 2024 Apr 8 ; 11(2):e12015. (オンライン)	Original Article
257	Tokura T, Nagai K, Hoshino Y, et al	整形外科	Injuries to both anterolateral ligament and Kaplan fiber of the iliotibial band do not increase preoperative pivot-shift phenomenon in ACL injury.	Asia Pac J Sports Med Arthrosc Rehabil Technol. 2024 Apr 1 ; 36:40-44. (オンライン)	Original Article
258	Takigami S, Inui A, Mifune Y, et al	整形外科	Estimation of Shoulder Joint Rotation Angle Using Tablet Device and Pose Estimation Artificial Intelligence Model.	Sensors (Basel). 2024 May 2 ; 24(9):2912. (オンライン)	Original Article
259	Ehara Y, Inui A, Mifune Y, et al	整形外科	Estimating the Thumb Rotation Angle by Using a Tablet Device With a Posture Estimation Artificial Intelligence Model.	Cureus. 2024 May 4 ; 16(5):e59657. (オンライン)	Original Article
260	Nakanishi Y, Hegarty P, Vivacqua T, et al	整形外科	Quantitative MRI Analysis of Patellofemoral Joint Cartilage Health 2 Years After Anterior Cruciate Ligament Reconstruction and Lateral Extra-Articular Tenodesis.	Am J Sports Med. 2024 Jun ; 52(7):1773-1783.	Original Article
261	Hayashi S, Kuroda Y, Nakano N, et al	整形外科	The assessment of canal flare index and proximal femoral bone density can improve stem selection for peri-prosthetic bone maintenance after total hip arthroplasty.	Arch Orthop Trauma Surg. 2024 Jun ; 144(6):2881-2887.	Original Article
262	Takemori T, Hara H, Kawamoto T, et al	整形外科	Comparison of clinical outcome between surgical treatment and particle beam therapy for pelvic bone sarcomas: A retrospective multicenter study in Japan.	J Orthop Sci. 2025 May ; 30(3):523-528.	Original Article

263	Kamenaga T, Hayashi S, Kuroda Y, et al	整形外科	Combined assessment of acetabular coverage and femoral head-neck shapes predicts osteoarthritis progression after periacetabular osteotomy.	Arch Orthop Trauma Surg. 2024 Jul ; 144(7):3083-3090.	Original Article
264	Sawada R, Shinoda Y, Ohki T, et al	整形外科	Factors associated with work sustainability in patients with bone metastasis.	Jpn J Clin Oncol. 2024 Sep 4 ; 54(9):1001-1008.	Original Article
265	Sano S, Matsushita T, Nagata N, et al	整形外科	Morphological analysis of the distal femur as a surgical reference in biplane distal femoral osteotomy.	Sci Rep. 2024 May 27 ; 14(1):12130. (オンライン)	Original Article
266	Hiranaka Y, Takeoka Y, Yurube T, et al	整形外科	The Utility and Feasibility of Smart Glasses in Spine Surgery: Minimizing Radiation Exposure During Percutaneous Pedicle Screw Insertion.	Neurospine. 2024 Jun ; 21(2):432-439.	Original Article
267	Tsujimoto T, Kanayama M, Fukada S, et al	整形外科	Predictors of Persistent Postoperative Numbness Following Lumbar Fusion in Patients Older Than 75 Years: A Minimum 2-Year Follow-up.	Neurospine. 2024 Jun ; 21(2):596-605.	Original Article
268	Anjiki K, Nakano N, Ishida K, et al	整形外科	Comparison of short-term clinical results between modified kinematically-aligned and guided motion bicruciate stabilized total knee arthroplasty.	Arthroplasty. 2024 Jul 4 ; 6(1):40. (オンライン)	Original Article
269	Nukuto K, Gale T, Yamamoto T, et al	整形外科	Reliability and changes in knee cartilage T2 relaxation time from 6 to 24 months after anatomic anterior cruciate ligament reconstruction.	J Orthop Res. 2024 Dec ; 42(12):2683-2692.	Original Article
270	Kuroshima K, Miyazaki S, Hiranaka Y, et al	整形外科	Characteristics of upper lumbar spondylolysis in children.	Spine J. 2025 Jun ; 25(6):1188-1195.	Original Article
271	Yurube T, Kanda Y, Hirata H, et al	整形外科	Factors Associated With the Absence of Cervical Spine Instability in Rheumatoid Arthritis: A >10-Year Prospective Multicenter Cohort Study.	Neurospine. 2024 Dec ; 21(4):1230-1240.	Original Article
272	Onoi Y, Hayashi S, Kuroda Y, et al	整形外科	Simultaneous bilateral total hip arthroplasty results in smaller Leg length discrepancy than staged bilateral procedures.	Arch Orthop Trauma Surg. 2024 Dec 12 ; 145(1):12. (オンライン)	Original Article
273	Ryu M, Yurube T, Takeoka Y, et al	整形外科	Gene-Silencing Therapeutic Approaches Targeting PI3K/Akt/mTOR Signaling in Degenerative Intervertebral Disk Cells: An In Vitro Comparative Study Between RNA Interference and	Cells. 2024 Dec 9 ; 13(23):2030. (オンライン)	Original Article
274	Maeda T, Kuroda Y, Kamenaga T, et al	整形外科	Impact of femoral stem alignment on periprosthetic bone density in THA: a study of the Avenir Complete stem.	Arch Orthop Trauma Surg. 2024 Dec 21 ; 145(1):74. (オンライン)	Original Article

275	Kumagai N, Hirata H, Takayama H, et al	整形外科	Intramedullary Spinal Cord Abscess due to Traumatic Esophageal Perforation Associated with Cervicothoracic Anterior Osteophytes: A Case Report.	Spine Surg Relat Res. 2024 Oct 5 ; 9(1):100-103. (オンライン)	Original Article
276	Tokura T, Hoshino Y, Nagai K, et al	整形外科	A majority of the patient achieved both patient-acceptable symptom state and minimal clinically important difference of International Knee Documentation Committee Subjective Knee Form score at one year after anatomical	J ISAKOS. 2024 Dec ; 9(6):100344.	Original Article
277	Hayashi S, Nakano N, Tsubosaka M, et al	整形外科	Real-world study comparing the efficacy of Janus kinase inhibitors in patients with difficult-to-treat rheumatoid arthritis.	Clin Rheumatol. 2024 Nov ; 43(11):3285-3292.	Original Article
278	Sawauchi K, Fukui T, Oe K, et al	整形外科	Management of Infected Tibial Nonunion: Combining Synthetic Bone Grafting with Continuous Local Antibiotic Perfusion (CLAP).	Am J Case Rep. 2024 Sep 13 ; 25:e945023. (オンライン)	Case Report
279	Nishida R, Fukui T, Niikura T, et al	整形外科	Preventive effects of transcutaneous CO(2) application on disuse osteoporosis and muscle atrophy in a rat hindlimb suspension model.	Bone. 2024 Dec ; 189:117262.	Original Article
280	Sawauchi K, Fukui T, Oe K, et al	整形外科	Transcutaneous CO(2) application combined with low-intensity pulsed ultrasound accelerates bone fracture healing in rats.	BMC Musculoskelet Disord. 2024 Oct 29 ; 25(1):863. (オンライン)	Original Article
281	Tokura T, Matsushita T, Nishida K, et al	整形外科	Younger age, hyperextended knee, concomitant meniscectomy and large prerevision anterior tibial translation are associated with graft failure after the revision anterior cruciate ligament reconstruction.	J Exp Orthop. 2024 Sep 25 ; 11(3):e70021. (オンライン)	Original Article
282	Tachibana S, Hayashi S, Ikuta K, et al	整形外科	Downregulation of KrA?ppel-like factor 15 expression delays endochondral bone ossification during fracture healing.	Bone. 2025 Jan ; 190:117302.	Original Article
283	Shinohara I, Inui A, Hwang K, et al	整形外科	Leveraging AI models for lesion detection in osteonecrosis of the femoral head and T1-weighted MRI generation from radiographs.	J Orthop Res. 2025 Mar ; 43(3):650-659.	Original Article
284	Shinohara I, Inui A, Mifune Y, et al	整形外科	Posture Estimation Model Combined With Machine Learning Estimates the Radial Abduction Angle of the Thumb With High Accuracy.	Cureus. 2024 Oct 7 ; 16(10):e71034. (オンライン)	Original Article
285	Kanda Y, Yurube T, Hirata H, et al	整形外科	Prevalence and aggravation of cervical spine instabilities in rheumatoid arthritis during over 10 years: a prospective multicenter cohort study.	Sci Rep. 2024 Nov 5 ; 14(1):26821. (オンライン)	Original Article
286	Tokura T, Nagai K, Hoshino Y, et al	整形外科	Ramp lesions of the medial meniscus are associated with greater preoperative anterior knee laxity in anterior cruciate ligament injury.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2024 Nov 7.	Original Article

287	Kamada K, Matsushita T, Yamashita T, et al	整形外科	Factors affecting the therapeutic effects of multiple intra-articular injections of platelet-rich-plasma for knee osteoarthritis.	Asia Pac J Sports Med Arthrosc Rehabil Technol. 2024 Sep 30 ; 38:43-48. (オンライン)	Original Article
288	Kamada K, Hoshino Y, Yamamoto T, et al	整形外科	Diagnostic strategies for chronic lateral ankle instability: a narrative review.	Ann Jt. 2024 Oct 29 ; 9:41. (オンライン)	Original Article
289	Matsuo T, Kanda Y, Sakai Y, et al	整形外科	Modified Frailty Index as a novel predictor for the incidence and severity of postoperative complications after spinal metastases surgery.	Bone Joint J. 2024 Dec 1 ; 106-B(12):1469-1476. (オンライン)	Original Article
290	Miyamoto T, Fukase N, Kawamoto T, et al	整形外科	SPRR1A is a potential therapeutic target for osteosarcoma: in vitro and in vivo evaluations using generated artificial osteosarcoma cancer stem cell-like cells.	Oncol Rep. 2025 Feb ; 53(2):24.	Original Article
291	Sano S, Kanzaki N, Kataoka K, et al	整形外科	Clinical outcomes over 2 years following arthroscopic ankle lateral ligament repair with os subfibulare.	Asia Pac J Sports Med Arthrosc Rehabil Technol. 2024 Nov 26 ; 39:9-14. (オンライン)	Original Article
292	Sawauchi K, Esposito L, Kalbas Y, et al	整形外科	Evolution of management strategies for unstable pelvic ring injuries over the past 40 years: a systematic review.	Patient Saf Surg. 2024 Dec 27 ; 18(1):38. (オンライン)	Original Article
293	Shinohara I, Inui A, Murayama M, et al	整形外科	Quantification of Empty Lacunae in Tissue Sections of Osteonecrosis of the Femoral Head Using YOLOv8 Artificial Intelligence Model.	J Biomed Mater Res B Appl Biomater. 2024 Dec ; 112(12):e35512.	Original Article
294	Mukohara S, Mifune Y, Inui A, et al	整形外科	Assessing the Elasticity of the Flexor Pronator Muscles After Throwing Using Ultrasound Shear Wave Elastography.	Orthop J Sports Med. 2024 Nov 28 ; 12(11):23259671241298001. (オンライン)	Original Article
295	Ikeuchi Y, Kohta M, Hosoda K, et al	脳神経外科	Systematic review of neurological diseases and carbenoxolone: A double-edged sword?	Eur J Pharmacol. 2025 May 5 ; 994:177387.	Original Article
296	Kimura H, Shigeyasu M, Mori T, et al	脳神経外科	Next-Generation Exoscopic Surgery Featuring a Head-Mounted 3-Dimensional Display for Carotid Endarterectomy: 2-Dimensional Operative Video.	Oper Neurosurg (Hagerstown). 2024 Nov 1 ; 27(5):659.	Original Article
297	Fujita Y, Uozumi Y, Fujimoto Y, et al	脳神経外科	A morphological features-based nomogram for predicting facial nerve function in the immediate postoperative period after vestibular schwannoma surgery.	J Neurooncol. 2025 Mar 13.	Original Article
298	Shose H, Fujita A, Hori T, et al	脳神経外科	Treatment of tentorial dural arteriovenous fistula with preservation of the vein of Galen using a combination of transarterial and transvenous embolization.	Surg Neurol Int. 2025 Mar 14 ; 16:89. (オンライン)	Case Report

299	Fujimoto Y, Fujita Y, Tanaka K, et al	脳神経外科	Clinical Benefits of Photodynamic Therapy Using Talaporfin Sodium in Patients With Isocitrate Dehydrogenase -Wildtype Diagnosed Glioblastoma: A Retrospective Study of 100 Cases.	Neurosurgery. 2025 Jun 1 ; 96(6):1374-1385.	Original Article
300	Sasayama T, Hamada T, Tanaka K, et al	脳神経外科	Potential of GSPT1 as a novel target for glioblastoma therapy.	Cell Death Dis. 2024 Aug 8 ; 15(8):572. (オンライン)	Original Article
301	Mori T, Fujita A, Iwakura M, et al	脳神経外科	Acute morphological changes of impending rupture of vertebral artery dissection: clinical management of symptomatic but unruptured vertebral artery dissection. Illustrative case.	J Neurosurg Case Lessons. 2024 Jul 15 ; 8(3):CASE24202. (オンライン)	Original Article
302	Ikeuchi Y, Kohta M, Yamashita S, et al	脳神経外科	Predicting impaired cerebrovascular reactivity and risk of hyperperfusion syndrome in carotid artery stenosis using BeamSAT magnetic resonance imaging.	J Neurol Sci. 2024 Aug 15 ; 463:123114.	Original Article
303	Ikeuchi Y, Fujita A, Kohta M, et al	脳神経外科	Multiple Synchronous Spinal Dural Arteriovenous Fistulas: A Systematic Literature Review.	Neurosurgery. 2024 Oct 1 ; 95(4):751-760.	Case Report
304	Imahori T, Miyake S, Maeda I, et al	脳神経外科	Clinical Outcomes of Shifting from Transfemoral-First to Transradial-First Approach in Carotid Artery Stenting: A Retrospective Two-Timeframe Comparison at a Single Center.	J Clin Med. 2024 Dec 6 ; 13(23):7432. (オンライン)	Original Article
305	Goto H, Fujita A, Nakamura N, et al	脳神経外科	Brainstem congestion as the initial presentation of cavernous sinus dural arteriovenous fistula without ocular symptoms.	Surg Neurol Int. 2024 Oct 4 ; 15:359. (オンライン)	Case Report
306	Matsuo K, Aihara H, Suehiro E, et al	脳神経外科	Time-Dependent Association of Preinjury Anticoagulation on Traumatic Brain Injury-Induced Coagulopathy: A Retrospective, Multicenter Cohort Study.	Neurosurgery. 2024 Oct 24 ; 96(5):1099-112.	Original Article
307	Ikeuchi Y, Nishihara M, Hosoda K, et al	脳神経外科	Postoperative Air in the Cisterns or Ventricles Predicts Early Leptomeningeal Disease of Brain Metastases: A Retrospective Study.	World Neurosurg. 2025 Jan ; 193:903-910.	Original Article
308	Yamanishi S, Nagashima H, Tanaka K, et al	脳神経外科	Association of preoperative seizures with reduced expression of soluble CD163, an M2 macrophage marker, in the cerebrospinal fluid in isocitrate dehydrogenase wild-type glioblastoma.	J Neurooncol. 2025 Jan ; 171(1):95-103.	Original Article
309	Higashida T, Mori S, Katanazaka K, et al	眼科	Orbital Apex Malignant Lymphoma Diagnosed Using Whole-Body Computed Tomography.	Cureus. 2025 Mar 25 ; 17(3):e81191. (オンライン)	Case Report
310	Takano F, Mori S, Lnu I, et al	眼科	Unraveling Visual Field Asymmetry: Insights Into Left-Right Differences in Glaucoma Patients.	Cureus. 2025 Feb 26 ; 17(2):e79711. (オンライン)	Original Article

311	Sakai D, Mandai M, Hirami Y, et al	眼科	Transplant of Induced Pluripotent Stem Cell-Derived Retinal Pigment Epithelium Strips for Macular Degeneration and Retinitis Pigmentosa.	Ophthalmol Sci. 2025 Mar 18 ; 5(4):100770. (オンライン)	Original Article
312	Mori S, Chihara N, Iwaki Y, et al	眼科	Evaluation of Brain and Spinal Cord Lesions and Cerebrospinal Fluid Analysis in Detecting Demyelinating Diseases in Patients with Optic Neuritis.	Neuroophthalmology. 2024 Nov 8 ; 49(2):154-160. (オンライン)	Original Article
313	Sakai D, Maeda T, Maeda A, et al	眼科	DISCREPANCY BETWEEN FUNDUS AUTOFLUORESCENCE ABNORMALITY AND VISUAL FIELD LOSS IN BIETTI CRYSTALLINE DYSTROPHY.	Retina. 2024 Aug 1 ; 44(8):1394-1402.	Original Article
314	Matsumiya W, Karaca I, Pham BH, et al	眼科	Reply.	Retina. 2024 Aug 1 ; 44(8):e53-e55.	Letter
315	Tetsumoto R, Matsumiya W, Sotani R, et al	眼科	Acute Noninfectious Anterior Ocular Inflammation Following Ranibizumab Biosimilar Intravitreal Injection in a Patient With Recent COVID-19 Vaccination.	Cureus. 2024 May 15 ; 16(5):e60356. (オンライン)	Case Report
316	Takano F, Ueda K, Yamada-Nakanishi Y, et al	眼科	Comparison of Single-Treatment Efficacy of Bevacizumab and Ranibizumab for Retinopathy of Prematurity.	Children (Basel). 2024 Jul 31 ; 11(8):927. (オンライン)	Original Article
317	Sotani Y, Imai H, Kishi M, et al	眼科	Removal of Subinternal Limiting Membrane Hemorrhage Secondary to Valsalva Retinopathy Using a Fovea-Sparing Internal Limiting Membrane Fissure Creation Technique.	Case Rep Ophthalmol Med. 2024 Aug 13 ; 2024:2774155. (オンライン)	Case Report
318	Katakami K, Imai H, Sotani Y, et al	眼科	Factors regulating the gripping force and stiffness of 25- and 27-gauge internal limiting membrane forceps.	PLoS One. 2024 Nov 5 ; 19(11):e0310419. (オンライン)	Original Article
319	Takano F, Ueda K, Yamada-Nakanishi Y, et al	眼科	Risk factors of pediatric steroid-induced ocular hypertension.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2025 Mar ; 263(3):867-872.	Original Article
320	Sotani Y, Imai H, Kishi M, et al	眼科	The Surgical Outcomes of Modified Intraocular Lens Suturing with Forceps-Assisted Haptics Extraction: A Clinical and Basic Evaluation.	J Clin Med. 2024 Sep 18 ; 13(18):5522. (オンライン)	Original Article
321	Iwaki Y, Mori S, Okuda-Arai M, et al	眼科	One-year results of trabeculectomy with emphasis on the effect of patients' age.	Jpn J Ophthalmol. 2025 Jan ; 69(1):93-100.	Original Article
322	Sotani Y, Imai H, Yamada H, et al	眼科	High Intraocular Concentration of Fibrinogen Regulates Retinal Function Via the ICAM-1 Pathway.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2024 Nov 4 ; 65(13):34.	Original Article

323	Caraher-Masuda R, Sakamoto M, Okuda M, et al	眼科	Three-year outcomes of surgical bleb revision with mitomycin C for early scarring bleb after trabeculectomy.	Jpn J Ophthalmol. 2025 Jan ; 69(1):101-109.	Original Article
324	Takano F, Ueda K, Kurimoto T, et al	眼科	An exploratory study to evaluate efficacy and safety of frequent Transcutaneous Electrical Stimulation for Leber Hereditary Optic Neuropathy.	Sci Rep. 2025 Feb 9 ; 15(1):4829. (オンライン)	Original Article
325	Ueda T, Fujita T, Uehara N, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Transcanal Endoscopic Ear Surgery for Pediatric Bilateral Congenital Cholesteatoma: A Report of Two Cases.	J Int Adv Otol. 2024 Nov 25 ; 20(6):540-542.	Case Report
326	Yui M, Matsuno Y, Furukawa T, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Oncological Outcomes of Concurrent Chemoradiotherapy and Surgical Treatment for Patients With T3 Hypopharyngeal Cancer: A Single-Center Retrospective Analysis.	Cureus. 2024 Jun 17 ; 16(6):e62553. (オンライン)	Original Article
327	Nibu KI, Oridate N, Saito Y, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Human papillomavirus-driven head and neck cancers in Japan during 2008-2009 and 2018-2019: The BROADEN study.	Cancer Sci. 2024 Aug ; 115(8):2808-2818.	Original Article
328	Fujiwara H, Kodama Y, Shimoda H, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Differential expression of epidermal growth factor receptor in various pathological types of salivary gland cancers.	Auris Nasus Larynx. 2024 Aug ; 51(4):755-760.	Original Article
329	Mizumoto M, Furukawa T, Yui M, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	A Case of Olfactory Neuroblastoma Developing Bilateral Retropharyngeal Lymph Node Metastasis 14-years After Skull Base Surgery.	Kobe J Med Sci. 2024 Jun 3 ; 70(2):E56-E60. (オンライン)	Case Report
330	Inokuchi G, Mine M, Tamagawa K, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Indocyanine green fluorescence visualizes landmark arteries for endoscopic sinus and skull base surgery.	Am J Otolaryngol. 2024 Jul-Aug ; 45(4):104343.	Original Article
331	Shinomiya H, Matsuura K, Onimaru R, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Dose-finding and efficacy confirmation trial of the superselective intra-arterial infusion of cisplatin and concomitant radiation therapy for locally advanced maxillary sinus cancer (JCOG1212): final analysis.	Int J Clin Oncol. 2025 Mar ; 30(3):489-496.	Original Article
332	Takeda H, Shinomiya H, Fujiwara H, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	An Exploratory Study on the Efficacy of a New Heat and Moisture Exchanger (ProvoxAR Life™) for Laryngectomized Patients.	Cureus. 2024 Nov 8 ; 16(11):e73279. (オンライン)	Original Article
333	Hara T, Teishima J, Okamura Y, et al	泌尿器科	Choosing the optimal therapy for metastatic renal cell carcinoma: Insights from a real-world comparative study.	Int J Urol. 2025 Jan ; 32(1):29-38.	Original Article
334	Hara T, Suzuki K, Okamura Y, et al	泌尿器科	Impact of neoadjuvant therapy on prognosis in renal cell carcinoma with inferior vena cava thrombus.	Urol Oncol. 2025 Mar ; 43(3):178-185.	Original Article

335	Hara T, Nishimoto H, Terakawa T, et al	泌尿器科	Longitudinal assessment of bone mineral density in prostate cancer patients: comparing metastatic and non-metastatic regions.	Int J Clin Oncol. 2025 Apr ; 30(4):797-804.	Original Article
336	Hirata J, Hara T, Jimbo N, et al	泌尿器科	Genomic Profiling of Small Cell Neuroendocrine Prostate Cancer and its Implications for Targeted Therapies.	Anticancer Res. 2025 Mar ; 45(3):1137-1147.	Original Article
337	Hara T, Suzuki K, Tobe T, et al	泌尿器科	Efficacy and safety of routine corticosteroid premedication in enfortumab vedotin therapy for advanced urothelial carcinoma.	Int Urol Nephrol. 2025 Mar 26.	Original Article
338	Furukawa J, Kato T, Yamasaki T, et al	泌尿器科	Real-world outcomes with avelumab and axitinib in patients with advanced renal cell carcinoma in Japan: subgroup analyses from the J-DART2 study by International Metastatic Renal Cell Carcinoma	Int J Clin Oncol. 2025 Apr ; 30(4):749-760.	Original Article
339	Hara T, Suzuki K, Watanabe H, et al	泌尿器科	A Case Series of Six Patients With Renal Cell Carcinoma With Inferior Vena Cava Tumor Thrombus Who Underwent Robotic-Assisted Radical Nephrectomy.	Asian J Endosc Surg. 2025 Jan-Dec ; 18(1):e70041.	Original Article
340	Suzuki K, Hirata J, Okamura Y, et al	泌尿器科	Efficacy and Feasibility of Cabazitaxel for Very Elderly Patients of a?¥a280 Years of Age With Metastatic Castration-Resistant Prostate Cancer: A Real-World Multi-Intuitional Analysis.	Prostate. 2025 Jun ; 85(8):814-820.	Original Article
341	Hara T, Suzuki K, Okada K, et al	泌尿器科	Comparative clinical trials with a novel approach: Utilizing the shiny method for investigational urothelial carcinoma therapies.	Int J Urol. 2024 Oct ; 31(10):1168-1170.	Original Article
342	Hara T, Miyake H	泌尿器科	The role of cytoreductive nephrectomy in the era of immune checkpoint inhibitors: A review of current evidence and ongoing trials.	Int J Urol. 2025 Jan ; 32(1):7-14.	Original Article
343	Tobe T, Terakawa T, Ueki H, et al	泌尿器科	Initial Experience of Robot Assisted Laparoscopic Pyeloplasty for Ureteropelvic Junction Obstruction Using the Hinotori Surgical Robot System.	Int J Med Robot. 2024 Oct ; 20(5):e2673.	Original Article
344	Miyake H, Fujisawa M	泌尿器科	Early experience and future prospects regarding use of newly developed surgical robot system, hinotori, in the field of urologic cancer surgery.	Int J Clin Oncol. 2024 Jun ; 29(6):640-646.	Original Article
345	Suzuki K, Shiraishi Y, Furukawa J, et al	泌尿器科	Clinical Outcomes and Risk Stratification in Patients With Metastatic Hormone-Sensitive Prostate Cancer Treated With New-Generation Androgen Receptor Signaling Inhibitors.	Clin Genitourin Cancer. 2024 Oct ; 22(5):102140.	Original Article
346	Suzuki K, Okamura Y, Bando Y, et al	泌尿器科	Adrenalectomy for pheochromocytoma: Surgical outcomes and preoperative risk factors for hemodynamic instability.	Int J Urol. 2024 Oct ; 31(10):1153-1158.	Original Article

347	Wakita N, Hara T, Suzuki K, et al	泌尿器科	Efficacy of Combination Therapy With Radium-223 and Enzalutamide in Castration-resistant Prostate Cancer With Bone Metastases.	Anticancer Res. 2024 Jun ; 44(6):2627-2635.	Original Article
348	Ueki H, Jimbo N, Terakawa T, et al	泌尿器科	Evaluating RB1 and p53 as diagnostic markers in treatment-related neuroendocrine prostate cancer through immunohistochemistry and genomic analysis of RB1 and TP53.	Prostate. 2024 Dec ; 84(16):1506-1514.	Original Article
349	Tobe T, Inoue T, Yamamichi F, et al	泌尿器科	Predictive factors for prolonged operative time in ureteroscopic lithotripsy for ureteral stones A retrospective cohort study.	Can Urol Assoc J. 2024 Sep ; 18(9):E261-E268.	Original Article
350	Hinata N, Murakami S, Nakano Y, et al	泌尿器科	Efficacy of robot-assisted partial nephrectomy compared to conventional laparoscopic partial nephrectomy for completely endophytic renal tumor: a multicenter, prospective study.	Int J Clin Oncol. 2024 Oct ; 29(10):1548-1556.	Original Article
351	Suzuki K, Okamura Y, Bando Y, et al	泌尿器科	Impact of presurgical systemic therapy on perioperative outcomes of renal cell carcinoma with inferior vena cava tumor thrombus.	Int J Clin Oncol. 2025 Mar ; 30(3):532-538.	Original Article
352	Kitamura S, Hara T, Okamura Y, et al	泌尿器科	Reduction of bleeding by cabozantinib in metastatic renal cell carcinoma with hereditary hemorrhagic telangiectasia.	Int Cancer Conf J. 2024 Oct 1 ; 14(1):17-20. (オンライン)	Original Article
353	Suzuki K, Shiraishi Y, Okamura Y, et al	泌尿器科	Dose Per Body Weight Predicts Incidence and Severity of Apalutamide-Related Skin Rash in Metastatic Castration-Sensitive Prostate Cancer.	Clin Genitourin Cancer. 2025 Feb ; 23(1):102250.	Original Article
354	Suzuki K, Hara T, Watanabe H, et al	泌尿器科	Rapid and Deep Prostate-Specific Antigen Decline is a Prognostic Marker in Metastatic Hormone-Sensitive Prostate Cancer: A Real-World Multi-Intuitive Analysis.	Prostate. 2025 Apr ; 85(5):448-455.	Original Article
355	Kususda Y, Miyake H, Gleave ME, et al	泌尿器科	Editorial Expression of Concern: Clusterin inhibition using OGX-011 synergistically enhances antitumour activity of sorafenib in a human renal cell carcinoma model.	Br J Cancer. 2025 Jan ; 132(1):138.	Original Article
356	Hara T, Nishimoto H, Terakawa T, et al	泌尿器科	Temporal declines in bone mineral density and trabecular bone score during androgen deprivation therapy.	J Bone Miner Metab. 2024 Nov ; 42(6):668-674.	Original Article
357	Suzuki K, Murata K, Wakita N, et al	泌尿器科	A pathological complete response and adrenal insufficiency in a patient with advanced renal pelvic cancer treated with pembrolizumab.	Int Cancer Conf J. 2024 Jul 2 ; 13(4):391-394. (オンライン)	Original Article
358	Hara T, Ueki H, Okamura Y, et al	泌尿器科	Comparative prognostic value of tumor volume in IOIO and IOTKI treatment for metastatic renal cancer.	Urol Oncol. 2025 Jan ; 43(1):63.e19-63.e27.	Original Article

359	Hara T, Teishima J, Okamura Y, et al	泌尿器科	Appearance of New Lesions Associate With Poor Prognosis in Pembrolizumab-Treated Urothelial Carcinoma.	Clin Genitourin Cancer. 2024 Dec ; 22(6):102236.	Original Article
360	Hara T, Suzuki K, Okamura Y, et al	泌尿器科	Efficacy and safety of lenvatinib and pembrolizumab as first-line treatment for advanced renal cell carcinoma patients: real-world experience in Japan.	Int J Clin Oncol. 2024 Dec ; 29(12):1931-1936.	Original Article
361	Furukawa J, Kakei Y, Murakami S, et al	泌尿器科	Safety and efficacy of oral cancer vaccine B440 in patients with PD-1/PD-L1 inhibitor-resistant advanced urothelial cancer: a study protocol for a phase I multicenter, open-label, single-arm clinical trial.	BMC Cancer. 2025 Feb 4 ; 25(1):195. (オンライン)	Original Article
362	Ueki H, Terakawa T, Hara T, et al	泌尿器科	Utility of Machine Learning Models to Predict Lymph Node Metastasis of Japanese Localized Prostate Cancer.	Cancers (Basel). 2024 Dec 5 ; 16(23):4073. (オンライン)	Original Article
363	Sato K, Koyanagi-Aoi M, Uehara K, et al	泌尿器科	Efficient differentiation of human iPSCs into Leydig-like cells capable of long-term stable secretion of testosterone.	Stem Cell Reports. 2025 Feb 11 ; 20(2):102392.	Original Article
364	Bando Y, Teishima J, Ueno Y, et al	泌尿器科	Predictive ability of lesion localization using real-time three-dimensional magnetic resonance imaging/ultrasound fusion prostate biopsy in robot-assisted laparoscopic prostatectomy.	Int J Urol. 2025 Apr ; 32(4):450-452.	Original Article
365	Okada K, Kin C, Yamashita Y, et al	泌尿器科	Possible mechanisms of spermatogenic dysfunction induced by viral infections: Insights from COVID-19.	Reprod Med Biol. 2025 Jan 22 ; 24(1):e12625. (オンライン)	Original Article
366	Tashiro Y, Hyodo Y, Kitamura S, et al	泌尿器科	Impact of Fc-gamma receptor IIIA polymorphism on late-onset neutropenia and clinical outcomes in kidney transplant recipients following rituximab induction therapy.	Clin Exp Nephrol. 2025 May ; 29(5):681-689.	Original Article
367	Teishima J, Wakita N, Bando Y, et al	泌尿器科	Effects of modifying hinotoria? $\phi$ surgical robot system on perioperative outcome of robot-assisted radical prostatectomy.	Int J Urol. 2025 Jan ; 32(1):45-50.	Original Article
368	Kawamura S, Chiba K, Yamashita Y, et al	泌尿器科	Premature Chromatid Separation Trait Found During the Diagnosis of Male Infertility: A Case Report.	Cureus. 2024 Apr 18 ; 16(4):e58558. (オンライン)	Case Report
369	Inoue T, Tanaka H, Masuda T, et al	泌尿器科	Japanese survey of perioperative complications and ureteral stricture after ureteroscopy with laser lithotripsy for upper urinary tract stones in multicenter collaborative study.	Int J Urol. 2024 Jul ; 31(7):795-801.	Original Article
370	Teishima J, Hara T, Tobe T, et al	泌尿器科	Therapeutic outcome of combination therapy using immune-checkpoint inhibitors and tyrosine kinase inhibitors for metastatic non-clear-cell renal cell carcinoma.	Can Urol Assoc J. 2024 May ; 18(5):E162-E166.	Original Article

371	Kaku Y, Chiba K, Yamashita Y, et al	泌尿器科	Fertility preservation in men with hypogonadotropic hypogonadism secondary to A?germinoma: two cases of gonadotropin replacement therapy before induction of anticancer chemotherapy.	Int Cancer Conf J. 2024 Aug 16 ; 13(4):468-470. (オンライン)	Original Article
372	Uchida A, Tanimura K, Shirai K, et al	産科婦人科	Discrepancies in the Diagnosis of Congenital Toxoplasma gondii Infection Between B1 Gene Semi-Nested Polymerase Chain Reaction and Serological Analyses.	Microorganisms. 2025 Mar 5 ; 13(3):601. (オンライン)	Original Article
373	Masuko N, Tanimura K, Tanaka M, et al	産科婦人科	HELLP Syndrome at 20 Gestational Weeks Managed Using the Mississippi Protocol: A Case Report.	Kobe J Med Sci. 2024 Apr 1 ; 70(1):E22-E25. (オンライン)	Case Report
374	Tomimoto M, Tanimura K, Masuko N, et al	産科婦人科	Problems in screening for gestational diabetes mellitus by measurement of casual blood glucose levels at 24-28 gestational weeks.	J Diabetes Investig. 2024 Dec ; 15(12):1797-1802.	Original Article
375	Tanimura K, Saito S, Tsuda S, et al	産科婦人科	Low-dose aspirin and heparin treatment improves pregnancy outcome in recurrent pregnancy loss women with anti-I22-glycoprotein I/HLA-DR autoantibodies: a prospective, multicenter, observational	Front Immunol. 2024 Sep 26 ; 15:1445852. (オンライン)	Original Article
376	Tanaka E, Koyanagi-Aoi M, Nakagawa S, et al	産科婦人科	Effect of a FOXO1 inhibitor on trophoblast differentiation from human pluripotent stem cells and ERV-associated gene expression.	Regen Ther. 2024 Sep 5 ; 26:729-740. (オンライン)	Original Article
377	Yamanaka K, Koma YI, Urakami S, et al	産科婦人科	YKL40/Integrin I24 Axis Induced by the Interaction between Cancer Cells and Tumor-Associated Macrophages Is Involved in the Progression of High-Grade Serous Ovarian Carcinoma.	Int J Mol Sci. 2024 Oct 1 ; 25(19):10598. (オンライン)	Original Article
378	Sanno M, Kusumoto J, Terashi H, et al	形成外科・美容外科	Nanobubbles and Fibroblast Growth: An In Vitro Study on Cell Migration and Proliferation.	Cureus. 2024 Nov 29 ; 16(11):e74775. (オンライン)	Original Article
379	Nomura T, Ozaki M, Osuga K, et al	形成外科・美容外科	Post-Hoc Analysis of a Multicenter Clinical Trial: Correlation of Coagulation Factor Changes and MRI-Defined Treatment Outcomes After Sclerotherapy for Venous Malformations.	J Clin Med. 2025 Jan 30 ; 14(3):905. (オンライン)	Original Article
380	Kashiwagi R, Maruguchi H, Ken-Ichi N, et al	形成外科・美容外科	Sinonasal Myxoma in an Infant: Observations on Its Distinctiveness and a Discussion on Potential Reclassification As Infantile Intraosseous Myxoid Desmoid Fibromatosis.	Cureus. 2024 Aug 1 ; 16(8):e65933. (オンライン)	Case Report
381	Ueda M, Sakakibara S, Terashi H, et al	形成外科・美容外科	En bloc resection of intraosseous arteriovenous malformation (AVM) in the maxilla and deformed bone following embolization and sclerotherapy.	Int J Surg Case Rep. 2024 Nov ; 124:110450.	Case Report
382	Ueda M, Shinomiya H, Nibu KI, et al	形成外科・美容外科	Efficacy of Surgical Reconstruction With Rectus Abdominis Flap Following en Bloc Resection of the Orbital Contents for Malignant Lacrimal Gland Cancer: A Case Series.	Cureus. 2024 Sep 13 ; 16(9):e69310. (オンライン)	Case Report

383	Ishihara C, Nomura T, Nakanishi T, et al	形成外科・美容外科	Bowen's Disease Along With Intradermal Merkel Cell Carcinoma Occurring on the Dorsum of the Hand.	Cureus. 2024 Sep 10 ; 16(9):e69114. (オンライン)	Case Report
384	Ueda M, Nomura T, Terashi H, et al	形成外科・美容外科	Optimal Vasodilators in Microsurgery and Their Effects on Blood Vessels.	J Reconstr Microsurg. 2024 Dec 17.	Original Article
385	Nomura T, Satake H, Hata Y, et al	形成外科・美容外科	Efficacy of Oral Sirolimus Therapy for Adult Orbital Slow-Flow Vascular Malformations: A Volumetric Evaluation.	Cureus. 2024 Oct 14 ; 16(10):e71478. (オンライン)	Case Report
386	Atomura D, Osaki T, Sakakibara S	形成外科・美容外科	Combined Use of the Hemi-Split Tibialis Anterior Muscle and Soleus Muscle Flap for Reconstruction After the Excision of a Recurrent Soft Tissue Sarcoma in the Lower Leg.	Cureus. 2024 Sep 11 ; 16(9):e69145. (オンライン)	Case Report
387	Atomura D, Inoue J, Pt MO, et al	形成外科・美容外科	Effects of Short-Term Educational Hospitalization with Multidisciplinary Approach for Lymphedema on Limb Circumference and Quality of Life.	Lymphat Res Biol. 2024 Dec ; 22(6):285-290.	Original Article
388	Wakabayashi J, Oshiro Y, Kan S, et al	麻酔科・ペインクリニック科	Brain activity during intraoperative general anesthesia using resting-state functional magnetic resonance imaging: a feasibility study.	J Anesth. 2025 Jun ; 39(3):389-399.	Original Article
389	Ueno K, Oshiro Y, Kan S, et al	麻酔科・ペインクリニック科	Resting-state brain functional connectivity in patients with chronic intractable pain who respond to spinal cord stimulation therapy.	Br J Anaesth. 2025 Feb ; 134(2):492-500.	Original Article
390	Miyazaki A, Hokka M, Obata N, et al	麻酔科・ペインクリニック科	Perioperative serum syndecan-1 concentrations in patients who underwent cardiovascular surgery with cardiopulmonary bypass and its association with the occurrence of postoperative acute kidney injury: a	BMC Anesthesiol. 2024 Apr 22 ; 24(1):154. (オンライン)	Original Article
391	Uryu K, Kakei Y, Sendo S, et al	歯科口腔外科	Zymosan-Treated SKG Mice: Assessing Effects of Systemic Inflammation on the Temporomandibular Joint.	Oral Dis. 2024 Dec 30.	Original Article
392	Kubo M, Arimoto S, Shigenaga K, et al	歯科口腔外科	A novel intraoperative infection detecting liquid for medication-related osteonecrosis of the jaw.	J Craniomaxillofac Surg. 2025 Jun ; 53(6):787-794.	Original Article
393	Iwata E, Susukida Y, Kusumoto J, et al	歯科口腔外科	Treatment Behaviors of Patients With Odontogenic Infections During the COVID-19 Pandemic.	Cureus. 2025 Mar 29 ; 17(3):e81414. (オンライン)	Original Article
394	Iwata E, Inokuchi G, Kawakami M, et al	歯科口腔外科	Predictive factors in difficult postoperative airway management of severe odontogenic deep neck infection.	Odontology. 2024 Dec 14.	Original Article

395	Sasaki A, Takeda D, Kawai H, et al	歯科口腔外科	Transcutaneous carbon dioxide suppresses skeletal muscle atrophy in a mouse model of oral squamous cell carcinoma.	PLoS One. 2024 Apr 17 ; 19(4):e0302194. (オンライン)	Original Article
396	Kusumoto J, Muraki Y, Sakakibara A, et al	歯科口腔外科	Effect of Statins on Patients With Osteoradionecrosis of the Jaw.	J Oral Maxillofac Surg. 2024 Dec ; 82(12):1585-1595.	Original Article
397	Muraki Y, Shioyasono A, Nishii M, et al	歯科口腔外科	Dental dysplasia in childhood cancer survivors: a case series of permanent tooth abnormalities.	Oral Maxillofac Surg. 2024 Nov 14 ; 29(1):9. (オンライン)	Original Article
398	Ohori H, Iwata E, Ichikawa C, et al	歯科口腔外科	Relationship between bone union and degree of bone marrow fibrosis at resection margins of advanced mandibular ORN.	Clin Oral Investig. 2024 Nov 5 ; 28(11):626. (オンライン)	Original Article
399	Hyodo T, Hara S, Goto S, et al	病理部	Clinicopathological characteristics of neural epidermal growth factor-like 1 protein-associated membranous glomerulonephritis.	Virchows Arch. 2025 May ; 486(5):991-1000.	Original Article
400	Jimbo N, Ohbayashi C, Fujii T, et al	病理部	The expression of YAP1 and other transcription factors contributes to lineage plasticity in combined small cell lung carcinoma.	J Pathol Clin Res. 2024 Sep ; 10(5):e70001.	Original Article
401	Nakagawa S, Kowa H, Takagi Y, et al	臨床研究推進センター	Efficacy of a non-pharmaceutical multimodal intervention program in a group setting for patients with mild cognitive impairment: A single-arm interventional study with pre-post and external control analyses.	Contemp Clin Trials Commun. 2024 Jun 14 ; 40:101326. (オンライン)	Original Article
402	Kuwahara N, Nagao M, Shinohara M, et al	冠動脈疾患治療部	ACLY Promotes Cardiac Fibrosis via the Regulation of DNL and Histone Acetylation.	Hypertension. 2025 Jun ; 82(6):1116-1128.	Original Article
403	Seto Y, Nagao M, Iino T, et al	冠動脈疾患治療部	Impaired Cholesterol Uptake Capacity in Patients with Hypertriglyceridemia and Diabetes Mellitus.	J Appl Lab Med. 2024 Jul 1 ; 9(4):728-740.	Original Article
404	Iino T, Nagao M, Tanaka H, et al	冠動脈疾患治療部	Assessment of transthyretin instability in patients with wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy.	Sci Rep. 2024 Sep 3 ; 14(1):20508. (オンライン)	Original Article
405	Noiri JI, Matsuzoe H, Nishio R, et al	冠動脈疾患治療部	Acute heart failure due to fulminant eosinophilic myocarditis with mononeuritis: eosinophilic granulomatosis with polyangiitis requiring cardiac multimodality imaging and systemic evaluation: a case report.	Eur Heart J Case Rep. 2025 Jan 17 ; 9(2):ytaf010. (オンライン)	Case Report
406	Fujimoto W, Matsumoto S, Kanaoka K, et al	冠動脈疾患治療部	Implications of asymptomatic hypotension for patients prescribed sacubitril/valsartan: Insight from the REVIEW-HF registry.	J Cardiol. 2025 Feb 14:S0914-5087(25)00060-7.	Original Article

407	Murakami A, Takami M, Imamura K, et al	冠動脈疾患治療部	Massive upper extremity deep venous thrombosis after a transvenous lead extraction successfully treated by an anti-thrombotic regimen.	HeartRhythm Case Rep. 2024 Oct 12 ; 11(2):96-100. (オンライン)	Case Report
408	Nakasone K, Mori S, Izawa Y, et al	冠動脈疾患治療部	Left Hemothorax During PulmonaryA?VeinA?Isolation.	JACC Clin Electrophysiol. 2024 Jun ; 10(6):1223-1231.	Case Report
409	Takeda S, Emoto T, Yamashita T, et al	冠動脈疾患治療部	Single-Cell RNA Sequencing Reveals an Immune Landscape of CD4(+) T Cells in Coronary Culprit Plaques With Acute Coronary Syndrome in Humans- Brief Report.	Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2024 May ; 44(5):1135-1143.	Original Article
410	Nagai S, Nishimori M, Kintsu M, et al	冠動脈疾患治療部	Left Ventricular Longitudinal Myocardial Function of Heart Failure Patients With Transition From Reduced to Preserved Ejection Fraction and of Those With Preserved Ejection Fraction.	Circ Rep. 2024 Apr 13 ; 6(5):161-167. (オンライン)	Original Article
411	Nakasone K, Tanaka K, Del Monte A, et al	冠動脈疾患治療部	Distance-dependent neuromodulation effect during thermal ablation for atrial fibrillation.	J Cardiovasc Electrophysiol. 2024 Oct ; 35(10):1997-2005.	Original Article
412	Suzuki Y, Kiuchi K, Takami M, et al	冠動脈疾患治療部	Late gadolinium enhancement in areas with electrically fractionated potentials during sinus rhythm in patients with atrial fibrillation.	Heart Vessels. 2025 Feb 8.	Original Article
413	Nakasone K, Della Rocca DG, Magnocavallo M, et al	冠動脈疾患治療部	Pulsed field ablation in the elderly by a pentaspline multielectrode catheter: Safety, efficacy, and comparison with cryoballoon and radiofrequency devices.	Heart Rhythm. 2025 Jan 24:S1547-5271(25)00094-3.	Original Article
414	Nishihara Y, Nishimori M, Shibata S, et al	冠動脈疾患治療部	Identifying heart failure dynamics using multi-point electrocardiograms and deep learning.	Eur Heart J Digit Health. 2025 Mar 10 ; 6(3):447-455. (オンライン)	Original Article
415	Tanaka H	冠動脈疾患治療部	Effect of Ivabradine on Left Ventricular Reverse Remodeling in Relatively Stable Heart Failure Outpatients With Reduced Ejection Fraction.	Circ Rep. 2024 Apr 19 ; 6(5):183-186. (オンライン)	Original Article
416	Uemura K, Ichikawa Y, Nagai S, et al	冠動脈疾患治療部	Effect of tafamidis on left atrial function of patients with transthyretin amyloid cardiomyopathy.	Heart Vessels. 2024 Sep ; 39(9):810-817.	Original Article
417	Tanaka H, Ishida T, Emoto T, et al	冠動脈疾患治療部	Overview of the 88(th) Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (JCS2024) and The Future of Cardiology - Challenges in Overcoming Cardiovascular Disease.	Circ J. 2024 Aug 23 ; 88(9):1502-1508.	Original Article
418	Nagai S, Toba T, Izawa Y, et al	冠動脈疾患治療部	Diagnostic utility of velocity ratio for paradoxical low-flow/low-gradient aortic stenosis.	J Echocardiogr. 2025 Mar ; 23(1):41-47.	Original Article

419	Osumi Y, Kawamori H, Toba T, et al	冠動脈疾患治療部	Impact of morphofunctional assessment with quantitative flow ratio and optical coherence tomography in patients with acute coronary syndromes.	EuroIntervention. 2024 Aug 5 ; 20(15):e927-e936. (オンライン)	Original Article
420	Odajima S, Fujimoto W, Takegami M, et al	冠動脈疾患治療部	BEEAF(2) Score: A New Risk Stratification Score for Patients With Stage B Heart Failure From the KUNIUMI Registry Chronic Cohort.	J Am Heart Assoc. 2024 Oct ; 13(19):e034793.	Original Article
421	Otake H, Kubo T, Hibi K, et al	冠動脈疾患治療部	Optical frequency domain imaging-guided versus intravascular ultrasound-guided percutaneous coronary intervention for acute coronary syndromes: the OPINION ACS randomised trial.	EuroIntervention. 2024 Sep 2 ; 20(17):e1086-e1097. (オンライン)	Original Article
422	Honde K, Izawa Y, Toba T, et al	冠動脈疾患治療部	Clinical anatomy of the right intercostal arteries: Another neighbor to know before pulmonary vein isolation.	Heart Rhythm. 2024 Sep 18:S1547-5271(24)03332-0.	Original Article
423	Nakasone K, Nishimori M, Shinohara M, et al	冠動脈疾患治療部	Enhancing origin prediction: deep learning model for diagnosing premature ventricular contractions with dual-rhythm analysis focused on cardiac rotation.	Europace. 2024 Oct 3 ; 26(10):euae240.	Original Article
424	Fujii C, Hiraishi M, Yamashita K, et al	冠動脈疾患治療部	Effect of Vericiguat on Left Ventricular Reverse Remodeling in Patients Who Have Heart Failure With Reduced Ejection Fraction: Special Focus on Patients Without Quadruple Medical Therapy.	Circ Rep. 2024 Sep 21 ; 6(10):448-455. (オンライン)	Original Article
425	Yamamoto T, Sugizaki Y, Kawamori H, et al	冠動脈疾患治療部	Enhanced Plaque Stabilization Effects of Alirocumab: Insights From Artificial Intelligence-Aided Optical Coherence Tomography Analysis of the Alirocumab for Thin-Cap Fibroatheroma in Patients With	Circ J. 2024 Oct 25 ; 88(11):1809-1818.	Original Article
426	Sugizaki Y, Matsumura M, Chen Y, et al	冠動脈疾患治療部	Natural history of a newly developed calcified nodule: incidence, predictors, and clinical outcomes.	EuroIntervention. 2024 Nov 4 ; 20(21):e1330-e1339. (オンライン)	Original Article
427	Suzuki Y, Emoto T, Sato S, et al	冠動脈疾患治療部	Left atrial single-cell transcriptomics reveals amphiregulin as a surrogate marker for atrial fibrillation.	Commun Biol. 2024 Dec 2 ; 7(1):1601. (オンライン)	Original Article
428	Hamana T, Nishimori M, Shibata S, et al	冠動脈疾患治療部	Deep-learning-driven optical coherence tomography analysis for cardiovascular outcome prediction in patients with acute coronary syndrome.	Eur Heart J Digit Health. 2024 Sep 27 ; 5(6):692-701. (オンライン)	Original Article
429	Fujii H, Taniguchi Y, Tamura Y, et al	冠動脈疾患治療部	Association between the prognosis and comorbidity of active cancer in chronic thromboembolic pulmonary hypertension.	BMC Pulm Med. 2025 Jan 2 ; 25(1):2. (オンライン)	Original Article
430	Tanaka H	冠動脈疾患治療部	Association of Epicardial Adipose Tissue With Left Atrial Function in Heart Failure With Preserved Ejection Fraction.	Echocardiography. 2025 Jan ; 42(1):e70072.	Original Article

431	Adinata A, Hara T, Achyar AC, et al	冠動脈疾患治療部	Usefulness of serial in vivo imaging to directly assess the role of inflammation in thrombus resolution and organization.	Biochem Biophys Res Commun. 2025 Feb 2 ; 747:151293.	Original Article
432	Shoda M, Takami M, Imamura K, et al	冠動脈疾患治療部	Utility of dual-chamber Electrogram-based pace mapping in a teenager with a focal atrial tachycardia, low inducibility, and indeterminate earliest excitation site.	J Arrhythm. 2024 Dec 5 ; 41(1):e13197. (オンライン)	Original Article
433	Inoue H, Uzu K, Fukuyama Y, et al	冠動脈疾患治療部	Factors involved in discontinuation or dose reduction of angiotensin receptor-neprilysin inhibitor: A retrospective analysis in 200 patients.	J Cardiol. 2025 Feb 12:S0914-5087(25)00054-1.	Letter
434	Ueno Y, Sofue K, Tamada T, et al	放射線診断・IVR科	Comparison of golden-angle radial sparse parallel (GRASP) and conventional cartesian sampling in 3D dynamic contrast-enhanced mri for bladder cancer: a preliminary study.	Jpn J Radiol. 2024 Dec ; 42(12):1469-1478.	Original Article
435	Yawata H, Ueshima E, Gentsu T, et al	放射線診断・IVR科	Successful Hybrid Treatment of Transcatheter Renal Artery Embolization and Open Ligation of Left Renal Vein for Renal Arteriovenous Malformation with Huge Venous Sac: A Case Report.	Interv Radiol (Higashimatsuyama). 2025 Mar 28 ; 10:e20240005. (オンライン)	Case Report
436	Ueshima E, Sofue K, Komatsu S, et al	放射線診断・IVR科	Immunoscore Predicted by Dynamic Contrast-Enhanced Computed Tomography Can Be a Non-Invasive Biomarker for Immunotherapy Susceptibility of Hepatocellular Carcinoma.	Cancers (Basel). 2025 Mar 11 ; 17(6):948. (オンライン)	Original Article
437	Tsuboyama T, Yanagawa M, Fujioka T, et al	放射線診断・IVR科	Recent trends in AI applications for pelvic MRI: a comprehensive review.	Radiol Med. 2024 Sep ; 129(9):1275-1287.	Original Article
438	Tachibana M, Nogami M, Inoue Inukai J, et al	放射線診断・IVR科	Time-synchronized 2-deoxy-2-[18F]fluoro-D-glucose PET/MRI with MR-active trigger and Bayesian penalized likelihood reconstruction: Diagnostic utility for locoregional extension of endometrial cancer.	Eur J Radiol. 2024 Oct ; 179:111678.	Original Article
439	Matsunaga T, Kono A, Nishio M, et al	放射線診断・IVR科	Development and web deployment of prediction model for pulmonary arterial pressure in chronic thromboembolic pulmonary hypertension using machine learning.	PLoS One. 2024 Apr 5 ; 19(4):e0300716. (オンライン)	Original Article
440	Takahashi S	放射線診断・IVR科	Editorial for "Fully Automated Identification of Lymph Node Metastases and Lymphovascular Invasion in Endometrial Cancer From Multi-Parametric MRI by Deep Learning".	J Magn Reson Imaging. 2024 Dec ; 60(6):2743-2744.	Original Article
441	Yamaguchi T, Sofue K, Ueshima E, et al	放射線診断・IVR科	Rim Enhancement on Contrast-Enhanced CT as a Predictor of Prognosis in Patients with Pancreatic Ductal Adenocarcinoma.	Diagnostics (Basel). 2024 Apr 9 ; 14(8):782. (オンライン)	Original Article
442	Matsuo H, Nishio M, Matsunaga T, et al	放射線診断・IVR科	Exploring Multilingual Large Language Models for Enhanced TNM Classification of Radiology Report in Lung Cancer Staging.	Cancers (Basel). 2024 Oct 26 ; 16(21):3621. (オンライン)	Original Article

443	Miyazaki A, Nishio M, Fujita A, et al	放射線診断・IVR科	Predicting the O’Kelly–Marotta scale score after flow-diverter stent placement using silent MRA.	Jpn J Radiol. 2024 Dec ; 42(12):1403–1412.	Original Article
444	Shimada R, Sofue K, Wang T, et al	放射線診断・IVR科	Development of respiratory motion-resolved hepatobiliary phase cine-magnetic resonance imaging for stereotactic body radiotherapy in liver tumor.	Sci Rep. 2024 Dec 28 ; 14(1):31347. (オンライン)	Original Article
445	Shimada R, Sofue K, Ueno Y, et al	放射線診断・IVR科	Utility of Thin-slice Fat-suppressed Single-shot T2-weighted MR Imaging with Deep Learning Image Reconstruction as a Protocol for Evaluating the Pancreas.	Magn Reson Med Sci. 2024 Jun 21.	Original Article
446	Toh R	検査部	Genetic Determinants of High-density Lipoprotein Cholesterol Efflux Capacity: Insights from Paraoxonase 1 Polymorphisms.	J Atheroscler Thromb. 2024 Sep 1 ; 31(9):1260–1262.	Original Article
447	Ono Y, Uzawa T, Sugiyama J, et al	救命救急科	Comparison of survival outcomes and anatomically specific severe injuries following traffic accidents among occupants of standard and K-car vehicles: A retrospective cohort study at a teaching hospital in Japan.	PLoS One. 2025 Feb 5 ; 20(2):e0318748. (オンライン)	Original Article
448	Nakanishi N, Abe Y, Matsuo M, et al	救命救急科	Effect of intravenous thiamine administration on critically ill patients: A systematic review and meta-analysis of randomized controlled trials.	Clin Nutr. 2024 Nov ; 43(11):1–9.	Original Article
449	Takami M, Imamura K, Fukuzawa K	循環器内科	Editorial to “Utilizing the lid of SL sheath packaging for a water seal catheter insertion technique”.	J Arrhythm. 2025 Feb 24 ; 41(1):e70028. (オンライン)	Original Article
450	Fukuzawa K, Takami M, Imamura K	循環器内科	Editorial to “comparison of exA?vivo lesion formation for two adjacent radiofrequency applications with very-high-power short-duration in various inter-lesion times”.	J Arrhythm. 2024 Dec 10 ; 41(1):e13202. (オンライン)	Original Article
451	Yoshikawa R, Kanzaki N, Matsuno R, et al	リハビリテーション科	Gait Parameters and Postoperative Pain Following Total Ankle Arthroplasty Using Wearable Motion Sensors: A Cross-Sectional Study.	Cureus. 2025 Feb 2 ; 17(2):e78392. (オンライン)	Original Article
452	Ogawa M, Ishihara K, Kanejima Y, et al	リハビリテーション科	Body Mass Index Affects Hospital-Associated Disability and Economic Burden in Elective Cardiovascular Surgery—JROAD/JROAD–DPC Database.	Circ J. 2025 Mar 18.	Original Article
453	Ogawa M, Okamura M, Yagi T, et al	リハビリテーション科	Oral Health and Cardiovascular Disease—A Scoping Review of Assessment Methods, Risk Factors, and Prognosis.	Circ Rep. 2025 Mar 1 ; 7(4):223–230. (オンライン)	Original Article
454	Ogawa M, Sato Y, Nagano F, et al	リハビリテーション科	Mineral supplementation in patients with frailty and sarcopenia—a systematic review.	Geriatr Gerontol Int. 2024 Sep ; 24(9):850–858.	Original Article

455	Ogawa M, Satomi-Kobayashi S, Yoshida N, et al	リハビリテーション科	Effects of preoperative beta-hydroxy-beta-methylbutyrate, arginine, and glutamine supplementation on cardiac surgery: A randomized controlled trial.	Clin Nutr. 2025 Feb ; 45:91-100.	Original Article
456	Fujinami Y, Saito M, Ono Y, et al	救命救急科	Malocclusion Worsens Survival Following Sepsis Due to the Disruption of Innate and Acquired Immunity.	Int J Mol Sci. 2025 Feb 22 ; 26(5):1894. (オンライン)	Original Article
457	Tanaka H, Ishida T, Emoto T, et al	循環器内科	Overview of the 88 <sup>th</sup> Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (JCS2024) — The Future of Cardiology – Challenges in Overcoming Cardiovascular Disease	CIRC J.2024 SEP:88(9):7	Original Article
458	Kato T, Mifune Y, Inui A, et al	整形外科	EFFECTS OF GLUTAMINASE 1 INHIBITOR ON ROTATOR CUFF DERIVED CELLS	J SHOULDER ELB SURG.2024 MAY:33(5):2	Original Article
459	Nakanishi Y, Nagai K, Hoshino Y, et al	整形外科	Operative Techniques in Sports Medicine focusing on the Aging Athlete Management of Meniscus Pathology—Repair and centralize or Resect?	OPER TECHN SPORT MED.2024 JUN:32(2):6	Original Article
460	Oikawa S, Yamaguchi H, Hanafusa H, et al	小児科	Treatment Options for Infantile Spasms Syndrome with SCN8A : A Case Report and Literature Review	J PEDIATR EPILEPSY.2024 JUN:13(02):7	Original Article
461	Kawamura A, Yamaguchi H, Hanafusa H, et al	小児科	A Rare Case of Recurrent Disturbed Consciousness with Alternating Hemiplegia Associated with 46,XX,der(18)t(12;18)(p11.2;p11.2)	J PEDIATR NEUROL.2024 DEC:5	Original Article
462	Takeda D, Ueda N, Sukegawa S, et al	歯科口腔外科	Is elective neck dissection effective for clinical cervical node-negative oral squamous cell carcinoma? A systematic review and meta-analysis for the update of the 2019 Japanese Oral Cancer Clinical Practice	J ORAL MAX SURG MED.2025 MAR:37(2):9	Review
463	Ueshima E, Sofue K, Kodama T, et al	放射線部	Gadoxetic Acid-Enhanced Magnetic Resonance Imaging Features Can Predict Immune-Excluded Phenotype of Hepatocellular Carcinoma	LIVER CANCER.2024 NOV:15	Original Article
464	Ueno H, Toshiyoshi H, Suzuki T	ME機器管理センター	Frequency conversion interposer with no-internal stress curved-beam for MEMS vibrational energy harvesters	SENSOR ACTUAT A-PHYS.2024 NOV:378:11	Original Article
465	Yuichi Okata # 1, Masakazu Murakami # 2, Munenori Uemura # 3, Takeshi Fukumoto, Tomoka Harada, Takamichi Ito, Satoshi	小児外科	Endosurgery workshop to improve the confidence of novice pediatric surgeons in performing laparoscopic hepaticojejunostomy	Pediatric Surgery International	Original Article
466	Takeshi Fukumoto, Tomoka Harada, Takamichi Ito, Satoshi	皮膚科	DNA repair ability in a patient with voriconazole-related squamous cell carcinoma that required differential diagnosis from xeroderma pigmentosum.	J Dermatol Sci 2024.May	case report

467	At Yoshioka, Yukako Shintani- Domoto, Ishino Kousuke.	皮膚科	A case of nodular cutaneous amyloidosis presenting as refractory leg skin ulcers.	J Dermatol 2024.Jun	case report
-----	--	-----	---	---------------------	-------------

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭者名の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	段林 正明	薬剤部	多職種連携に貢献できる指導薬剤師 育成の教育体制の構築と実践	薬学教育；2025.01:8:13- 19	Review
2	上田 佳秀,小 倉 靖弘,上野 義之 他	消化器内科	脳死肝移植希望者(レシピエント)適応 基準の変更	肝臓；2024.06:65:277- 283	Review
3	芦崎 太一郎, 十河 正弥,坂 東 美樹 他	脳神経内科	後脊髄動脈領域の梗塞により同側の onion-skin patternの顔面感覚の異常 と上肢の深部感覚障害を来した1例	脳卒中；2025.01:47:25- 30	Original Article
4	末廣 大知,関 口 兼司,渡部 俊介 他	脳神経内科	神経超音波検査で末梢神経腫大を呈 し免疫グロブリン大量静注療法が有効 であったpost-surgical inflammatory neuropathyの1例	末梢神経； 2024.06:35:150-157	Original Article
5	穂積 かおり, 小川 渉	糖尿病・内分泌内科	インスリン抵抗性update 腸内細菌叢 の役割を中心に	Diabetes Journal: 糖尿病 と代謝；2024.06:51:53-57	Review
6	寺田 菜々子, 後藤 俊介,齊 藤 慶 他	腎臓内科	妊娠経過中にネフローゼ症候群による 急性腎不全をきたしたがステロイドおよ び血漿交換にて血液透析離脱,完全寛 解となった1例	日本透析医学会雑誌； 2024.04:57:165-169	Original Article
7	薬師神 公和, 西田 睦	腫瘍・血液内科	超音波診断を含めた類洞閉塞症候群 (SOS/VOD)の診断について	日本造血・免疫細胞療法 学会雑誌； 2024.07:13:96-103	Review
8	金 永珠,池内 佑介,長嶋 宏 明 他	脳神経外科	マイクロバブルテストが原因検索に有 用であった心房中隔欠損症による脳膿 瘍の1例	脳神経外科速報； 2024.05:34:e80-e87	Original Article
9	川崎 一旭,松 下 雄彦,長井 寛斗 他	整形外科	反復性膝蓋骨脱臼に対して脛骨粗面 移行術と大腿骨滑車形成術を併用し た内側膝蓋大腿靭帯再建術を行い良 好な成績を得た1例	関節外科； 2025.02:44:212-215	Original Article
10	松尾 智哉,神 田 裕太郎,酒 井 良忠 他	整形外科	当院Cancer Boardレジストリにおける脊 椎転移手術後合併症のリスク因子検討	Journal of Spine Research ；2024.06:15:893-900	Original Article
11	笹川 勇樹,安 積 麻帆,小畑 権大 他	産科婦人科	ロボット支援下单純子宮全摘術後に血 管筋脂肪腫と判明した1例	産婦人科の進歩； 2024.08:76:306-311	Original Article
12	吉本 梓希子, 谷村 憲司,栖 田 園子 他	産科婦人科	胎児発育不全児の神経学的後障害を 予測できる因子の検討	産婦人科の進歩； 2024.08:76:206-212	Original Article
13	清水 香陽子, 今福 仁美,内 田 明子 他	産科婦人科	慢性胎盤早期剥離12例の妊娠予後お よび児予後の後方視的検討	日本周産期・新生児医学 会雑誌；2024.12:60:384- 389	Original Article
14	三上 稜平,三 根 実穂子,藤 原 肇 他	耳鼻咽喉・頭頸部外 科	耳下腺癌の頸部リンパ節転移の検討	頭頸部癌； 2024.12:50:285-290	Original Article

15	栗岡 恵,坂本麻里,島内 深希 他	眼科	imo vifaとHumphrey視野計の比較	あたらしい眼科； 2024.06:41:703-706	Original Article
16	中村 誠	眼科	緑内障性視神経症の新しい病態論とそれに基づく神経保護治療の可能性	眼科；2024.10:66:999-1013	Review
17	中村 誠	眼科	緑内障性視神経症は第4の糖尿病か？	あたらしい眼科； 2024.08:41:939-962	Review
18	南 霧子,蓬萊政,菱本 明豊	精神科神経科	レビー小体型認知症に伴う抑うつ症状とビタミン欠乏症の合併が考えられた症例の考察	仁明会精神医学研究； 2024.09:22:62-65	Original Article
19	吉川 なつこ,田村 彰広,上田 知佳 他	小児科	16SrRNAおよびsec A1遺伝子解析で播種性Gordonia感染症と診断した間葉性軟骨肉腫の女児例	兵庫県小児科医会報； 2024.:47-53	Original Article
20	中田 有紀,杉村 竜太郎,芦名 満理子 他	小児科	出生後に偶発的にPIVKA-II上昇を認めた早産児の1例	日本産婦人科・新生児血液学会誌； 2024.05:34:35-36	Original Article
21	野津 寛大	小児科	【小児科学レビュー-最新主要文献とガイドライン-】腎尿路疾患 尿細管機能異常症	小児科臨床； 2024.10:77:691-694	Review
22	山本 暢之,大曾根 眞也,鈴木 孝二 他	小児科	本邦における小児がん患者に対する口腔ケアの現状	日本小児血液・がん学会雑誌；2024.07:61:176-183	Original Article
23	市川 裕太,近藤 淳,猪野木雄太 他	小児科	若年で末期腎不全に至ったIgA腎症の移植後再発に対し,積極的にステロイドパルス療法を行うことで寛解導入した1例	日本小児腎不全学会雑誌； 2024.08:44:155-158	Original Article
24	高橋 愛音,城戸 拓海,今川 幸人 他	小児科	長期間の呼吸循環管理を要した特発性動脈管早期閉鎖症の一例	兵庫県小児科医会報； 2024.:19-24	Original Article
25	高原 結子,城戸 拓海,酒井善紀 他	小児科	生直後から右肺上葉の無気肺を認め遷延した新生児の一例	兵庫県小児科医会報； 2024.:41-46	Original Article
26	酒井 善紀,坊亮輔,角谷 美咲 他	小児科	古典型フェニルケトン尿症に対しベグパリアーゼを導入することによりフェニルアラニン血中濃度を低下することができた一例	兵庫県小児科医会報； 2024.:13-18	Original Article
27	松浦 春香,仲宗根 瑠花,福田 拓弥 他	小児科	NICU研修医ラダーを用いた手技獲得状況とラダーの有用性の検討	兵庫県小児科医会報； 2024.:31-37	Original Article
28	杉村 竜太郎,中田 有紀,芦名 満理子 他	小児科	生下時からG-CSF投与を要する好中球減少が遷延した超低出生体重SGA児の1例	日本産婦人科・新生児血液学会誌； 2024.05:34:17-18	Original Article
29	挽地 智裕,神田 知紀,神保直江 他	放射線診断・IVR科	【胸部の最新画像情報2025】アレルギー性気管支肺アスペルギルス症と鑑別を要した悪性黒色腫の気管支内転移の1例	臨床放射線； 2025.01:70:135-139	Original Article

30	明石 愛子,織田 好子,後藤 彩 他	皮膚科	レトロゾールによる多形紅斑の1例	皮膚の科学 ; 2024.06:23:93-96	Original Article
31	夏秋 聡,織田 好子,竹内 慎哉 他	皮膚科	【蕁麻疹と蕁麻疹様紅斑】アナフィラキシーから脳塞栓に至った寒冷蕁麻疹	皮膚病診療 ; 2024.07:46:606-609	Original Article
32	山田 はるひ,織田 好子,福本 毅 他	皮膚科	神戸大学皮膚科における特発性アナフィラキシー11例の検討	皮膚の科学 ; 2024.12:23:313-317	Original Article
33	原 琢人,鈴木 光太郎,千葉 公嗣 他	泌尿器科	【副腎に対する低侵襲手術の適応と限界(ロボット支援手術含む)】ロボット支援副腎摘除術の初期経験	Japanese Journal of Endourology and Robotics ; 2024.09:37:317-323	Original Article
34	陳 美仁子,高岡 諒	救命救急科	びまん性特発性骨増殖症の骨棘による食道穿孔から脊椎感染症に進展した一例	日本外傷学会雑誌 ; 2024.07:38:466-471	Original Article
35	倉島 佳歩,山下 智江,佐藤 伊都子 他	バイオリソースセンター	当院における採血管内凝固検体を除外する運用手順の検証	医学検査 ; 2024.10:73:644-651	Original Article
36	吉田 美帆,塚本 龍子,今川 奈央子 他	病理部	H&E染色内部精度管理におけるデジタル評価の有用性	医学検査 ; 2024.10:73:757-763	Original Article
37	谷 明穂,神保直江,廣瀬 隆則 他	病理部	星細胞類似成分が目立った若年者多型低悪性度神経上皮腫瘍の1例	診断病理 ; 2024.10:41:330-335	Original Article
38	岩城 忍,高橋 美貴,戸田 幸歩 他	リハビリテーション部	気管食道シャント術後の過緊張性発声に対しwater resistance therapyが奏功した2例	音声言語医学 ; 2024.04:65:103-107	Original Article
39	柴田 洋平,松下 雄彦,上田 雄也 他	リハビリテーション部	前十字靭帯再建術後1年以降の再断裂要因 後方視調査による予備的研究	理学療法兵庫 ; 2024.12:17-23	Original Article
40	水田 万裕,奥村 真帆,井上 順一朗 他	リハビリテーション部	乳がん患者を対象とした術前握力と術後上肢機能障害の関連に関する観察研究	理学療法兵庫 ; 2024.12:29-31	Original Article
41	上田 佳秀,尹聖哲,植田 勝明 他	肝疾患相談センター	兵庫県における肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業に関する実態調査	肝臓 ; 2024.12:65:575-580	Original Article
42	志田 有里,飯田 真之,番匠 咲帆 他	薬剤部	オピオイド鎮痛薬を入院中に開始した外来頭頸部がん患者を対象とした病院薬剤師による電話サポート介入の効果	日本緩和医療薬学雑誌 ; 2024.09:17:87-94	Original Article
43	富田 猛,山本 和宏,木村 丈司 他	薬剤部	院外処方における臨床検査値を用いた2段階チェック機能の有用性 処方禁忌警告システムと処方箋への検査値印字	医療薬学 ; 2024.06:50:277-286	Original Article
44	岡崎 裕太郎,大村 友博,上田 昌史 他	薬剤部	テルミサルタン錠の変色原因は添加剤のメグルミンによるドパミン誘導体の分解物である	日本病院薬剤師会雑誌 ; 2024.04:60:395-401	Original Article

45	今西 優子,秋元 典子	看護部	進行がん患者が病気の情報を未成年の子どもに伝えることに関する意思決定過程	日本がん看護学会誌 ; 2024.08:38:117-127	Original Article
46	田村 恵梨,神田 知紀,児玉 貴之 他	放射線診断・IVR科	腎洞に発生したSFTの1例	臨床放射線 ; 2024.07:69:567-572	Original Article
47	橋本 真哉,小川 聡,藤原 進	皮膚科	【予想外の皮膚病(意外な結末となった皮膚病)】右第IV趾の蠣殻様痂皮を契機に診断された本態性血小板血症	皮膚病診療 ; 2024.10:46:902-906	Original Article
48	吉岡 愛育,辰田 奈那恵,福本 毅 他	皮膚科	【特異的分布を示す皮膚病】母親の多発性黒子が診断の契機となった Noonan syndrome with multiple lentigines(NSML,旧名LEOPARD症候群)の親子例	皮膚病診療 ; 2025.03:47:210-214	Original Article
49	晴木 健人,福本 毅,原田 朋佳 他	皮膚科	レチノイド内服と内服PUVA療法の併用療法が奏効した毛包向性菌状息肉症の1例	Skin Cancer ; 2025.02:39:318-323	Original Article
50	八木田 隼啓,福本 毅,今村 真也 他	皮膚科	【予想外の皮膚病(意外な結末となった皮膚病)】免疫抑制中に生じたVZV関連の血管炎による片側性難治性下腿潰瘍	皮膚病診療 ; 2024.10:46:892-896	Original Article
51	長尾 愛,山野 希,久保 亮治	皮膚科	【特異的分布を示す皮膚病】乳頭乳輪部を除いた体幹にタンクトップ様の皮膚硬化を呈した限局性強皮症	皮膚病診療 ; 2025.03:47:224-227	Original Article
52	宮地 真生,菱本 明豊,俵 崇記	精神科神経科	ブロムバレリル尿素を過量内服し、幻覚症をきたした一例	仁明会精神医学研究 ; 2024.09:22:66-70	Original Article
53	吉田 道彦,柳本 泰明,津川 大介 他	肝胆膵外科	腹腔鏡補助下膵頭十二指腸切除術でR0切除となった胆管原発神経内分泌癌の1例	癌と化学療法 ; 2024.12:51:1633-1635	Original Article
54	三宅 泰一郎,浦出 剛史,小松 昇平 他	肝胆膵外科	GC+デュルバルマブ療法が奏効し根治的肝切除術を施行し得た胆嚢癌術後肝転移再発の1例	癌と化学療法 ; 2024.08:51:843-845	Original Article
55	山下 淳也,武田 大介,白井 達也 他	歯科口腔外科	咬筋部限局性筋炎を疑った節外性NK/T細胞リンパ腫,鼻型の1例	日本口腔外科学会雑誌 ; 2025.01:71:33-37	Original Article
56	田所 慶誠,武田 大介,岩田 英治 他	歯科口腔外科	自傷行為により側頭筋および咬筋に発症した外傷性化骨性筋炎の1例	日本口腔外科学会雑誌 ; 2024.06:70:255-260	Original Article
57	利川 誠将,武田 大介,長谷川 巧実 他	歯科口腔外科	当科で新型コロナウイルス感染症に関するPCR検査を行った患者の臨床的考察	日本口腔感染症学会雑誌 ; 2024.05:31:3-10	Original Article
58	陳 美仁子,大野 雄康,山田 勇 他	救命救急科	全身性炎症反応症候群ならびに多臓器不全を呈し敗血症との鑑別に苦慮した血管内リンパ腫の一例	救急医学 ; 2024.08:48:1003-1010	Original Article
59	高田 健司,大野 雄康,高山 和之 他	救命救急科	非気管挿管下に実施した内視鏡下副鼻腔手術中に陰圧性肺水腫を発症した一例	日本救命医療学会雑誌 ; 2024.:38:1-12	Original Article

60	桂 長門	救命救急科	【器械を用いた栄養アセスメントを臨床に生かす】BIAを用いたがん患者の栄養アセスメント 二次性サルコペニアを伴う消化器がん患者における浮腫がおよぼすBMIと骨格筋量関係の変化 骨	外科と代謝・栄養； 2024.04:58:53-56	Original Article
61	桂 長門, 齋藤 徹	救命救急科	都市部と地方における肛門疾患診療の違い ALTA療法を巡る患者心理を中心とした考察	日本臨床肛門病学会雑誌； 2024.10:7:74-77	Original Article
62	狹原孝史, 山本和宏, 村川 亜光, 高木妙子, 阪上倫子, 木村丈行, 木村丈	薬剤部	薬剤師によるバンコマイシン血中濃度測定オーダー登録と注射薬処方オーダー仮登録がもたらす実践的有用性の評価	TDM研究, 41(4): 117-124 (2024)	Original Article
63	八木田肇啓, 福本毅, 今村 真也, 国定 充, 谷川瑛子, 久保亮治	皮膚科	免疫抑制中に生じたVZV関連の血管炎による片側性難治性下腿潰瘍	皮膚病診療	Original Article
64	晴木健人, 福本毅, 原田朋佳, 小野竜輔, 久保亮治	皮膚科	レチノイド内服と内服PUVA療法の併用療法が奏効した毛包向性菌状息肉症の1例	Skin Cancer	Original Article
65	吉岡愛育, 辰田奈那恵, 福本毅, 小野竜輔, 長濱通子, 久保亮治	皮膚科	母親の多発性黒子が診断の契機となったNoonan syndrome with multiple lentiginos (NSML, 旧名LEOPARD症候群)の親子例	皮膚病診療	Original Article
66	長尾愛, 山野 希, 久保亮治	皮膚科	乳頭乳輪部を除いた体幹にタンクトップ様の皮膚硬化を呈した限局性強皮症	皮膚病診療	Original Article
67	四川 佳祐, 大沼 健一郎, 楠木 まり, 石田 奈美, 小林 沙織, 西	検査部	Streptococcus属及びHaemophilus influenzaeにおける薬剤感受性測定機器DPS192iXの性能評価	日本臨床微生物学会雑誌・2025年3月)	Original Article

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 審査申請手順について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 被験者の保護を最優先し、かつ、大学の社会的信頼を得つつ、臨床研究を適正に推進するために、利益相反が深刻な事態へと発展することの未然防止を目的として、利益相反のマネジメントを適切に実施する。マネジメントの実施のため、臨床研究利益相反マネジメント委員会を設置し、委員会は利益相反に関する重要事項を調査・審議・審査する。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 9 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3 0 回
・ 研修の主な内容 臨床研究の全体像、治療開発のための研究形態、研究倫理と被験者保護について e-learning又は臨床研究推進セミナーを受講する	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

## 高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

### 1 研修の内容

#### ・神戸大学医学部附属病院内科専門研修プログラム

本プログラムは、神戸大学医学部附属病院ならびに兵庫県・大阪府の関連病院・連携施設群の中で、内科専門医を取得することを一つの目標として、内科医としての幅広い臨床能力を育成するためのものである。

初期臨床研修を修了した後に、プログラム内の病院群の中で3年間専攻医として研修を修了した時点で、内科専門医受験資格を獲得することを目標とする。

#### ・神戸大学放射線科専門研修プログラム

本プログラムは、神戸大学医学部附属病院放射線科/放射線腫瘍科を専門研修基幹施設として、日本医学放射線学会に認定された 9つの総合修練機関、3つの特殊修練機関、21の修練機関に1つの関連施設を加えた専門研修施設群を統括する専門研修プログラムである。

#### ・神戸大学小児科専門研修プログラム

本プログラムは、日本小児科学会が求める「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医となるに必要かつ十分なプログラムであるだけでなく、将来のsubspecialty や個人のキャリアパスにも十分配慮した多様な選択肢を持つプログラムである。

#### ・神戸大学皮膚科研修プログラム

本プログラムは、研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

#### ・神戸大学病院 連携施設 精神科専門医研修プログラム

専攻医は統合失調症、気分障害をはじめとする児童思春期から老年期にわたる多岐の精神疾患患者の主治医となり、看護、心理、リハビリテーションの各領域とチームを組み、これらの精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法の中核的なカリキュラムに従った研修プログラムに参加する。神戸大精神科研修プログラムの連携施設には、神戸市立中央市民病院をはじめとする総合病院精神科神経科、県立ひょうごこころの医療センターをはじめとする公立・私立単科精神科病院が含まれる。専攻医はこれらの医療機関をローテートしながら研鑽を積み、精神科医としての診療能力を向上させつつ、精神科専門医だけでなく精神保健指定医資格をも取得することを目標とする。

#### ・神戸大学外科専門研修プログラム

神戸大学外科学講座の食道胃腸外科学、肝胆膵外科学、心臓血管外科学、呼吸器外科学、小児外科学、乳腺内分泌外科学の 6 分野ならびに外科系講座の災害・救急医学分野が連携し、プログラムの作成と運営を行うことにより、各専攻医のライフプランに応じた効率的できめ細やかな研修を計画することができる。

#### ・神戸大学整形外科専門研修プログラム

本プログラムでは、基幹施設および連携施設全体においてスポーツ医学、関節外科学、脊椎外科学、手外科学、外傷学、骨軟部腫瘍学、小児整形外科学、リハビリテーション医学などの専門性

の高い整形外科診療を、満遍なく、幅広く経験することが可能である。また、整形外科専門医資格取得後に、サブスペシャリティ領域の研修へ発展させていくための基礎をしっかりと修得することができる。さらに基幹施設である神戸大学医学部附属病院における研修では、専門性の高い臨床研修に加え、神戸大学の特徴である大学院大学という特徴を活かし、将来の大学院進学に備えた臨床・基礎研究のアプローチを学ぶことが可能である。

・神戸大学医学部脳神経外科専門研修プログラム

神戸大学医学部附属病院および連携施設において、それぞれの専門性を有した指導医のもと、症例を担当し臨床実地経験を蓄積する。大学病院では最新鋭の 3 テスラ術中 MRI 装置やハイブリッド手術室を用いた先進的な医療に参加できる。連携施設は兵庫県内にほぼ集約され、基幹施設と連携施設での 2019 年の年間手術総数は 4800 件余りにおよび脳神経外科の全領域をカバーしている。地域の第一線医療、三次救急医療、脳血管障害専門医療、血管内治療、小児神経疾患、脊髄疾患、機能的疾患、脳腫瘍の集約的治療、神経内視鏡手術、定位放射線治療などの特色ある治療を行っている連携施設をローテーションすることができることは、当プログラムの大きな特徴である。大学以外の各連携施設でも十分な指導医と豊富な症例を有しており、診療支援・教育学習機会が充実している。

・神戸大学眼科専門研修プログラム

眼科の 6 領域である、角結膜、緑内障、白内障、網膜硝子体・ぶどう膜、屈折矯正・弱視・斜視、神経眼科・眼窩・眼付属器のそれぞれに専門家が在籍している。専門研修基幹施設には、7つの専門外来を設置しており（緑内障、神経眼科、斜視弱視・小児眼科、網膜硝子体、ぶどう膜、角膜・コンタクト、眼窩）、専門研修連携施設にも、一般臨床から幅広い領域に対応できる指導医を派遣している。これらから、基幹施設、連携施設での研修を通じて、どの分野においても偏りなく眼科の最新医療を学べる体制が整っている。

・神戸大学耳鼻咽喉科専門研修プログラム

耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師として的人格を涵養し、耳、鼻・副鼻腔、口腔・咽頭・喉頭、頭頸部の病態や疾患に対する診断と治療に関する豊富な知識と技術、経験を有し、国民に良質で安全な標準的医療を提供するとともに、更なる医療の発展にも寄与することができる耳鼻咽喉科専門医の育成を目的としている。

・神戸大学泌尿器科専門医研修プログラム

神戸大学医学部附属病院を基幹施設とする27の連携施設から構成される。本研修施設群では、小児泌尿器科、尿路生殖器腫瘍、排尿障害、尿路結石症、性機能障害、生殖医療、尿路感染症、女性泌尿器科、腎移植、腹腔鏡手術、小切開手術などの領域を専門的に実施する連携病院を擁し、また、ロボット支援手術を実施する病院が15施設に及ぶ。以上のプログラムの特性から、一般的な泌尿器科診療に加えて量的にも質的にも多彩な専門的診療を研修する機会が得られる。

・神戸大学産科婦人科研修プログラム

本専門研修プログラムでは、医師としてまた産婦人科医としての基本的な診療技術、幅広い知識を習得し、婦人科腫瘍、周産期、女性のヘルスケア、生殖医療、内視鏡手術、さらに医療過疎地における地域医療に特化した連携施設での研修により、幅広く、より高度な知識・技能を持つことが可能となる。研修終了後は、兵庫県下のみならず地域医療の担い手として、県外も含めた希望する施設で就業することが出来る。さらに専門研修施設群における専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティ領域の専門医の研修を開始する準備も整っているため、スムーズに個々のスキルアップを図ることが出来る。

・神戸大学形成外科研修プログラム

形成外科は臨床医学の一端を担うものであり、先天性あるいは後天性に生じた変形や機能障害に対して外科的手技を駆使することにより、形態および機能を回復させ患者の Quality of Life

の向上に貢献する外科系専門分野である。形成外科医制度は、形成外科医として有すべき診断能力の水準と認定のプロセスを明示するものであり、専門研修プログラムは医師として必要な基本的診断能力（コアコンピテンシー）と形成外科領域の専門的能力、社会性、倫理性を備えた形成外科医を育成することを目的としている。

・神戸大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム

本プログラムでは、4年間のうち最短で1年間は責任基幹施設である神戸大学医学部附属病院で研修を行うこととし、プログラムに所属する全ての専攻医が、原則として研修期間4年間のうちの2年間で専門研修基幹施設および連携施設において、専門研修に必要とされる特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築している。残り2年間の研修は、すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、それぞれの専攻医のキャリアプランに合わせた調整が可能である。また、専門研修基幹施設（神戸大学医学部附属病院）での研修には、集中治療およびペインクリニック領域での研修も含まれる。

・神戸大学医学部附属病院救急科専門研修プログラム

本プログラムでは、手術手技などの救急科医としての専門的能力は当然として、大学ならではの基礎から臨床、日常診療から最先端の医療まで臓器・分野を越えた幅広い領域の知識や技術を学ぶ事が出来る。災害救急医学分野の協力を得て、必修である救命・救急医療の充実を計っている。さらに3年間の専門研修プログラム終了後も様々な診療特色を持つ関連病院への出向や大学院博士課程へ進学、国内外への留学など、幅広い選択肢の中から、自身の選択した専門分野（サブスペシャリティ）で救急科医師としての研鑽を積むことが可能である。

・神戸大学医学部附属病院病理専門研修プログラム

大学病院をも含む数多い関連施設群を活用し、多分野にわたる基本的な病理診断学の習得は勿論、個人の興味に応じた医療最前線の病理学の両者をバランス良く学ぶことを目指す。各専門分野にわたる豊富な指導教官による充実した指導と多彩な症例を経験することができる。各分野に精通した専門家が多数在籍し、general pathology を十分に習得した上で、各自のsubspecialty を持った理想的な病理医を育成する。各専攻医の希望にきめ細かく対応。基礎病理学分野群、あるいは他大学の基礎講座とも連携し、診断病理医として有用な分子病理学のスキル習得も可能である。

・神戸大学リハビリテーション科専門研修プログラム

神戸大学リハビリテーション科研修プログラム(PG)は、患者から信頼され、まず、標準的な医療を提供できるリハビリテーション科専門医となるために、急性期、回復期、生活期のリハビリテーション医療に精通し、脳卒中、運動器、切断、小児、内部障害、そしてがんのリハビリテーションまで幅広く知識と経験を得られるよう、適切な教育を行い、十分な知識と経験を身に着けるため、神戸、播磨地区の病院群での研修を中心に構成されたプログラムになっている。本研修プログラムは、現在まで神戸大学医学部附属病院とその関連病院の先輩方が築き上げた素晴らしいリハビリテーション研修施設を横断して研修することで、日本をリードするリハビリテーション科専門医となるための基礎を身に着けてもらえると考えている。

・神戸大学臨床検査専門研修プログラム

臨床検査はEvidence Based Medicineにおける客観的な指標として、診療にかかせないものである。臨床検査の全般において、その品質の向上と維持に努め、適切かつ信頼性の高いサービスを通して良質で安全な患者診療に貢献する専門医が臨床検査専門医である。本研修プログラムでは、臨床検査医学総論、一般臨床検査学・臨床化学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学・輸血学、遺伝子関連検査学、臨床生理学の基本7科目の研修を行う。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

## 2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	145人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

## 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
児玉 裕三	内科	教授	31年	
村上 卓道	放射線科	教授	39年	
野津 寛大	小児科	教授	28年	
久保 亮治	皮膚科	教授	31年	
菱本 明豊	精神科神経科	教授	29年	
掛地 吉弘	外科	教授	38年	
黒田 良祐	整形外科	教授	35年	
篠山 隆司	脳神経外科	教授	31年	
中村 誠	眼科	教授	36年	
丹生 健一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	教授	39年	
三宅 秀明	泌尿器科	教授	32年	
寺井 義人	産科婦人科	特命教授	33年	
榑原 俊介	形成外科	教授	21年	
小幡 典彦	麻酔科	教授	25年	
小谷 穰治	救命救急科	教授	38年	
伊藤 智雄	病理診断科	教授	33年	
酒井 良忠	リハビリテーション科	特命教授	29年	
三枝 淳	臨床検査部門	部長	29年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）	
1. 研修の主な内容	薬剤師を対象に、薬物治療、薬剤師業務についての知識・技能を習得するための講義・演習形式のスキルアップセミナーおよび症例検討会を実施した。
研修の期間・実施回数	2024/4/1～2025/3/31 計38回
研修の参加人数	各6～44名、延751名
2. 研修の主な内容	新人看護師を対象に、「薬剤の基礎知識」をテーマとする講義（動画）を実施した。
研修の期間・実施回数	2024/4/4、1回60分の動画講義
研修の参加人数	140名
3. 研修の主な内容	病棟看護師を対象に、「精神科治療薬」、「糖尿病薬」、「睡眠薬・抗精神病薬」をテーマに講義を行った。
研修の期間・実施回数	2024/4/11、11/1、11/12 計3回
研修の参加人数	約31名
4. 研修の主な内容	医師事務作業補助者を対象に、「薬剤部業務の解説」をテーマに講義を行った。
研修の期間・実施回数	2024/8/2、1回60分の動画講義
研修の参加人数	15名
5. 研修の主な内容	新人看護師を対象に「医療安全90分、社会人基礎力300分、技術トレーニング540分、フィジカルアセスメント180分」の研修を対面で、「薬剤の基礎知識60分、糖尿病の薬物治療60分、災害看護60分、リフレクション60分」をオンデマンド配信で実施した。
研修の期間・実施回数	2024/4～6にかけて
研修の参加人数	各回140名
6. 研修の主な内容	新人看護師を対象に「技術評価210分、看護倫理210分」の研修を対面で、「災害看護60分、リフレクション270分」をオンデマンド配信で実施した。
研修の期間・実施回数	2024/4～6にかけて 計12回
研修の参加人数	各回131～140名
7. 研修の主な内容	卒後2～3年目程度の看護師を対象に「フィジカルアセスメント180分105名」の研修を対面で、「手術看護60分12名、がん薬物療法看護入門240分79名、がん看護180分43名、スキンケア60分122名、家族看護60分108名、排泄ケア60分106名、災害看護60分106名、リフレクション60分98名」をオンデマンド配信で実施した。
研修の期間・実施回数	2024/6～2025/2にかけて 計10回
研修の参加人数	上記内容とおり
8. 研修の主な内容	卒後4年目以上の看護師を対象に、「がん看護240分20名、災害看護60分25名、家族看護210分15名、フィジカルアセスメント210分26名、リフレクション60分22名」を対面で実施した。
研修の期間・実施回数	2024/6～2025/2にかけて 計10回
研修の参加人数	上記内容とおり
9. 研修の主な内容	すべての看護師を対象に「認知症看護」をオンデマンド配信で実施した。

研修の期間・実施回数 研修の参加人数	2024/10の1か月間アクセス可能とした 38名
10. 研修の主な内容	診療放射線技師を対象に、放射線関連学会での演題に対する予演会および学会参加で得た知見等に対する報告会を実施した。
研修の期間・実施回数	①日本放射線技術学会総会学術大会 報告会 3回 ②日本磁気共鳴医学会大会 予演会/報告会 2回 ③日本放射線医療技術学術大会 予演会/報告会 3回 ④文部科学省診療放射線技師研修 報告会 ⑤日本放射線腫瘍学会学術大会 報告会 ⑥日本IVR学会総会 報告会
研修の参加人数	①37名・37名・34名 ②29名・35名 ③30名・35名・32名 ④31名 ⑤33名 ⑥30名
11. 研修の主な内容	医療技術部新規採用職員を対象に以下の研修を実施した ①就業規則について ②感染対策について（実技含む） ③各部門の部門紹介 3回（職場見学会含む） ④接遇について ⑤患者さんの安全な移乗方法について（実技） ⑥医療安全（医療技術部における事例） ⑦電子カルテの見方 各職種がどの部分を見ていて、どの部分を職員に知っていてほしいのかを多職種が説明する
研修の期間・実施回数 研修の参加人数	9回 各回 23名
12. 研修の主な内容	リハビリテーション部の技士を対象に「下肢荷重計そくまると自動角度計の使用方法の研修会」を実施した。
研修の期間・実施回数 研修の参加人数	1回 6名
13. 研修の主な内容	病理部の新規採用職員を対象に、以下の研修を実施した。 院内オリエンテーションおよび部内オリエンテーション ・ 患者情報の守秘義務 ・ 倫理 ・ ポケットマニュアルの説明 ・ 接遇 ・ 感染予防 ・ 部内オリエンテーション
研修の期間・実施回数 研修の参加人数	2024/4/1～4/2、5/1～5/7 各期間1名
14. 研修の主な内容	病理部の新規採用職員を対象に、以下の研修を実施した。 ISO 15189に関する研修 ・ 教育訓練研修 ・ 文書管理 ・ 毒物劇物・化学物質の取り扱い ・ HIS/LIS、個人情報・守秘義務 ・ 精度管理・試薬管理 ・ プロセス管理

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境設備</li> <li>・ QMS</li> </ul>
研修の期間・実施回数	2024/4/1～4/25、5/7～5/31
研修の参加人数	各期間1名
15. 研修の主な内容	病理部の職員を対象に、以下の研修を実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有害インシデントの影響を回避または抑制することを含む安全衛生</li> <li>・ 避難訓練（机上訓練）</li> </ul>
研修の期間・実施回数	2024/11/7、1回
研修の参加人数	全員
16. 研修の主な内容	検査部として、以下の研修を実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>①毒劇物取り扱いについて（神田 技師）</li> <li>②自己免疫疾患について（第2回） 千藤 荘 先生</li> </ul>
研修の期間・実施回数	①2024年5月31日 ②2024年7月24日
研修の参加人数	①49人 ②49人
17. 研修の主な内容	医療従事者を対象に、「NEST勉強会」として栄養管理についての知識を習得するための講義を実施した。
研修の期間・実施回数	2024/4/1～2025/3/31 計9回
研修の参加人数	各 30～60名
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）	
1. 研修の主な内容	薬剤師を対象に、薬・業務に関するインシデントや対策、薬・治療に関する知識、病棟業務についての標準化・効率化やインシデント対策の共有を図るために薬局会、ミーティングを実施した。
研修の期間・実施回数	2024/4/1～2025/3/31 計24回
研修の参加人数	各28～75名、延1190名
2. 研修の主な内容	新人看護師を対象に「患者情報収集60分、対人コミュニケーション210分、分、ピアサポート240分、看護の展開210分、業務マネジメント210分」の研修を対面で実施した。
研修の期間・実施回数	2024/04～11にかけて 計11回
研修の参加人数	各回127～140名
3. 研修の主な内容	卒後2年目～3年目程度の看護師を対象に「成人教育210分71名、ピアサポート60分104名、対人コミュニケーション210分99名」の研修を対面で、「入退院支援45分164名、リーダーシップ60分60名、ピアサポート60分104名、メンバーシップ60分111名、」の研修をオンデマンド配信で実施した。
研修の期間・実施回数	2024/6～2025/3にかけて 計32回
研修の参加人数	上記内容とおり
4. 研修の主な内容	卒後4年目以上の看護師を対象に、「教育学210分15名、キャリアデザイン60分42名、教育倫理210分20名、倫理的意思決定210分54名、セルフコンディショニング210分7名、看護サービス管理60分11名、論理的思考と論理的文章210分19名、コンフリクトマネジメント60分13名目標管理60分4名、コーチングスキル210分24名」の研修を対面もしくは遠隔ライブ講義で、「チーム医療60分29名、リーダーシップ60分33名、看護学教育論210分15名、エビデンスの実践活用210分20名、研究テーマの探求210分18名、組織論60分20名」をオンデマンド配信で実施した。
研修の期間・実施回数	2024/6～2025/2にかけて 計30回
研修の参加人数	上記内容とおり

5. 研修の主な内容	すべての看護師を対象に、「地域包括ケアにおける看護師の役割60分81名異文化対応能力向上60分11名、」の研修を対面で実施した。
研修の期間・実施回数	2024/7～2024/8にかけて 計2回
研修の参加人数	上記内容とおり
6. 研修の主な内容	教育指導のリーダー役割を担う看護師を対象に、「部署の教育における現状と課題210分13名、リフレクションの理解とファシリテーション210分13名、研修の組み立て方210分25名、指導法210分12名、メンタルヘルスケアを考慮したアプローチ210分12名、教育とは210分12名」の研修を対面で、「看護基礎教育の現状と課題60分19名」をオンデマンド配信で実施した。
研修の期間・実施回数	2024/6～2025/2にかけて 計7回
研修の参加人数	上記内容とおり
7. 研修の主な内容	管理的立場の看護師を対象に、「心理的安全性60分30名、医療メデイエーション60分22名、災害対応60分53名、看護DX60分52名」の研修を対面で実施した。
研修の期間・実施回数	2024/6～2025/2にかけて 計4回
研修の参加人数	上記内容とおり
8. 研修の主な内容	診療放射線技師を対象に、学生実習指導に係る報告会を行った。また、各装置に特化した個別研修を必要時に開催した。
研修の期間・実施回数	①学生実習に係る報告会 9回 ②装置使用に係る個別研修 13回
研修の参加人数	①24名・31名・30名・32名・33名・33名・35名・24名・29名 ②各回1～8名
9. 研修の主な内容	病理部の細胞検査士を対象に、以下の研修を実施した。
研修の期間・実施回数	①細胞診症例検討会 ②口腔細胞診ワークショップ ③細胞診供覧会（陽性チェック） ①1時間・5回 ②1時間・2回 ③0.5時間・週5回
研修の参加人数	①②細胞検査士全員、③細胞診業務担当者研修の参加人数
10. 研修の主な内容	病理部の業務担当職員を対象に、「機器導入時使用説明会」を実施した。
研修の期間・実施回数	1～2時間、1回
研修の参加人数	機器使用者全員
11. 研修の主な内容	病理部の業務開始職員を対象に、以下の研修を実施した。 業務組織標本
研修の期間・実施回数	8時間、
研修の参加人数	①1名 ②1名 ③1名 ④業務開始職員全員
12. 研修の主な内容	病理部の業務担当職員を対象に、以下の研修を実施した。
研修の期間・実施回数	①電子顕微鏡 各論 ②泌尿器パリスシステム ③甲状腺NIFTP ④細胞診精度管理解説 ⑤HALOユーザーミーティングおよび講習 ⑥迅速鍍銀染色の必要性 ⑦電子染色EMステイナー 約30分、各1回
研修の参加人数	担当者全員
13. 研修の主な内容	検査部として、以下の研修を実施した。

	①IS015189:2022 ISO内部監査員セミナー ②インシデント事例・是正処置対策事例の共有 ①2024年4月10日～16日 ②2024年7月24日 ①19人 ②49人
③	他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
1.	<b>研修の主な内容</b> 日本医療薬学会地域薬学ケアの研修生を対象に、部内薬剤師向けに開催したスキルアップセミナーおよび症例検討会、院内で開催された抗悪性腫瘍剤審査委員会やチーム医療・診療科のカンファレンスを公開した。また、対応に苦慮する症例に対する指導を行い、研修生による症例検討会を開催した。 <b>研修の期間・実施回数</b> 2024/4/1～2025/3/31 計38回(スキルアップセミナー、症例検討会)、19回(がん薬物療法審査委員会)、月1回(症例に対する指導) <b>研修の参加人数</b> 4名
2.	<b>研修の主な内容</b> 神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム 高齢者医療コース研修生に対して、高齢者の「薬学概論」「ポリファーマシー」「糖尿病治療」「栄養管理」「がん薬物療法」「アドバンス・ケア・プランニング」について講義を行った。 <b>研修の期間・実施回数</b> 2024/6/17～2024/7/12 <b>研修の参加人数</b> 2名
3.	<b>研修の主な内容</b> 神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム 栄養医療コース研修生に対して、研修期間中に「静脈栄養」「簡易懸濁」について講義を行った。 <b>研修の期間・実施回数</b> 2024/12/21～2024/12/22、40分、1回 <b>研修の参加人数</b> 20名
4.	<b>研修の主な内容</b> 神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム 災害・救急医療コース研修生に対して、研修期間中に「災害時の薬事」について講義を行った。 <b>研修の期間・実施回数</b> 2024/10/7～2024/10/25 <b>研修の参加人数</b> 1名
5.	<b>研修の主な内容</b> 神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム がん医療コース研修生に対して、研修期間中にがん薬物療法を受ける患者(外来、入院)に対する服薬指導、副作用モニタリング等の実技研修を行った。 <b>研修の期間・実施回数</b> 2024/4/30～2024/5/31 <b>研修の参加人数</b> 1名
6.	<b>研修の主な内容</b> 日本医療薬学会がん専門薬剤師制度の研修生に対して、研修期間中に「薬物療法の実践」「チーム医療への参画」等の研修の進捗管理を行った。 <b>研修の期間・実施回数</b> 2024/4/1～2025/3/31、月1回程度 <b>研修の参加人数</b> 2名
7.	<b>研修の主な内容</b> 日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師制度の研修生に対して、研修期間中に、がん薬物療法を受ける患者(外来、入院)に対する服薬指導、副作用モニタリング等の実技研修を行った。 <b>研修の期間・実施回数</b> 2024/11/19～2025/3/7 計30日 <b>研修の参加人数</b> 1名
8.	<b>研修の主な内容</b> 院内外の看護師を対象に「メンタルヘルス210分7名、コーチングスキル210分42名、看護研究60分14名、コンフリクトマネジメント60分30名、1on1ミーティング180分3名、ウェルビーイング210分3名、異

研修の期間・実施回数 研修の参加人数	文化対応能力向上60分4名」の研修を実施した（人数は院外受講者） 上記各1回ずつ開催（1on1ミーティングのみ60分×3回） 上記内容とおり
9. 研修の主な内容  研修の期間・実施回数 研修の参加人数	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム がん医療コース：免疫染色エキスパート臨床検査技師育成コース研修生に対して、「免疫染色に関する基礎と応用技術」について講義および実習研修を行った。 2025/2/3-14、3/10-3/21、18回 1名
10. 研修の主な内容  研修の期間・実施回数 研修の参加人数	全国の病理部門技師に対して、免疫染色に関するセミナーを開催した。 2025/1/12、1回 約100名
11. 研修の主な内容  研修の期間・実施回数 研修の参加人数	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム高齢者医療コースの研修生 看護師3名に対して、高齢者の「チーム医療」「病院給食」「栄養管理」等について講義を行った。 2024/7 1回1～2.5時間、計4回 3名
12. 研修の主な内容  研修の期間・実施回数 研修の参加人数	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム栄養医療コース研修生に対して、「栄養の基礎」について講義を行った。 2024/12/21、40分、1回 約30名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 黒田 良祐
管理担当者氏名	薬剤部長 矢野 育子 総務課長 丹治 義之 管理課長 高安 健一 学務課長 勝呂 新 研究支援課長 玉田 和大 医事課長 足立 隆昌 医療支援課長 吉野 活己

		保管場所	管理方法		
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医療支援課	病歴資料については診療録センターで集中管理を行い、エックス線写真、処方せん、病院日誌各診療科日誌は当該担当部署において、保管している。 診療記録は2008年より電子カルテによる保管運用を開始している。紙媒体で生成される各種検査記録及び同意書等は、スキャナにより電子的情報として電子カルテに取り込み、保存している。 診療録の院外持ち出しは原則禁止としている。	
		各科診療日誌	各診療科		
		処方せん	薬剤部		
		手術記録	診療録センター		
		看護記録	診療録センター		
		検査所見記録	診療録センター		
		エックス線写真	各診療科		
		紹介状	診療録センター		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理	
		高度の医療の提供の実績	医事課		
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究支援課		
		高度の医療の研修の実績	総務課		
		閲覧実績	総務課		
		紹介患者に対する医療提供の実績	カルテ室		
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療支援課	パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療支援課	
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療支援課	
			医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療支援課	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療支援課	パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療支援課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療支援課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療支援課・薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療支援課・薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療支援課・薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課・薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	管理課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	管理課	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	管理課	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理課			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療支援課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療支援課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療支援課・薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療支援課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療支援課
		医療安全管理部門の設置状況	医療支援課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療支援課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療支援課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療支援課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療支援課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	大学 内部統制室・神戸海都法律事務所(外部窓口)
		職員研修の実施状況	医療支援課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療支援課
管理者が有する権限に関する状況	総務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

## 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画      2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 黒田 良祐
閲覧担当者氏名	薬剤部長 矢野 育子      総務課長 丹治 義之 管理課長 高安 健一      学務課長 勝呂 新 研究支援課長 玉田 和大      医事課長 足立 隆昌 医療支援課長 吉野 活己
閲覧の求めに応じる場所	・医学部管理棟(総務課)
閲覧の手続の概要 閲覧日の2週間前までに所定の申込書により総務課に申込を行い、応接室にて閲覧する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容： 「医療にかかる安全管理のための指針」を定め、以下の内容を記載している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全管理に関する基本的な考え方</li> <li>2. 医療安全管理委員会その他の病院の組織に関する基本事項</li> <li>3. 医療安全教育のための職員研修に関する基本方針</li> <li>4. 医療安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li> <li>5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>7. 患者等からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無） 本院における医療に係る安全管理体制の確保及び推進を目的に、神戸大学医学部附属病院医療安全管理委員会を設置し、原則として月1回開催し、次の事項について審議等を行っている。</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析</li> <li>2. 前号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員等への周知</li> <li>3. 前号の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直し</li> <li>4. インシデント、アクシデント等の報告（全死亡例及び一定基準以上の有害事象等の報告）の実施の状況の確認、必要な検証及び確認結果の報告</li> <li>5. 前号に規定する実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導</li> <li>6. その他医療安全管理に関すること</li> </ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容（すべて）： 病院職員（医員、研修医、専攻医、大学院生及び事務を含む全職種）を対象に、「医療安全に関する職員必修講習」を年2回実施している。</p> <p>【1回目】令和6年6月3日～6月28日開催 2024年度医療安全に関する職員必修講習Ⅰ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①「検査・処置における鎮静の安全管理」</li> <li>②「みんなで取り組むポストコロナの感染対策」</li> <li>③「抗菌薬と消毒薬の適正使用」</li> <li>④「薬剤の誤投与に係る死亡事例の分析」</li> <li>⑤「検査前工程の注意事項について～不適切な事例がもたらす不利益～」</li> </ol> <p>【2回目】令和6年12月2日～令和7年1月10日開催 2024年度医療安全に関する職員必修講習Ⅱ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①「特定機能病院に求められる医療安全管理」</li> </ol>	

<p>②「インスリンバイアル製剤による死亡事例をゼロにするために」</p> <p>③「冬季の院内感染症対策で覚えておきたいこと」</p> <p>④「抗菌薬と消毒薬の適正使用」</p> <p>⑤「医療機器の安全使用について」</p>
<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li> </ul> <p>(1) 院内で発生したインシデント事案と改善策の周知のため、各部署に配置した「質・安全マネジャー」を対象にした連絡会議を開催し、医療安全への意識を高めるよう努めている。      なお、質・安全マネジャーは「質・安全マネジャー連絡会議」を必修としている。(令和6年度開催実績：連絡会議6回)</p> <p>(2) 有害事象が発生した場合は、直ちに当該部署の質・安全マネジャーから医療の質・安全管理部へ連絡するとともにインシデント報告システムから報告することを義務付けている。医療の質・安全管理部は当該事象の検証を行なう。重大な結果が生じた事象は直ちに病院長に報告するとともに、緊急問題検討会議が召集され検証及び対応について審議する。</p> <p>(3) 医療安全、薬剤及び医療機器に関する重要事項の周知は、広報紙「くすのきスクエア」にまとめて発行し(令和6年度は年7回発行)、日本医療機能評価機構発行の医療安全情報と併せて配付している。      また、各部署内での回覧状況が確認できるよう専用ファイルで管理し、押印又はサインすることとしている。</p>

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：</li> <li>・ 院内感染対策に関する基本的考え方</li> <li>・ 院内感染対策のための委員会・組織</li> <li>・ 院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針</li> <li>・ 院内感染発生時の対応（報告体制含む）に関する基本方針</li> <li>・ 患者・家族等に対する指導およびインフォームドコンセントと当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>・ その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針（サーベイランス・院内ラウンド・抗菌薬適正使用支援・特定抗菌薬届出の監視・コンサルテーション・職業感染対策・マニュアルの編集</li> <li>・ 院内環境の整備）             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染制御の地域連携</li> </ul> </li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 13 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容：</li> <li>MRSA及び耐性菌の検出報告、アウトブレイク疑い対応、院内ラウンド報告、医療関連サーベイランス、感染管理リンクナース会報告、職業感染予防対策（新型コロナウイルス対策、結核曝露対策、ワクチン接種、血液・体液曝露予防など）、院内感染予防マニュアルの改訂、院内研修の計画・実施報告</li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 8 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：</li> <li>・ 新規採用者全員対象に、院内感染対策の基本と針刺し予防の講義（e-ラーニング）</li> <li>・ 全職種に対して、職員必修講習会として年2回実施。医療安全部門と共に、時期に応じて院内感染対策上重要なポイントおよびトピックスや実例について講演</li> <li>・ 職種別や部門別（医師、看護師、診療技術部門等）対象に、各職種に応じた現場で遵守すべき感染対策の知識や技術について資料配布、講義（e-ラーニング）、トレーニング</li> <li>・ 外部委託業者への講習会を職種別に講義（DVD配布）</li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （☑・無）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li> <li>感染症法に決められている届け出が必要な感染症の報告体制、および感染対策上重要な感染症に対する感染制御部を中心とした監視体制。</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li> <li>・ 感染対策実施状況を確認するために、オンタイムおよび随時(4-5回/週)に院内ラウンドを実施し、必要時指導。</li> <li>・ 抗菌薬使用状況を継続的に調査し、毎週開催の抗菌薬適正使用プロジェクトで抗菌薬の使用をメール審議し、随時介入指導。</li> <li>・ 現場医療従事者からのコンサルテーションをうけて、随時対応。</li> <li>・ 侵襲処置・医療器具関連感染、血液・体液曝露のサーベイランスを実施</li> <li>・ 職員に対してB型肝炎、4種ウイルス(麻疹、風疹、水痘、ムンプス)のワクチン歴や抗体価の調査およびワクチンの推奨を行い、データ管理を実施。</li> <li>・ 新興・再興感染症の対応を協議し、院内全体に感染防止対策を周知徹底</li> <li>・ 改築、改修時の院内のファシリティーマネジメントの実施。</li> <li>・ 医学科学生（BSL前）及び保健学科学生に、感染防止対策の講義と手指衛生や個人防護具の使用方法について演習（オンライン含む）を実施。</li> </ul>

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 18 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 新規採用職員を対象としたオリエンテーションで医療安全を含めた医薬品に係る講習（e-ラーニング形式）を実施した。内容は、処方箋の記載方法、医薬品の取り扱い方法、院内の薬剤に関する運用方法、薬剤関連の重大インシデント等である。</p> <p>(2) 全職員を対象とした講習会（e-learning形式）を6月に実施した。テーマは「薬剤の誤投与に係る死亡事例の分析」である。習熟度確認のため、講習会終了後はマークシート方式による確認試験を実施した。</p> <p>(3) 薬剤部では部内で発生したインシデント事例等を情報共有する「薬局会」を月1回開催している。参加者には会終了後にアンケートを記載させており、薬剤部長、副薬剤部長、薬剤主任等はそれを回覧し業務改善に繋げている。</p> <p>(4) 例年通り、新人看護師を対象として「薬剤の基礎知識」をテーマとする講習会を実施した。また、病棟看護師を対象に「精神科治療薬」「糖尿病薬」「睡眠薬・抗精神病薬」等をテーマとした短時間講習を実施した。</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （有・無）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>「医薬品の安全使用のための業務手順書」は必要に応じて改訂しているが、少なくとも年1回は改訂を行い医薬品安全管理委員会で審議し、医療安全管理委員会で承認を得ている。また、薬剤部職員はこの手順書に基づき作成した「医薬品安全管理点検表」を用いて薬剤部以外に保管する医薬品等の管理状況を確認している。管理状況に不備がある場合は管轄看護師長等に連絡し改善を依頼する。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無）</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>未承認新規医薬品については2事例承認した。具体的には①皮膚科「CHILD症候群に対する1%アトルバスタチン・2%コレステロール混合外用治療」、②小児科「Lambert-Eaton筋無力症候群に対する3,4」である。</p> <p>適応外使用については5事例承認した。具体的には①小児科「SLEに対するアニフロルマブ静注療法」、②腫瘍・血液内科「特発性肺炎症候群（IPS）に対するエタネルセプトの使用」、③消化器内科「エノキサパリンナトリウムによる入院中の炎症性腸疾患患者に対する血栓塞栓症予防」、④皮膚科「ベッカー母斑症候群の片側乳房低形成に対するスピロノラクトン内服療法」、⑤呼吸器内科「ステロイド治療抵抗性の免疫関連尿管炎・膀胱炎に対するインフリキシマブでの治療」である。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 薬剤部の薬品情報室はPMDAナビや各種ホームページの閲覧によりイエローレター、ブルーレターを含む医薬品の安全使用のために必要な情報収集を行っており、得られた情報は速やかに院内周知している。また、イエローレター、ブルーレターについては当該薬剤の使用患者リストを病棟薬剤師に提供し、副作用発現状況等を確認すると共に、主治医等に情報提供を行っている。</p> <p>(2) 2016年9月より、薬剤部の主任質・安全マネジャーと医薬品安全管理者は安全使用の確認を目的として使用状況の確認を行う医薬品を選定し、薬品情報室に処方状況のデータ収集作業の指示を出している。その情報は必要に応じて院内発行紙の「くすのきスクエア」に掲載して院内周知を図ることとし、必要に応じて、医療の質・安全管理部が院内ラウンドを行う際に周知状況の確認を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年210回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>令和6年度は全体研修会13回、安全使用研修35回、新規導入等研修125回、その他放射線部研修37回</p> <p>(1) 職員必修講習</p> <p>a. 除細動器・AEDについて</p> <p>(2) 医療機器安全に関する必修講習（前・後期）</p> <p>a. 人工呼吸器について</p> <p>b. 血液浄化装置について</p> <p>c. 人工心肺装置・補助循環装置について</p> <p>d. 閉鎖式保育器について</p> <p>(3) その他の特定保守管理装置の講習</p> <p>a. 診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置について</p> <p>(4) 新入職員等のための研修</p> <p>a. 輸液・シリンジポンプ</p> <p>b. 人工呼吸器</p> <p>c. 血液浄化装置</p> <p>(5) 新規導入機器・機器配置変更等のための研修会</p> <p>a. 人工呼吸器</p> <p>b. 補助循環装置</p> <p>c. 血液浄化装置</p> <p>d. その他</p> <p>(6) 医療機器安全使用・適正使用に関する研修等</p> <p>a. 人工呼吸器</p> <p>b. 血液浄化装置</p> <p>c. その他</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>(1) 人工心肺装置・補助循環装置（IABP、経皮的補助循環装置、体外設置型補助人工心臓装置）、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、CTエックス線装置、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、磁気共鳴画像診断装置等の保守点検を実施</p> <p>(2) 補助循環装置、人工呼吸器、生体情報モニター、除細動装置等の日常点検を実施</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：</p>	

・ その他の改善のための方策の主な内容：

- (1) 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施
- (2) 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の適切な実施
- (3) 医療機器の安全使用のための情報の収集（不具合情報、安全情報、健康被害等情報）
  - a. 収集した情報は医療機器安全管理委員会に報告している。
  - b. 医療機器安全管理委員会から関連部署へ通知し周知を図っている。
  - c. 医療安全管理委員会へ不具合情報ならびにその対応について報告している。
- (4) 未承認等の医療機器を用いた医療の提供
- (5) 医療機器の安全確保を目的とした改善方策の実施
- (6) 医療機器の添付文書及び取扱説明書の管理

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師）          ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>副病院長（リスクマネジメント担当）を医療安全管理責任者に選任し、医療の質・安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（4名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医療の質・安全管理部と連携し、令和6年度は年5回発行した「くすのきスクエア」（医療安全、医療機器、薬剤）により周知徹底を図った。また、薬品情報室ニュース（採用薬・副作用・安全性情報）を適宜発信し周知している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認薬についてはすべて審査対象としている。適応外使用については、医薬品安全管理委員会にて「医薬品に関する未承認、禁忌、適応外使用に関する相談フォーム」を作成し、適応外使用のうち高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等実施審査委員会で審査を要する範囲を定めて運用している。</p> <p>・担当者の指名の有無（有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：          （所属： 薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （有・無）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：インフォームドコンセントに関する責任者が定期的に入院診療録のピアレビューを行い、不十分な場合には適切に実施されるよう研修・指導を行っている。医師による次の7項目のカルテ記載</p>	

を必要としている。 1. 対象者（患者またはその代諾者） 2. 説明場所 3. 説明日時 4. 同席者（医療者） 5. 説明内容 6. 説明時の患者またはその代諾者の反応等 7. 患者またはその代諾者に同意を得たこと	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 診療録管理責任者は、定期的に診療録等の記載内容の確認を行い、不十分な場合は、記載方法や内容の研修・指導等を行っている。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有)・無
・所属職員：専従（４）名、専任（２）名、兼任（６）名 うち医師：専従（１）名、専任（１）名、兼任（３）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： 医療安全に関すること (1) 医療安全管理委員会の方針に基づき、同委員会と連携し、院内の医療安全に努める。 (2) インシデント事例収集、分析及び再発防止策を立案する。 (3) インシデント・アクシデント審議会、事例検証会等を開催し、事例の検証、調査及び対策の立案を行う。 (4) 医療安全活動の企画、立案を行う。 (5) 院内外で収集した医療安全情報の院内周知や医療安全に関する職員教育を行う。 (6) 高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関する適否判断と導入後のモニタリングを行う。 (7) 医療安全に配慮した各種マニュアルの作成、改訂を行う。 (8) その他、医療安全に関する業務を行う。 医療の質に関すること (1) 医療情報から医療の質の評価に役立つ指標を病院戦略室と協働で分析、評価する。 (2) 医療の質において評価が低く、問題となった点の分析、改善策の立案を行う。 (3) 臨床倫理に関した事例等の対応支援を行う。 (4) 総合的質管理委員会、業務標準化委員会と連携し、医療の質向上に努める。 (5) 部門横断的な質改善活動等、院内の医療の質改善活動の支援を行う。 (6) その他、医療の質改善に関する業務を行う。 モニタリングの具体例 院内死亡事例、院内急変事例、転倒・転落発生率ならびに損傷発生率、など ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（３件）、及び許可件数（３件）	

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
  - (1) 病院長の命を受け、新規医療技術等の責任者として業務を掌理する
  - (2) 新規医療技術等の適否等について関係各部署に対し、意見を求める
  - (3) 決定した内容及び規程等の遵守状況を病院長に報告する
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（7件）、及び許可件数（7件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
  - (1) 病院長の命を受け、未承認新規医薬品等を用いた医療の責任者として業務を掌理する。
  - (2) 未承認新規医薬品等を用いた医療提供の適否について関係各部署に対し、意見を求める。
  - (3) 決定した内容及び内規等の遵守状況を病院長に報告する
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 317 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 96 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
  - (1) 重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな

- 原因の究明のための調査及び分析
- (2) 分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員等への周知
  - (3) 改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直し
  - (4) インシデント、アクシデント等の報告（全死亡事例及び一定基準以上の有害事象等の報告）の実施の状況の確認、必要な検証及び確認結果の報告
  - (5) 実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導
  - (6) その他医療安全管理に関すること

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有病院名：高知大学医学部附属病院）・無
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有病院名：札幌医科大学附属病院）・無
- ・技術的助言の実施状況

<助言内容1>

医師の医療事故の報告数をより向上するため、早期からの医療安全に関する文化醸成を目的とし、研修医によるインシデントレポート報告の取り組みを提案したい。

<具体的な取り組み1>

- ・総合臨床教育センターの質・安全マネジャーとの連携を強化し、各部署や各部門から報告される事例のうち、初期研修医が関与している可能性が高い事例については、総合臨床教育センターの質・安全マネジャーにも当該報告書を共有している。また、今年度新たに「研修医が関与するインシデント・アクシデント発生後の手順について」のフローが作成された。作成にあたり、医療の質・安全管理部も協働している。

<助言内容2>

院外処方における監査法、特に併用禁忌アラートが発出できないことについて、システムによる解決が難しい事象ではあるが、院外薬局との連携推進や診療科への情報提供など、コミュニケーション強化を目指した取り組みが解決の一助となりうる。

<具体的な取り組み2>

- ・医師の処方オーダー時に院内システムによる併用禁忌チェックを実施しており、当院からの処方におけるリスクを最小化している。院外薬局で発生した医師への疑義照会や処方変更については、トレーシングレポートなどを通じてフィードバックを受けており、病院ではその内容を患者カルテに反映させることで、処方医および院内全体で情報を共有する体制を構築している。こうした取り組みにより院外薬局との連携推進に努めている。

<助言内容3>

高難度新規医療技術実施後の能動的なモニタリングは、難しい課題ではあるが、モニタリングを通じて報告忘れがなくなることに期待したい。

課題としては、高難度新規医療技術の事前把握と手術室など関連部門への周知を挙げていた。診療科に報告を働きかけたりする等、課題解決に向けて取り組んでいるものもあるので、継続していた

だきたい。

<具体的な取り組み3>

- ・高難度新規医療技術・新規医療技術承認後のフロー図を作成し医療安全管理マニュアルに掲載すると同時に、該当技術申請者を招集し説明会を計3回開催した。また、当該技術施行前後の報告の流れがわかるように用紙を作成し、当該技術説明書/同意書一式にその用紙を挟み込むようにした。技術施行前の平日17時まで報告いただくよう周知した。さらに、高難度新規医療技術該当診療科には年2回、「高難度新規医療技術一覧」「セルフチェックシート」を該当診療科長宛にメールで送信していたが、間の3カ月時点で通知書を送付することとした。

<助言内容4>

Incidental findings についての放射線科との連携に関して、電話連絡だけでなく、システムを介した更なる関係強化を期待する。

<具体的な取り組み4>

- ・未読アプリ上で重要所見としてフラグが立つようになっている。個別の患者の電子カルテを開いた際に、未読の所見があればメッセージが表示される他、未読状態が長期となる場合は電子カルテ内のメールで通知が送信される。これらは助言を受けた時点で実装されている。電子システム上でのこれ以上の介入は難しい。加えて、月に2回医療の質・安全管理部で Incidental findings を含めた重要所見については適切な対応がとられているか電子カルテを確認し、未対応の場合はメールで対応を依頼している。依頼時には前回依頼分の未対応事例について再度電子カルテを確認し、対応の漏れが無いようにしている。また、その内容は病院長、医療安全管理責任者とも情報共有している。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者支援センターに入退院支援・総合相談部門を置き、患者相談業務を行っている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 病院職員（医員、研修医、専攻医、大学院生及び事務を含む全職員）を対象に、「医療安全に関する職員必修講習」を年2回実施している。

【1回目】令和6年6月3日～6月28日開催

2024年度医療安全に関する職員必須講習Ⅰ

- ①「検査・処置における鎮静の安全管理」
- ②「みんなで取り組むポストコロナの感染対策」
- ③「抗菌薬と消毒薬の適正使用」

- ④「薬剤の誤投与に係る死亡事例の分析」
- ⑤「検査前工程の注意事項について～不適切な事例がもたらす不利益～」

【2回目】令和6年12月2日～令和7年1月10日開催

2024年度医療安全に関する職員必修講習Ⅱ

- ①「特定機能病院に求められる医療安全管理」
- ②「インスリンバイアル製剤による死亡事例をゼロにするために」
- ③「冬季の院内感染症対策で覚えておきたいこと」
- ④「抗菌薬と消毒薬の適正使用」
- ⑤「医療機器の安全使用について」

2. 院内で発生したインシデント事案と改善策の周知のため、各部署に配置した「質・安全マネジャー」を対象とした連絡会議を開催し、医療安全への意識を高めるように努めている。

【1回目】令和6年5月30日 質・安全マネジャー連絡会議

「前年度インシデントの振り返り」

【2回目】令和6年7月29日 質・安全マネジャー連絡会議

「MET症例を振り返って」

【3回目】令和6年10月4日 質・安全マネジャー連絡会議

「ニューモシスチス肺炎の予防」

「ステロイド治療の合併症とその対策」

「ステロイドを使うみなさんに知っておいてほしいこと」

【4回目】令和6年11月22日 質・安全マネジャー連絡会議

「薬剤関連インシデントについて」

「術前休薬一覧と患者支援センター薬剤師外来診療棟の運用について」

「糖尿病治療薬の休薬～みなさまに知っておいてほしいこと～」

【5回目】令和7年1月31日 質・安全マネジャー連絡会議

「薬剤のダブルチェック関連のインシデントについて」

【6回目】令和7年3月27日 質・安全マネジャー連絡会議

「医療安全管理マニュアル第19版の改訂箇所について」

「高難度新規医療技術・新規医療技術承認後のフローについて」

「医療安全管理マニュアル第19版「褥瘡」の改訂について」

「医薬品副作用被害救済制度について」

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

公益財団法人日本機能評価機構が主催する令和6年度特定機能病院管理者研修を受講

管理者(令和7年2月14日受講)、医療安全管理責任者(令和6年12月12日受講)、医薬品

安全管理責任者(令和7年1月17日受講)、医療機器安全管理責任者(令和6年11月26日受

講)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

- 令和3年10月27日から令和3年10月29日にかけて、公益財団法人日本医療機能評価機構（以下、機構）が実施する病院機能評価のうち、一般病院3による評価を受審した。
- 令和3年12月24日に機構から中間的な結果報告を受領した。
- 令和4年1月25日に機構へC評価項目（6項目）に対する補足的な審査の受審意向登録（申込み）後、令和4年2月4日に改善報告書を提出した。
- 令和4年3月3日にC評価項目の内容及び改善報告書に基づき「訪問による審査」の旨が決定され、令和4年4月11日補足的な審査を受審した。
- 令和4年6月3日付けで、「認定留保」となった旨、審査結果を受領した。
- 令和4年6月28日付けで審査結果報告書を受領し、この日から起算して6ヵ月以内に再審査を受審し、改善要望事項として挙げられた4項目に係る改善の取り組みが評価できる資料を提出することとされている。
- 令和4年7月25日付けで、再審査の申込みを行った。
- 令和4年11月14日付けで、再審査に係る報告資料の提出を行った。
- 令和5年2月24日、再審査を受審した。
- 令和5年4月7日付けで、日本医療機能評価機構から「認定」の通知を受領した。
- 令和6年10月28日付けで、審査結果報告書において改善要望事項として挙げられた4項目について改善審査の連絡があった。
- 令和7年4月21日付けで、改善審査の申込みを行った。
- 令和7年4月30日、改善審査を受審した。
- 令和7年8月22日付けで、日本医療機能評価機構から「認定留保」となった旨、審査結果を受領した。この日から起算して6ヵ月以内に再審査を受審し、改善要望事項として挙げられた2項目に係る改善の取り組みが評価できる資料を提出することとされている。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

本院ホームページに専用ページを開設しており、認定証及び日本医療機能評価が作成する「審査結果報告書」を公表している。

・評価を踏まえ講じた措置

認定留保の審査結果を受け、「C」評価と判定された事項を重点的に改善に取り組み、病院全体で医療の質の向上に向けた取り組んだ。

#### 1. 職員への情報共有

認定留保の審査結果を受け、病院執行部会議、病院運営審議会、業務連絡会議の病院の主要会議で報告し、病院職員へ情報共有を行った。

#### 2. 改善に向けた取り組み

##### (1) 令和7年度「病院の目標」の設定

本来の特定機能病院・高度急性期病院としての機能をしっかりと確保していくため、また、病院機能評価をきっかけとした特定機能病院としての機能の更なる充実を目標とし、令和7年度の「病院の目標」を定めた。病院全職員に対し、病院機能の更なる改善、充実に向かって継続的な取り組みを進めるよう、周知を行った。

##### (2) 職員必修講習の実施

職員向け必修講習として病院機能評価受審において改善要望された項目を含む医療安全に関する講習会を実施した。インシデント防止における薬剤の一施用理の有効性、ハイリスク薬の取扱いなど医療に係る安全管理のための基本的な考え方及び具体的方策について職員に周知徹底を図るため、e-learningによる講義を行った。

##### (3) コアミーティングの実施

病院長をはじめ病院執行部を中心としたメンバー構成で、改善要望事項の課題解決に向けたミーティングを隔週で実施した。各関係部署で改善に向けたロードマップを作成して課題解決に向けて対応を行うとともに、コアミーティングでは、その進捗状況を確認し必要に応じて病院全体で改善に向けて対応を行った。

##### (4) 「認定期間中の確認」に向けて取り組み状況の確認

病院機能評価の認定を受けてから3年目となる年に、病院における質改善活動の取組状況の確認及び報告が必要であるため、日本医療機能評価機構から「B」評価と判定された項目について、改善策に対する進捗状況の報告・確認を行い、令和7年に報告した。各部署において認定時から継続して病院の質改善に向けた取り組みを実施しており、医療の質と安全の継続的な向上につなげている。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 医療法第10条に規定された病院の管理者として要件を満たす医師であること。</li> <li>(2) 大学附属病院の管理運営に必要な資質・能力を有すること。</li> <li>(3) 医療安全管理業務の経験並びに医療安全を第一に考える姿勢及び指導力を備え、医療安全確保のために必要な資質・能力を有する者であること。</li> <li>(4) パンデミック等の予期せぬ事態が発生した際の適切な医療体制整備及び運営に必要な資質・能力を有する者であること。</li> <li>(5) 神戸大学医学部附属病院の理念・基本方針を理解し、その実現に向けた強い意思とリーダーシップを有すること。</li> </ol> </li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有 ）</li> <li>・ 公表の方法 大学ホームページ</li> </ul>
---

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ ）</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ ）</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ ）</li> <li>・ 公表の方法 大学ホームページ</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の 関係
木戸 良明	理事(企画・人事・総務・病院担当)	○	神戸大学医学部附属病院長候補者選考会議規程第3条第1項第1号	有
河端 俊典	理事(研究・社会共創・イノベーション担当)		神戸大学医学部附属病院長候補者選考会議規程第3条第1項第1号	有
村上 卓道	大学院医学研究科長		神戸大学医学部附属病院長候補者選考会議規程第3条第1項第2号	有
石田 達郎	大学院保健学研究科長		神戸大学医学部附属病院長候補者選考会議規程第3条第1項第3号	有
福本 巧	医学部附属病院肝胆膵外科長・教授		神戸大学医学部附属病院長候補者選考会議規程第3条第1項第4号	有
鈴木 康之	兵庫県立淡路医療		神戸大学医学部附属病院長候補者	無

	センター 院長		選考会議規程第3条第1項第5号	
堀本 仁士	神戸市医師会長		神戸大学医学部附属病院長候補者 選考会議規程第3条第1項第5号	無
山下 輝夫	兵庫県保健医療部 長		神戸大学医学部附属病院長候補者 選考会議規程第3条第1項第5号	無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有) 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合議体の主要な審議内容               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 主要人事（病院管理部門の長，診療支援・企画部門の長，診療科長，中央診療部門の長，専門診療施設等の長，薬剤部長，看護部長及び医療技術部長）に関する事項</li> <li>(2) 病院組織の改編に関する事項</li> <li>(3) 人事制度，定員の変更に関する事項</li> <li>(4) 予算の配分及び執行並びに決算に関する事項</li> <li>(5) その他答申を行うべき事項</li> </ul> </li>   <li>・ 審議の概要の従業者への周知状況               <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ及び業務連絡会議にて報告</li> </ul> </li>   <li>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（(有) 無）</li> <li>・ 公表の方法               <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ</li> </ul> </li>   <li>・ 外部有識者からの意見聴取の有無（有 (無)）               <ul style="list-style-type: none"> <li>※内規上は、必要と認められる時に意見を聴取できることとされているが、令和6年度においては聴取していない。</li> </ul> </li> </ul>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
黒田 良祐	○	大学教員（医師）	病院長
眞庭 謙昌		大学教員（医師）	国際がん医療・研究センター長
大竹 寛雅		大学教員（医師）	副病院長
菱本 明豊		大学教員（医師）	副病院長
三宅 秀明		大学教員（医師）	副病院長
岡田 健次		大学教員（医師）	副病院長
野津 寛大		大学教員（医師）	副病院長
板東 由美		看護師	副病院長
前田 英一		大学教員（医師）	病院長補佐

伊藤 智雄		大学教員（医師）	病院長補佐
児玉 裕三		大学教員（医師）	病院長補佐
尾藤 祐子		大学教員（医師）	病院長補佐
寺井 義人		大学教員（医師）	病院長補佐
篠山 隆司		大学教員（医師）	病院長補佐
乙井 一典		大学教員（医師）	診療科長
三枝 淳		大学教員（医師）	診療科長
浅原 俊一郎		大学教員（医師）	診療科長
千原 典夫		大学教員（医師）	診療科長
南 博信		大学教員（医師）	診療科長
岩田 健太郎		大学教員（医師）	診療科長
村上 卓道		大学教員（医師）	診療科長
佐々木 良平		大学教員（医師）	診療科長
久保 亮治		大学教員（医師）	診療科長
掛地 吉弘		大学教員（医師）	診療科長
福本 巧		大学教員（医師）	診療科長
國久 智成		大学教員（医師）	診療科長
中村 誠		大学教員（医師）	診療科長
榊原 俊介		大学教員（医師）	診療科長
小幡 典彦		大学教員（医師）	診療科長
明石 昌也		大学教員（歯科医師）	診療科長
小谷 穰治		大学教員（医師）	診療科長
酒井 良忠		大学教員（医師）	診療科長
瀧本 禎之		大学教員（医師）	病院管理部門の長
宮良 高維		大学教員（医師）	病院管理部門の長
高橋 路子		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長
青井 貴之		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長
村垣 善浩		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長

松岡 広		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の 長
宮西 正憲		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の 長
千藤 荘		大学教員（医師）	中央診療部門の長
増田 充弘		大学教員（医師）	専門診療施設等
永瀬 裕朗		大学教員（医師）	専門診療施設等
山口 雅人		大学教員（医師）	専門診療施設等
福沢 公二		大学教員（医師）	専門診療施設等
立原 素子		大学教員（医師）	専門診療施設等
多田 俊史		大学教員（医師）	専門診療施設等
矢野 育子		大学教員（薬剤師）	薬剤部長
今西 孝充		臨床検査技師	医療技術部長
菊池 博之		事務職員	事務部長

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有 無）
- ・ 公表の方法  
ホームページ
- ・ 規程の主な内容  
医学部附属病院規則第3条第2項に「病院長は、病院全般の管理、運営を総括し、所属職員（病院配置教員を含む。）を監督する。」とある。職員の任免については、病院内の内部規則で定めたもの以外は、学長の任免になるが、その職員の選考（人選）にあたっては、病院長に権限が付与されている。副病院長、病院長補佐については、それぞれの設置要項により病院長の指名となる。  
主要人事（病院管理部門の長、診療支援・企画部門の長、診療科長、中央診療部門の長、専門診療施設等の長、薬剤部長、看護部長及び医療技術部長）及び予算の配分等の重要事項については、医学部附属病院規則第3条第3項、執行部内規第3条及び運営審議会内規第4条により、病院長及び副病院長等により組織される執行部等において決定される。以上のことから、病院長に一定の人事・予算執行権限が付与されていることを明確化している。
- ・ 管理者をサポートする体制（副病院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
- ・ 神戸大学医学部附属病院副病院長設置要項を定めており、副病院長は、病院長の職務を分担し、病院長不在の際はその職務を代行することとなっている。
- ・ 神戸大学医学部附属病院病院長補佐設置要項を定めており、病院長補佐は、病院の管理運営等に関する個別の具体的事項について企画立案を行い、病院長に提言することとなっている。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
- ・ 人事について  
病院内の内部規則で定めたもの以外は、学長の任免になるが、その職員の選考（人選）にあたっては、病院長に権限が付与されている。副病院長、病院長補佐については、それぞれの設置要項により病院長の指名となる。  
また、主要人事（病院管理部門の長、診療支援・企画部門の長、診療科長、中央診療部門の長、専門診療施設等の長、薬剤部長、看護部長及び医療技術部長）については、医学部附属病院規則第3条第3項、執行部内規第3条及び運営審議会内規第4条により、病院長及び副病院長等により組織される執行部等において決定される。
- ・ 研修について  
公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「特定機能病院管理者研修」を病院のマネジメントを担う者（管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者）に受講させ、その育成を行っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>下記業務について、病院長に対し報告を求め、必要に応じて実地監査を行う</p> <p>(1) 医療安全管理に係る体制</p> <p>(2) 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務の状況</p> <p>(3) 医療の質・安全管理部の業務の状況</p> <p>(4) 医療に係る安全管理のための委員会等の業務の状況</p> <p>(5) その他医療安全管理に関して必要な事項</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 )</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 )</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 )</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 )</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>ホームページ</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
土井 智文	日本赤十字病院 神戸赤十字病院 副院長兼内科部長	○	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する その他学識経験を有する者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
丸山 英二	京都府立医科大学 大学院医学研究科 客員教授(非常勤)		医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する その他学識経験を有する者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
花田 裕之	一般財団法人 神戸市学校給食会会長		医療を受ける者 その他の医療従事者以外の者	有 <input type="radio"/> 無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制については、国立大学法人神戸大学内部監査規程（平成16年4月1日制定）に定める内部監査その他の本学において実施する各種監査により整備されている。

病院運営管理では、法令諸規則に準拠した運用がされているかについて内部監査及び実地監査を行い、医療安全管理では、外部監査の意見、相互レビューの助言について対応措置が講じられているかについて監査を行う。

なお、管理者は、内部統制システム（e-learning）研修を受講し、病院における内部統制システム実施状況を定期的に学長に報告している。

学長は、報告の結果必要と認めるときは、内部統制委員会の議を経て改善を管理者に命ずる。

管理者は、改善内容及び結果について学長に報告する。

・ 専門部署の設置の有無（  有 ・  無 ）

・ 内部規程の整備の有無（  有 ・  無 ）

・ 内部規程の公表の有無（  有 ・  無 ）

・ 公表の方法  
ホームページ

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 開設者（学長）による特定機能病院（医学部附属病院）の業務の監督に係る体制については、病院業務監督会議において、病院の運営方針、中期計画、予算及び決算その他の附属病院の管理運営に関する重要事項について監督されており、確保されている。</li> <li>・ 会議体の実施状況（ 年1回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 ）（ 年1回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 ）</li> <li>・ 公表の方法 ホームページ</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：病院業務監督会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
木戸 良明	神戸大学	○	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
森山 睦	神戸大学		<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
山下 輝夫	兵庫県保健医療部		有 <input checked="" type="radio"/> 無
木下 芳一	兵庫県立はりま姫路総合医療センター		有 <input checked="" type="radio"/> 無
森 悦朗	大阪大学大学院連合小児発達学研究所		有 <input checked="" type="radio"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の  
情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )</li><li>・ 通報件数 (年 0 件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )</li><li>・ 周知の方法 ホームページ、医療スタッフポケットマニュアル、医療安全管理マニュアルに記載</li></ul>

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>方法：病院ホームページに記載</p> <p>内容：各種治療実績・成績、医療機能情報提供、先進的な医療について 等</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

② 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>呼吸器センター(呼吸器内科、呼吸器外科等)、腫瘍センター（腫瘍・血液内科、緩和 支持治療科等）、I C Uにて複数の診療科が連携し対応。</p>	